

石川武美記念図書館成篁堂文庫蔵古活字版悉皆調査目録稿【漢籍】

高木浩明

*キーワード

成篁堂文庫・徳富蘇峰・古活字版・漢籍・川瀬一馬

はじめに

本稿は、石川武美記念図書館（旧お茶の水図書館）成篁堂文庫に所蔵される古活字版三四四点のうち、漢籍（含準漢籍、仏書は除く）九七点についての悉皆調査の成果を報告するものである。

成篁堂文庫は、周知のように、徳富蘇峰（一八六三～一九五七）の蔵書を収めるもので、その蔵書は、昭和二五年、親交のあった石川武美（主婦の友社の創業者、一八八七～一九六一）が一括購入し、現在に至る。

石川武美記念図書館のホームページによると、成篁堂文庫が所蔵する古典籍・古文書の総数は約十万点冊に及び、古典籍は、奈良・平安時代から江戸時代までの国書・漢籍・仏書をはじめ、名家自筆本、中国の宋・元・明版、朝鮮本など、あらゆる分野にわたるといふ。さらに古文

書は、平安時代から近世にかけての大乗院文書、中世から近世初頭までの武家文書、寺社文書、幕末維新関係文書などを所蔵する。

蘇峰によって体系的に蒐集された古典籍の多くには、蘇峰自身の手による書き入れや傍線といった読書の形跡の他、蘇峰の思想や歴史観、当時の行動記録、入手の形跡、古書価格などが蘇峰の特徴のある墨筆で記されている他、いつ、どこの本屋で（古活字版は、琳琅閣書店や文行堂書店が圧倒的に多い）、いくらで購入したか鉛筆書のメモが本の見返しに残されており、貴重である。蘇峰によって記された識語やメモは、本稿でも漏れなく記述したが、蘇峰の特徴ある筆跡は、時に判読が難しく、やむを得ず空白のままにしている箇所があることをお断りしておく。識者のご教示を仰ぎたい。

凡例

一、各資料は、『内閣文庫漢籍分類目録』を参考に、四庫分類に従って配列したが、その順番は、整理の都合上、基本、五十音順に配列し直して記載した。

一、標題は原則として巻頭書名により記載し、標題を欠くものは□印で困んで明示した。

一、標題の上に記した算用数字は、収録した資料の通し番号である。さらにその上に※が付いている資料は、川瀬一馬著『増補古活字版之研究』（ABAJ、一九六七年）に未載の資料もしくは版種である。

一、書誌項目は、請求番号・体裁・表紙・題簽・内題・尾題・本文・匡郭・版心・丁数・刊記・印記・備考の二三項目についてできるだけ詳細に記述した。

一、備考欄には調査で知り得た情報を記載したが、「川瀬」とあるのは、川瀬一馬著『増補古活字版之研究』（ABAJ、一九六七年）における分類ならびに見解である。川瀬の見解に誤認があるものや、疑義のあるものについては稿者の見解を併せて記した。

一、本稿で用いた文字は、原則、常用漢字に統一したが、印記の文字については、印記そのままに記載した。

一、本稿は、稿者が古活字版を所蔵する機関ごとに継続して行っている悉皆調査の成果を報告するもの一つである。これまで、「古活字版

悉皆調査目録稿（一〜九）」（鈴木俊幸編『書籍文化史』第一〜一九集（二〇一〇〜二〇一八年）、「国文学研究資料館蔵古活字版悉皆調査目録稿—附、国立国語研究所・研医会図書館蔵本」（『調査研究報告』第三九号、国文学研究資料館、二〇一九年）、「大東急記念文庫蔵古活字版悉皆調査目録稿」（『調査研究報告』第四〇号、国文学研究資料館、二〇二〇年）、「国立国会図書館蔵古活字版悉皆調査目録稿」（『調査研究報告』第四三号、国文学研究資料館、二〇二三年）」を公刊した。合わせて御覧いただければ幸甚である。

経部 一 易類（一）周易

1、周易六卷（魏）王弼注

〔請求番号〕善本書目・六一六頁

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕新補黄褐色布目地表紙。二七・七×一八・一。一種。康熙綴。

〔題簽〕無。左肩に「慶長活字周易 乾（坤）」。右下に「蘇峯珍藏」と墨書（蘇峰筆）。

〔内題〕「周易上經乾伝第一（〜下経豊伝第六）／王弼注」。

〔尾題〕「周易卷第一（〜六）終」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二一・四×一五・三）糧、有界。注小字双行。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「周易卷一（一六・周易） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七八丁（上経乾伝第一・三三丁、上経泰伝第二・二二

丁、上経噬嗑伝第三・二四丁）、第二冊、八〇丁（下経咸伝第四・二八丁、下経夬伝第五・三〇丁、下経豊伝第六・二一丁、五・六丁欠、跋・一丁）。

〔刊記〕末に慶長十年、西笑承兌の跋刊（慶長十年星集乙巳孟夏初五日／鹿苑西笑叟承兌）あり。

〔印記〕「篁邨島／田氏家／藏圖書」（朱長方印）、「島田氏／雙桂園／藏書記」（墨方印、以上二印、島田篁村、一八三八～一八九八）、「島田翰／讀書記」（朱長方印、陰刻、島田翰、一八七九～一九一五）、「徳富／猪一郎」（朱方印、陰刻）、「須愛護／蘇峰／囑」（朱印）、「徳富文庫」（朱長方印）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「蘇峰／學／人」（朱方印）、「蘇峯／珍藏」（朱長方印）。
〔備考〕伏見版。無書入。第一冊の前遊紙に識語、「島田翰珍襲／王注周易合釘一本圓光寺刊六卷増重意重言本」（蘇峰筆）、第二冊の巻末に島田翰の墨識語、「是書太夫人□衣所獲卷首捺先君子凶章者／□不忘其原也 癸卯二月島田翰識二十五歳」。桐箱入、「慶長活字周易 二冊」と墨書のある紙片を貼付。

経部 一 易類 (一) 周易

2、周易六卷 (魏) 王弼注

〔請求番号〕善本書目・六一六頁

〔体裁〕大本、五冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙（原表紙か）。二八・八×

一九・八糎。四針袋綴。第五冊の後表紙のみ改装。

〔題簽〕無。左肩に「周易注 一二（終九／畧例上下）」と打付書。

〔内題〕「周易上経乾伝第一（～周易下経豊伝第六）／（低十二格）王弼註」、「周易繫辞上第七（～周易説卦卷第九）／（低十一格）韓康伯註」、「周易略例序／（低八格）唐四門助教邢璣」、「周易略例卷第十／略例上（九格空）邢璣註」。

〔尾題〕「周易卷第一（二・四・五・七～十）」、「周易上経卷第三」、「周易下経卷第六」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。

〔匡郭〕四周双辺（二〇・六×一四・一糎）、有界。注小字双行。

〔版心〕黒口下向きの黒魚尾二つ、中縫、「周易卷一（一十）」、「丁附」。

〔丁数〕第一冊、四五丁（上経乾伝第一・二七丁、上経泰伝第二・一八丁）、第二冊、四三丁（上経噬嗑伝第三・一九丁、下経咸伝第四・二四丁）、第三冊、四六丁（下経夬伝第五・二六丁、下経豊伝第六・二〇丁）、第四冊、三三丁（繫辞上第七・一七丁、繫辞下第八・一五丁）、第五冊、三七丁（説卦卷第九・一三丁、略例序・一丁半、略例卷第十・二二丁半、二丁裏～一八丁表・4、略例上、一八丁表・5～二四丁表、略例下）。

〔刊記〕「（低八格）関東下総住正運刊焉」。

〔印記〕「大學／藏書」（朱方印）、「拂下印」（朱長方印）、「昌平坂／學問所」（墨長方印、表紙と巻末）、「文政癸未」（朱印）、「徳富／猪一／郎印」（朱方印、陰刻）、「蘇／峯」（朱方印）、「須愛護／蘇

峰／囑」(朱印)、「徳富／文庫」(朱方印)「徳富文庫」(朱長方印)、「鉢峰／清賞」(朱方印、陰刻)、「自彊不息」(朱長方印)。他一印。

〔備考〕 本来、巻末にある慶長十年洞轍子祖博の跋文を欠く。巻第六まで朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名が施されている。第五冊の後表紙の見返しに鉛筆書購書メモあり。「38・4・10 (明治三八年四月一〇日) / 五冊磯部屋と / 古文旧書考 / 五部ヲ以テ代フ」。川瀬、二二七・三二二頁、(二) 慶長十年刊本(洞轍子祖博跋・正運刊)。図録篇・一六一図に成篁堂文庫本の刊記部分の図版を収む。桐箱入。「慶長版／周易」と墨書。

経部 一 易類 (一) 周易

3、周易 一〇巻 王弼註・韓康伯註・邢璣註

〔請求番号〕 善本書目・六二〇頁

〔体裁〕 大本五冊。

〔表紙〕 原裝(押八双有) 茶色表紙。二六・七×一八・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。無題。

〔内題〕 「周易上經乾伝第一 / (低十二格) 王弼註」(〜周易略例卷第十

／略例(九格空) 邢璣註」。

〔尾題〕 「周易卷第一」(〜周易卷第十)。

〔本文〕 每半葉七行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(二〇・四×一四・三糎)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「周易卷一(〜十) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四五丁(巻第一・二七丁、巻第二・一八丁)、第二冊、

四三丁(巻第三・一九丁、巻第四・二四丁)、第三冊、四六丁

(巻第五・二六丁、巻第六・二〇丁)、第四冊、三三丁(巻第七・

一七丁、巻第八・一五丁)、第五冊、三七丁(巻第九・二三丁、

略例序・一丁半、略例卷第十・二三丁半)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」(双、朱方印)。

〔備考〕 墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬、二二七・

三七二・八一四頁、(三) 慶長中刊無刊記本、第一種(イ)。図

録篇八一四図(天理) 参照。

経部 二 書類 (一) 尚書

4、尚書 一三巻

〔請求番号〕 善本書目・六二二頁

〔体裁〕 大本四冊。

〔表紙〕 原裝(押八双有) 茶色渋引表紙。二八・八×二〇・七糎。五針

袋綴。

〔題簽〕 無。無題。

〔内題〕 「尚書序」、「尚書目錄」、「尚書卷第一(〜十三)」。

〔尾題〕 「尚書卷第一(〜十三)」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字、一画一画が太い活字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二二・一×一六・三糰、卷第一、二二・〇×一六・五糰）、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「尚書序（目録・一〜十三） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四七丁（序・三丁、目録・二丁、卷第一・一二丁、卷第二・一五丁、卷第三・一五丁）、第二冊、四七丁（卷第四・一六丁、卷第五・一九丁、卷第六・一二丁）、第三冊、五五丁（卷第七・二〇丁、卷第八・二〇丁、卷第九・一五丁）、第四冊、五五丁（卷第十・一九丁、卷第十一・一五丁、卷第十二・一五丁、卷第十三・六丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「中原」（朱長方印、陰刻）、「出／納」（双、朱色菱形印）、「出／納」（双、朱方印）、「職／忠」（朱）、「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」（双、朱方印）。

〔備考〕 朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。川瀬、

（三） 第三種八行十七字、双辺有界本。

第一冊と二冊に徳富蘇峰の墨識語、「活字板五経／詩経十卷書経四卷易经五卷／礼記十卷春秋左氏伝十五卷／計四十四卷 於文行堂 蘇峰学人／大正三年二月念八購焉」、「是書除易经之外四十冊悉／為中原職忠手沢本而徳川／初代活板書籍之面目□□手／表皮墨□之上仍投重値／凡テ成實堂中云尔 百三十円／大正三三三念□」。

経部 二 書類（一）尚書

5、尚書 一三卷

〔請求番号〕 善本書目・六二二頁

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 後補黒色空押文様（雷文繋ぎ・七宝等）表紙。二七・三×二〇・〇糰。四針康熙綴。

〔題簽〕 左肩に後補の双辺細刷梓書題簽（一九・七×三・四糰）、「尚書_{乳字伝} 一之四（〜九之十三）」。

〔内題〕 「尚書序」、「尚書目録」、「尚書卷第一（〜十三）」。

〔尾題〕 「尚書卷第一（〜十三）」。

〔本文〕 每半葉九行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二二・〇×一六・六糰、卷第一、二二・〇×一六・六糰）、有界（序は無界）。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「尚書序（目録・一〜十三） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五七丁（序・三丁、目録・二丁、卷第一・一一丁、卷第二・一三丁、卷第三・一四丁、卷第四・一四丁）、第二冊、六四丁（卷第五・一七丁、卷第六・一一丁、卷第七・一八丁、卷第八・一八丁）、第三冊、一七丁（卷第九・一三丁。以下乱丁有り。卷第十・一三丁（六〜一三丁）、卷第十二、卷第十三・一七丁（一〜五、卷第十三、六〜一七丁、卷第十、一二・一三丁乱丁）、卷第十一・一三丁、卷第十二・六丁（一〜五丁、卷第十二、六丁、卷第十三）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「果育／精舎／藏書」（朱方印、石川竹厓、一七九四～一八四四、

江戸時代後期の儒者）、「島田翰／讀書記」（朱長方印、陰刻）、

「徳富／猪一郎／之章」（朱方印）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰

刻）、「蘇峰文庫」（朱長方印）、「蘇峯／珍藏」（朱長方印）。

〔備考〕 朱句説点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、若干の朱墨書入が施

されている。第一冊、巻第一の三丁裏まで島田翰による朱校合、

巻第三の巻末には朱識語「明治辛巳春二月初六日以足利学蔵旧

鈔本校／過島田翰識於野之足利学」が施されている。

川瀬、（一）第一種九行十七字。四天王寺大学蔵本には元和刊の

宗存版『法華三大部』の刷り反古が用いられ、佐藤道生氏蔵本

には、寛永十六年の識語を有することから、およその刊行年時

を知ることができる。なお、川瀬一馬氏は、『新修成實堂文庫善

本書目』で慶長頃の刊行とする。

経部 三 詩類（一）毛詩

6、毛詩 存巻第一・二、五、十六、十九・二十

〔請求番号〕 善本書目・六二二頁

〔体裁〕 大本八冊。

〔表紙〕 原装（押八双有）栗皮表紙。二八・八×二〇・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「毛詩^{之一}」_{（十九丁）}と打付書。

〔内題〕 「毛詩巻第一（二十）」。

〔尾題〕 「毛詩巻第一（二十）」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边（二一・一×一六・二糎）、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「毛詩巻一（二十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四六丁（巻第一・二四丁、巻第二・二三丁）、第二冊、

三五丁（巻第五・一六丁、巻第六・一九丁）、第三冊、二五丁

（巻第七・一三丁、巻第八・一二丁）、第四冊、三〇丁（巻第九・

一六丁、巻第十・一四丁）、第五冊、三八丁（巻第十一・一二丁、

巻第十二・二六丁、五丁欠）、第六冊、三三丁（巻第十三・一七

丁、七丁目補写、匡郭内を切り取り、補紙、本文を補写、巻

第十四・一六丁）、第七冊、四一丁（巻第十五・一八丁、巻

第十六・二三丁）、第八冊、四三丁（巻第十九・二三丁、巻第

二十・二〇丁、九丁・一〇丁補写、匡郭内を切り取り、補紙、

本文を補写。巻第十三の七丁目の補写と同筆）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「貴重品（朱長方印）、「蘇峰／審定」（朱方印、陰刻）、「徳富／

護持」（双、朱方印）。

〔備考〕 朱引、朱句説点、墨筆による返点、振仮名、送仮名の他、夥し

い朱墨による書入が施されている。川瀬、（一）慶長中刊（双边

有界、八行十七字）。帙題簽「共八／活字毛詩別本一本 蘇峰珍

蔵」、帙内に蘇峰の墨識語「大正四年九月十八前蔵八冊／□□□

硃批□旨六十七冊／交換焉尚蔵完本／一部右在活字本／五経中

矣 猪記。

経部 三 詩類 (一) 毛詩

7、毛詩 二〇卷

〔請求番号〕善本書目・六二二頁

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕茶色渋引き表紙(押八双有)。二八・七×一九・九糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(一九・〇×三・四糎)、「毛詩 下」。上卷は題簽剥落。

〔内題〕「毛詩卷第一(一〇二十)」。

〔尾題〕「毛詩卷第一(一〇二十)」(巻第九、終、巻第十二、尾題なし)。

〔本文〕每半葉八行×一八字、大型活字。

〔匡郭〕四周单边(二二・〇×一五・三糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「毛詩卷一(一〇二十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、九五丁(巻第一・一三三丁、巻第二・一〇丁、巻第三・

一二丁、巻第四・一四丁、巻第五・九丁、巻第六・一一丁、巻

第七・八丁、巻第八・五丁、巻第九・七丁、巻第十・七丁)、

第二冊、九二丁(巻第十一・六丁、巻第十二・一〇丁、巻第

十三・八丁、巻第十四・七丁、巻第十五・八丁、巻第十六・九

丁、巻第十七・九丁、巻第十八・一四丁、巻第十九・一二丁、

巻第二十・九丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「讀杜／艸堂」(朱方印、寺田望南)、「蘇峯／□讀」(朱長方印、陰刻)、「青山／草堂」(朱長方印)。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名、朱ヲコト点が施されている。第二冊の後表紙見返し裏に鉛筆書購書識語、「41. 5. 20 / 二冊 12、□□田」(明治四一年五月二〇日)。「毛詩 全部二冊和邦新刊」と墨書のある桐箱入、側面下の字(朱)は蘇峰、「毛詩活字本」。川瀬、三〇九・三七四・八一五頁、「増補古活字版之研究」には成賞堂文庫本を四点著録しているが、(一)慶長中刊(叡山版なる可し)(イ)の所蔵はない。本書は、(三)無注本。ここに著録する秋田県立図書館蔵本(双边有界、七行十七字)とは版式を異にする。記述に混乱あり。

経部 三 詩類 (一) 毛詩

8、毛詩 二〇卷

〔請求番号〕善本書目・六二二頁

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕茶色渋引き表紙(押八双有)。二八・九×二〇・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。無題。

〔内題〕「毛詩卷第一(一〇二十)」。

〔尾題〕「毛詩卷第一(一〇二十)」。

〔本文〕每半葉八行×一七字、一画一画が太い活字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边(二〇・四×一六・一糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「毛詩一（〜八） 国風 丁附」、「毛詩九（〜十五） 小雅 丁附」、「毛詩十六（〜十八） 大雅 丁附」、「毛詩十九商頌（二丁目のみ周頌） 丁附」、「毛詩二十魯頌 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁（巻第一・二四丁、巻第二・二二丁）、第二冊、四五丁（巻第三・二二丁、巻第四・二四丁）、第三冊、三五丁（巻第五・一六丁、巻第六・一九丁）、第四冊、二五丁（巻第七・一三丁、巻第八・一二丁）、第五冊、三〇丁（巻第九・一六丁、巻第十・一四丁）、第六冊、三八丁（巻第十一・一二丁、巻第十二・二六丁）、第七冊、三三丁（巻第十三・一七丁、巻第十四・一六丁）、第八冊、四〇丁（巻第十五・一八丁、巻第十六・二二丁）、第九冊、五八丁（巻第十七・二三丁、巻第十八・三五丁）、第一〇冊、四三丁（巻第十九・二三丁、巻第二十・二〇丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「中原」（朱長方印、陰刻）、「出／納」（双、朱色菱形印）、「出／納」（双、朱方印、第四〜一〇冊の巻末）、「職／忠」（朱、第四〜一〇冊の巻末）、「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」（双、朱方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱ヲコト点、墨筆で返点、振仮名、送仮名（一部白塗抹、朱訂正あり）が施されている。川瀬、（二）慶長中刊（叡山版なる可し）（口）。川瀬は「異植字版あり」として、（イ）

（ロ）の二版に分類するが、両版は異植字版でなく、活字を異にした「異版」である。本書を叡山版と見ることには疑問があったが、最近、上田由紀美氏（「無刊記古活字版『毛詩』『春秋経伝集解』が叡山版であること―有刊記叡山古活字版『科註妙法蓮華経』『止観義例随积』との活字・組版手法の共通性から―」、「国文学研究資料館調査研究報告」四三号、二〇二三年）が、元和二年刊の叡山版の『止観義例随积』と同一の欠損活字を見出すなど考察を深め、本書が叡山版であることを証明した。

経部 四 礼類（三） 礼記

9、礼記 二〇巻

〔請求番号〕善本書目・六二三頁

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕薄茶色表紙（押八双有）。二八・八×二〇・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。無題。

〔内題〕「礼記卷第一（〜二十）」。

〔尾題〕「礼記卷第一（〜二十）」。

〔本文〕每半葉八行×一八字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二二・六×一七・一糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「礼記卷之一（〜二十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六五丁（巻第一・三六丁、巻第二・二九丁）、第二冊、五二丁（巻第三・二七丁、巻第四・二五丁）、第三冊、六七

丁（卷第五・三六丁、四丁補写、卷第六・三一丁）、第四冊、六六丁（卷第七・二九丁、卷第八・三七丁）、第五冊、五一丁（卷第九・二五丁、卷第十・二六丁）、第六冊、六三丁（卷第十一・三三丁、卷第十二・三〇丁）、第七冊、五五丁（卷第十三・二〇丁、卷第十四・三五丁）、第八冊、四九丁（卷第十五・二九丁、卷第十六・二〇丁）、第九冊、四三丁（卷第十七・二三丁、卷第十八・二〇丁）、第一〇冊、四三丁（卷第十九・一九丁、卷第二十・二四丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「中原」（朱長方印、陰刻）、「出／納」（双、朱色菱形印）、「出／納」（双、朱方印）、「職／忠」（朱）、「蘇峰學人／徳富氏愛／藏圖書記」（双、朱方印）。

〔備考〕墨筆で返点、振仮名、送仮名、若干の朱書人が施されている。川瀬、三七五頁、慶長元和中刊、（一）八行十八字、双辺有界本、（口）第二種。

經部 五 春秋類（一）左氏伝

10、春秋経伝集解 三〇卷

〔請求番号〕善本書目・六二三頁

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕後補纏色（青）表紙。二七・八×二〇・三糎、五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の双辺枠刷題簽（一八・三×三・八糎）、「春秋左氏

伝 一二（廿九冊）。

〔内題〕「春秋左氏伝序」、「春秋経伝集解後序」、「春秋経伝集解隱公第一」（哀下第三十）。

〔尾題〕「春秋経伝集解後序」、「春秋経伝集解隱公第一」（哀下第三十）。

〔本文〕每半葉八行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（序、二〇・〇×一六・四糎、第一、二〇・〇×一六・三糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「左氏序（后序・一）（三十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、八〇丁（序・六丁、後序・四丁、隱公第一・三六丁、桓公第二・三四丁）、第二冊、五三丁（莊公第三・四二丁、閔公第四・一一丁）、第三冊、七六丁（僖上第五・四二丁、僖中第六・三五丁）、第四冊、六三丁（僖下第七・三一丁、文上第八・三二丁）、第五冊、五六丁（文下第九・三〇丁、宣上第十・二六丁）、第六冊、七二丁（宣下第十一・三〇丁、卷首丁欠、成上第十二・四二丁）、第七冊、八三丁（成下第十三・四六丁、二九丁と三〇丁の間に三九丁が入る。襄元第十四・三七丁）、第八冊、七〇丁（襄二第十五・三七丁、襄三第十六・三三丁）、第九冊、七〇丁（襄四第十七・三〇丁、襄五第十八・四〇丁）、第一〇冊、七〇丁（襄六第十九・三四丁、昭元第二十・三六丁）、第一一冊、七二丁（昭二第二十一・四二丁、昭三第二十二・三〇丁）、第一二冊、七四丁（昭四第二十三・三八丁、昭五第二十四・三六

丁)、第一三冊、六五丁(昭六第二十五・三三丁、昭七第二十六・三二丁)、第一四冊、五五丁(定上第二十七・二七丁、定下第二十八・二八丁)、第一五冊、八七丁(哀上第二十九・四八丁、哀下第三十・三九丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕「今出／河／藏書」(朱方印、今出川家、公家、別号菊亭)、「无／礙／菴」(朱丸印、今泉雄作)、他二印。「徳富／猪一／郎印」(朱方印、陰刻)、「須愛護／蘇峰／囑」(朱)、「徳富／文庫」(朱方印)、「蘇峰／清賞」(朱方印、陰刻)、「自彊不息」(朱長方印)。

〔備考〕 第二二冊と二三冊にのみ、清家伝来のテキストからの移点書入有。卷二十四と二十六の卷末に、「以宝寿院殿常御自点本加朱墨」／少納言清原朝臣宣賢／永正十六年五月十四日親王御方御讀書以此本申之 宣賢、「以^{常侍}御自点本加朱墨」／少納言清原朝臣宣賢／永正十六年五月廿三日奉授親王御方。第一五冊、新補の後遊紙二枚目に鉛筆書の購書識語「38・4・7／十五冊村／12」(明治三八年四月七日、村口書房)。

箱入り、箱外題(張り紙) 蘇峰手題「春秋左伝／十五冊」、蓋の裏に朱印(天下之／公寶／須珍惜／愛護／蘇峰属)。川瀬、三七五・八一六頁、(二) 慶長中刊(口)、図録篇一七五図に成實堂文庫本の図版を収む。

経部 五 春秋類(二) 左氏伝
11、春秋経伝集解 三〇卷

〔請求番号〕 善本書目・六二三頁

〔体裁〕 大本一五冊。

〔表紙〕 薄茶色表紙(押八双有)。二八・八×二〇・七糎、五針袋綴。

〔題簽〕 無。無題。

〔内題〕 「春秋左氏伝序」、「春秋経伝集解隠公第二」(哀下第三十)。

〔尾題〕 「春秋経伝集解隠公第二」(哀下第三十)。

〔本文〕 每半葉八行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(序、二〇・三×一六・五糎、第一、二〇・二×一六・五糎)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「左氏序(一)三十」丁附。

〔丁数〕 第一冊、七六丁(序・六丁、隠公第一・三六丁、桓公第二・三四丁)、第二冊、五三丁(莊公第三・四二丁、閔公第四・一一

丁)、第三冊、七六丁(僖上第五・四二丁、僖中第六・三五丁)、第四冊、六三丁(僖下第七・三一丁、文上第八・三二丁)、第五冊、五六丁(文下第九・三〇丁、宣上第十・二六丁)、第六冊、七三丁(宣下第十一・三二丁、成上第十二・四二丁)、第七冊、八三丁(成下第十三・四六丁、襄元第十四・三七丁)、第八冊、七〇丁(襄二第十五・三七丁、襄三第十六・三三丁)、第九冊、七〇丁(襄四第十七・三〇丁、襄五第十八・四〇丁)、第一〇冊、七〇丁(襄六第十九・三四丁、昭元第二十・三六丁)、第一一

冊、七一丁（昭二第二十一・四二丁、昭三第二十二・二九丁、卷末三〇丁欠）、第二冊、七四丁（昭四第二十三・三八丁、昭五第二十四・三六丁）、第三冊、六五丁（昭六第二十五・三三丁、昭七第二十六・三二丁）、第一四冊、五五丁（定上第二十七・二七丁、定下第二十八・二八丁）、第五冊、八七丁（哀上第二十九・四八丁、哀下第三十・三九丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「中原」（朱長方印、陰刻）、「出／納」（双、朱色菱形印）、「出／納」（双、朱方印）、「職／忠」（朱）、「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」（双、朱方印）。

〔備考〕 第一冊、左氏二、九丁表まで朱引、朱句読点、以下、朱丸等がごくわずかに施されるのみ。川瀬、三七五・八一六頁、（二）慶長中刊、双辺、有界、八行十七字。「叡山月蔵坊刊本なる可し。毛詩（二）と同活。本書に同種活字の異版あり」。成篁堂文庫本は（イ）版。図録篇一七四図に本書の図版を収む。

経部 六 孝経類

12、古文孝経

〔請求番号〕 善本書目・六二三頁

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 薄茶色空押出繋ぎ唐花唐草文様表紙。二七・六×一八・二糎。

四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「活版古文孝経」と打付書。

〔内題〕 「古文孝経序」、「古文孝経」。

〔尾題〕 「古文孝経序終」、「古文孝経終」。

〔本文〕 每半葉八行×一五字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二二・〇×一五・五糎）、有界。

〔版心〕 上下に黒口双花口魚尾一体型、中縫、「孝経序（孝経） 丁附」。

〔丁数〕 三三丁（序・五丁、本文・二八丁、二〇丁欠）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 卷首、「一□氏／□□翁」（朱長方印）、「篁邨島／田氏家／蔵圖書」（朱長方印）、「島田翰／讀書記」（朱長方印陰刻）、「島田／澄」（朱丸印）、「蘇峯／珍藏」（朱長方印）、「蘇峰文庫」（朱長方印）、「徳富／猪一郎」（朱方印陰刻）、他一印。卷末、「島田氏／雙桂園／蔵書記」（墨方印）、「徳富／猪式郎／之章」（朱方印・大）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。序の尾題の後に島田翰の墨識語、「是書太夫人□衣所獲卷首捺先君子図章／者□不忘其原也癸卯二月島田翰識二十五年（印＝島田翰／讀書記）」、卷末に「島田翰珍蔵」と墨書。後表紙の見返しに徳富蘇峰の墨識語、「此書慶長活字版中絶無稀有之物／須可十襲珍重也矣／明治三十七年一月十一日／蘇峰学人識之」。

川瀬、三七六・八一七頁、（三）無刊記本、慶長中刊。双辺、有界、八行十五字（イ）、「三種の異植版中、其の先後を定め難け

れど、共に慶長中の印行なる可し」(三七六頁)。

経部 六 孝経類

13、古文孝経

〔請求番号〕善本書目・六二三頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)薄茶色表紙。二七・一×一九・九糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「孝経孔伝全」と打付書。右肩に「三」、その下に蘇峰の筆で「貴重品／珍」(朱)、「蘇峰珍藏」(墨)。

〔内題〕「古文孝経序(五・五格空) 孔安国」、「古文孝経(八格空) 孔氏伝」。

〔尾題〕「古文孝経終」。

〔本文〕每半葉八行×一五字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(序、二一・九×一五・七糎、本文、二一・九×一五・六糎)、有界。

〔版心〕上下に黒口双花口魚尾一体型、中縫、「孝経序(孝経) 丁附」。

〔丁数〕三四丁(序・五丁、本文・二九丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「天下之公／寶須愛護」(朱長方印)、「徳富氏」(双、朱長方印)、「蘇／峯」(朱方印)。

〔備考〕卷末尾題の後に墨識語、「右菅致長所蔵之書也吾適需／之乃唯々

聽許因得以為吾之有／焉 左少将藤俊将／以天文廿三年古写本一校畢／文政六年五月十九日翰林学士菅聡長」。

前表紙の見返しに徳富蘇峰の墨識語、「此書慶長活字本中最罕觀之一也／曾係東坊城家蔵儲焉而其訓／点菅原聴長手澤而加之以／天文廿三年古写本経校定者／也予偶於平安書肆得之焉／明治卅九年四月廿八日 蘇峰学人」、後表紙見返しに墨書紙片「東坊城家蔵本也／古文孝経 壹冊／三十七甲辰の年／□□」を貼付、蘇峰により鉛筆書きで購書識語、「39. 4. 9 / 2、／若(京都、若林書店)」。

朱引、朱句説点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施され、上欄等には東坊城綱忠(一七〇六〜一七八一)による書入(綱忠愚按、)が施されている。

川瀬、三七六・八一七頁、(三) 無刊記本、慶長中刊。双辺、有界、八行十五字(ハ)。図録篇一七八図に成實堂文庫本の図版を収む。川瀬は本書の版種を(ハ)版とするが要検討。序および本文二丁目までは異版だが、三丁目以下は前掲(イ)版と同版。異版部分にも、(イ)版の活字を一部共有していることから、二書の刊行年時には隔たりはなく、刊者も同じくする可能性がある。

經部 八 四書類(二) 大学

14、大学章句

〔請求番号〕善本書目・六二五頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原裝(押八双有) 薄茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙。

二八・六×一九・四糎。四針袋綴。蘇峰の筆で「慶長活字本／

林読耕斎藏書印記在」と墨書。

〔題簽〕無。左肩に「大学章句」と白書。

〔内題〕「大学章句序」、「大学(大旧音泰／今読如字)(七格空) 朱熹章

句」。

〔尾題〕「大学章句畢」。

〔本文〕每半葉七行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(序、二一・二×一五・三糎、本文、二一・二×

一五・二糎)、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「大学序(大学章句) 丁附」。

〔丁数〕二三丁(序、淳熙己酉二月甲子新安朱熹序・四丁、本文・一九

丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「讀耕齋／之家藏」(双、朱長方印、林読耕斎)、「善本」(双、朱

長方印)、「各□／亮印」(朱長方印、陰刻)、「貴重品」(朱長方

印、表紙にも)、「徳富氏」(双、朱長方印)、「天下之公／寶須愛

護」(朱長方印)、「蘇／峯」(朱方印)、「樂天／天命復／奚疑」

(夫の天命を楽しみて復た奚をか疑はん、古文真宝後集)、「待賈」
(朱丸印、小、達摩屋五一?)。

〔備考〕無書入。後表紙の見返しに鉛筆書の購書識語、「39. 5. 7

／リン1」(明治三十九年五月七日、琳琅閣書店)。川瀬、

三七八・八一八頁、(一)今関正運刊本(口)第二種本、刊記な

けれど中庸と共時の刊行。

經部 八 四書類(四) 孟子

15、孟子 一四卷

〔請求番号〕善本書目・六二四頁

〔体裁〕大本七冊。

〔表紙〕茶色空押文様表紙。二六・五×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(二六・〇×三・四糎)、「孟子一之二全

七(十三之十四)」。第五冊のみ題簽剥落。

〔内題〕「趙氏孟子題辭」、「孟子卷第一(一十四)」。

〔尾題〕「孟子卷第一(一十四)」。

〔本文〕每半葉七行×一七字、大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(題辭、二一・七×一五・九糎、卷第一、二一・七×

一六・一糎)、有界。

〔版心〕白口双花口魚尾、中縫、「孟子題辭(卷一十四) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁(題辭・五丁、卷第一・一九丁、卷第二・二二

丁)、第二冊、四一丁(卷第三・二二丁、卷第四・一九丁)、第

三冊、四〇丁（巻第五・二二丁、巻第六・一九丁）、第四冊、三九丁（巻第七・二〇丁、巻第八・一九丁）、第五冊、三八丁（巻第九・一九丁、巻第十・一九丁）、第六冊、四〇丁（巻第十一・二〇丁、巻第十二・二〇丁）、第七冊、四五丁（巻第十三・二二丁、巻第十四・二三丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 □／□堂（朱長方印）、「松戸／鈴木氏」（朱方印）、「堤藏書」（朱長方印）、「文□堂／圖書記」（朱長方印、陰刻）、「小島氏／圖書記」（朱長方印、小島宝素）、「徳富／猪印」（朱方印・小、陰刻）、「蘇／峯」（朱方印・小、陽刻）、「學／古氏」（朱方印）、「徳富／猪式郎／之章」（朱方印）、「蘇峰文庫」（朱長方印）、「徳富／猪一／郎印」（朱方印）、「蘇峰／學人」（朱方印）。

〔備考〕 第五・六・七冊に、朱筆で返点、振仮名、送仮名、若干の朱墨書入が施されている。第七冊の巻末に小島宝素の墨識語、「天保十二年小春之朔購授児沂是日／得宋槧本各節度経効産宝／三巻併記志喜賀題 大尾」（印、小島氏／圖書記）。

川瀬、（二）下村生蔵刊本、高橋智、B種。

経部 八 四書類 (三) 論語

16、論語集解（魏）何晏集解

〔請求番号〕 善本書目・六一七頁

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 薄茶色（押八双有）裏打改装表紙。二九・四×二〇・四糎、五針袋綴。

〔題簽〕 無。無題。

〔内題〕 「論語序」、「論語学而第一」^{凡十六章}（堯曰第二^{凡三章}）（三格空）何晏集解。

〔尾題〕 「論語卷第一（一七）」。

〔本文〕 每半葉七行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二一・二×一五・一糎、学而第一、二一・一×一五・二糎、有界）。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「論語序（一七）丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五八丁（序・学而第一〜郷党第十、公治長第五、二丁目補写）、第二冊、六三丁（先進第十一〜堯曰第二十）。

〔刊記〕 「低十四格」友伝刊／慶長十四年〔巳／酉〕九月日（二格空）洛内宗与開板」。

〔印記〕 「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」（双、朱方印）。

〔備考〕 朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄等に朱書入が施されている。第一冊、前表紙の見返しに鉛筆書の購書識語「8、80／38 6. 10／松 二冊」（明治三八年六月一〇日）。川瀬、（二）慶長十四年刊本。（イ）「洛内宗与開板」本と（ロ）「洛内宗甚三板」本の二種があるが、成篁堂文庫蔵本は、二本とも（イ）「洛内宗与開板」本。

經部 八 四書類 (三) 論語

17、論語集解 (魏) 何晏集解 存卷第一〜五

〔請求番号〕 善本書目・六一九頁

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 後補焦げ茶色表紙。二九・三×二〇・二糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「論語 全」と打付書。他、目錄題を墨書。

〔内題〕 「論語序」、「論語学而第一」^{凡十六章} (三格空) 何晏集解 (一) 論語郷

党第十一章 (四格空) 何晏集解。

〔尾題〕 「論語卷第一」 (一) 五。

〔本文〕 每半葉七行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边 (序、二一・一×一五・一糎、学而第一、二一・一×

一五・一糎)、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「論語序 (一) 五」 丁附。

〔丁数〕 五八丁 (序・学而第一〜郷党第十)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「正／敬」 (朱方印、陰刻)、「蘇／峰」 (朱方印)、「青山／艸堂」

(朱方印)。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

卷末に朱識語、「宝曆辛巳秋九月改点 (田義之字叔比号 / 香山子)」。卷首に徳富蘇峰の墨識語紙片 (予異本慶長活字清原秀 / 賢手沢本坤卷今度乾卷 / 為完璧焉板式所不同 / 要同時代之物也 猪誌 / 大正五年五月三日) を挟み、後表紙の見返しには鉛筆書

の購書識語「5. 5. 3 / 文行 2、」 (大正五年五月三日、文

行堂書店) あり。川瀬、(一) 慶長十四年刊本。(イ)「洛汭宗与

開板」本と(ロ)「洛汭宗甚三板」本の二種があるが、成實堂文

庫蔵本は、二本とも(イ)「洛汭宗与開板」本。

經部 一〇 小学類 (二) 字書

18、古注千字文 三卷 (梁) 周興嗣撰 (五代) 李暹注

〔請求番号〕 善本書目・六三三頁

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 栗皮表紙 (押八双有、原表紙か)。二八・三×一九・一糎。四針

袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽 (一七・九×三・二糎)、「^注千字文 全」

(印)、「正／敬」朱方印・陰刻、「蘇／峰」朱方印)。

〔内題〕 「註千字文序 (六格空) 梁大夫内司馬李暹」、「纂図附音増広古注

千字文上 (中・下)」。

〔尾題〕 「纂図附音集註千字文之上終」、「纂図附音集註千字文中終」、「千

字文下之終」。

〔本文〕 每半葉九行×二〇字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周单边 (序、二一・三×一四・五糎)、有界。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「注千字文序 (上・中・下) 丁附」。

〔丁数〕 四六丁 (序・二丁、上・一五丁、中・一六丁、下・一三丁)。

〔刊記〕 「(低四格) 元和三 (二格空) 丁 巳 曆二月辰日」。

〔印記〕「成簀堂」（朱長方印）、「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」（双辺、

朱長方印、以上、巻首丁）、「猪」（朱方印）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「徳富／所有」（朱方印）、「蘇峰／讀書／記印」、

「蘇峰／審定」（朱方印、以上巻末）。

〔備考〕見返しに鉛筆書購書メモ（蘇峰筆）、「38. 12. 12／一冊／京」。

経部 一〇 小学類（三） 韻書

19、古今韻会挙要 三〇巻（元）黄公紹撰・（元）熊忠挙要

〔請求番号〕善本書目・六一九頁

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文襷に雨竜文様表紙。二七・六×一九・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩やや下に、「古今韻会挙要」と打付書（第一冊・二冊のみ）。他、「平声」、「東／冬／江／支／微」（第一冊）と墨書（以下の冊も同様）。

〔内題〕「（低一格）刻古今韻会叙」、「古今韻会挙要凡例／（低九格）昭（一格空）武（一格空）黄（一格空）公紹（一格空）直翁（一格空）編輯／（低九格）昭（一格空）武（一格空）熊（一格空）忠（二格空）子中（一格空）挙要」、「古今韻会挙要卷之一（三十）」。

〔尾題〕「古今韻会挙要卷之一（三十）」。「二巻終」（陰刻）、「韻会卷之十四」、「韻会卷之十六」、「韻会卷十七」、「古今韻会要卷之

二十二」、「廿三終」、「古今韻会挙要卷之二十四」。

〔本文〕叙、每半葉八行×二字（大字）。凡例、每半葉一四行×三字（小字）。本文、每半葉八行×二三字。

〔匡郭〕四周双辺（巻之一、二一・四×一五・〇糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「韻会序（例・一（三十））丁附」。

〔丁数〕第一冊、八九丁（嘉靖十五年張鯤序・四丁、凡例・四丁、巻之

一・三一丁、巻之二・五〇丁）、第二冊、七八丁（巻之三・三八

丁、巻之四・四〇丁）、第三冊、七一丁（巻之五・三六丁、巻之

六・三五丁。二七丁欠）、第四冊、七九丁（巻之七・三三丁、巻

之八・四六丁）、第五冊、六四丁（巻之九・四〇丁、巻之十・

二四丁）、第六冊、六七丁（巻之十一・三四丁、巻之十二・三三

丁）、第七冊、五二丁（巻之十三・二七丁、巻之十四・二五丁）、

第八冊、五三丁（巻之十五・二六丁、巻之十六・二七丁）、第九

冊、五三丁（巻之十七・三二丁、巻之十八・二二丁）、第一〇

冊、四八丁（巻之十九・二三丁、巻之二十・二五丁）、第一一冊、

四九丁（巻之二十一・二二丁、巻之二十二・二八丁）、第二二冊、

五四丁（巻之二十三・二六丁、巻之二十四・二八丁）、第二三冊、

六一丁（巻之二十五・三三丁、巻之二十六・二八丁）、第一四冊、

六五丁（巻之二十七・二九丁、巻之二十八・三六丁）、第一五冊、

四三丁（巻之二十九・二二丁、巻之三十・二二丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「惠林什書／門外不出」（朱長方印）、「徳富氏／圖書記」（朱長方

印)。

〔備考〕無書入。帙題簽蘇峰筆、「古今韻會」(十五冊／蘇峰秘笈)。川瀬、三七九・八二四頁、(一)有界本双辺八行十二字、(口)第二種本。版種には、有界本(イ)第一種本有界本、(ロ)第二種本、無界本の三種があるが、住吉朋彦氏(『中世日本漢学の基礎研究 韻類編』、汲古書院、二〇一二年、一五〇～一五四頁)による再考察の結果、有界本(口)第二種本(住吉、甲種)、有界本(イ)第一種本(住吉、乙種、翻甲種本)、無界本(住吉、丙種、翻乙種本)の順が正しいという。

経部 一〇 小学類(三) 韻書

20、古今韻会拳要 三〇卷 (元) 黄公紹撰・(元) 熊忠拳要

〔請求番号〕善本書目・六一九頁

〔体裁〕大本九冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙(見返し新補改装)。二八・四×一九・八糎。四針袋綴。第二・三・四・六・七・八冊は栗皮原表紙残存。

〔題簽〕無。第四・六・八冊のみ、左肩に後補の書題簽(二七・八×三・四糎)、「古今韻会」(十之／十二)(十六之／十八)・(二十二之／二十四)」、右肩より方簽を貼付し、声韻目を書す。第七冊題簽欠、左肩に「列」と朱書。

〔内題〕「古今韻会拳要凡例」(低八格) 昭(一格空) 武(一格空) 黄(一格空) 公紹(一格空) 直翁(一格空) 編輯(低八格) 昭

(一格空) 武(一格空) 熊(一格空) 忠(二格空) 子中(一格空) 拳要」、「古今韻会拳要卷之一」(二十六)。

〔尾題〕「古今韻会拳要卷之一」(二十六)。「二卷終」(陰刻)、「韻会卷之十四」、「韻会卷十六」、「韻会卷十七」、「廿三終」。

〔本文〕叙、每半葉八行×一二字(大字)。凡例、每半葉一五行×二三字(小字)。本文、每半葉八行×二三字×二四字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(卷之一、二一・四×一五・〇糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「韻会序」(例・一～二十六) 丁附。

〔丁数〕第一冊、一二五丁(嘉靖十五年張鯤序・三丁(卷首丁欠)、凡例・四丁、卷之一・三二丁、卷之二・五〇丁、卷之三・三七丁(卷末丁欠)、第二冊、一一二丁(卷之四・四〇丁、卷之五・

三六丁、卷之六・三六丁)、第三冊、一一九丁(卷之七・三三丁、卷之八・四六丁、卷之九・四〇丁)、第四冊、九二丁(卷之十・

二四丁、卷之十一・三四丁、卷之十二・三三丁)、第五冊、七八丁(卷之十三・二七丁、卷之十四・二五丁、卷之十五・二六

丁)、第六冊、八〇丁(卷之十六・二七丁、卷之十七・三二丁、卷之十八・二二丁)、第七冊、六九丁(卷之十九・二三丁、卷之

二十・二五丁、卷之二十一・二二丁)、第八冊、八二丁(卷之二十二・二八丁、卷之二十三・二六丁、卷之二十四・二八丁)、第九冊、三六丁(卷之二十五・三三丁、卷之二十六・三丁(卷首三丁のみ存))。

〔刊記〕無。

〔印記〕「二湖水」（双、墨長方印）、「徳富氏／圖書記」（朱長方印）。

〔備考〕卷之十まで朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄にイ本校合、誤植訂正が施される。以下の冊は、朱引と朱句読点のごくわずかに施されるのみ。虫損、鼠損が多く、取扱注意。川瀬、（二）有界本双辺八行十二字、（イ）第一種本有界本。卷之一の巻首丁のみ（ロ）第二種本と同版。「この紙葉、前後に比べ少し堅いが、書入は同手、汚損、虫損の様子も元来一具と見て支障なく、原装者により有界両種の印紙が混用された証跡と見られる。両者は一部活字の共有のみでなく、刊者を同じくする可能性がある」（住吉朋彦前掲書、一四六頁）。

史部 一 正史類

21、後漢書 一二〇卷（劉宋）范曄撰・（唐）李賢注・（晉）司馬彪撰

志

〔請求番号〕善本書目・六四二頁

〔体裁〕大本、三四冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二八・六×二〇・三糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一九・八×四・六糎）、「後漢書 序（一

帝紀／上下）」。

〔内題〕「後漢書注補志序」、「後漢書目錄」、「光武帝紀第一上 范曄 後

漢書一上／（低九格）唐章懷太子賢註」）「烏桓鮮卑列伝第八十

／（低八格）范曄 後漢書九十」。

〔尾題〕「光武帝紀第一上」）「烏桓鮮卑列伝第八十／（低十二格）繁夏校

正／（低三格）前進士儒学録充経師張稟校正」。

〔本文〕每半葉九行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（志序、二二・四×一六・三糎、一上、二一・四×一五・八糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「後漢志序（後漢序・後漢目錄・後漢記一上）十下・後漢志一（三十・後漢傳一（八十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、三二丁（後漢書注補志序、景祐元年九月）大徳九年

十一月望日寧国路儒学雲教授任内刊・二丁、序・二丁、目錄・

二八丁）、第二冊、七〇丁（光武帝紀第一上・三六丁、光武帝紀

第一下・三四丁）、第三冊、八七丁（明帝紀第二・二九丁、章帝

紀第三・二九丁、和帝紀第四・二九丁）、第四冊、八五丁（安帝

紀第五・三一丁、順冲質帝紀第六・二九丁、桓帝紀第七・二五

丁）、第五冊、一〇六丁（靈帝紀第八・二三丁、獻帝紀第八・

一九丁、皇后紀第十上・三七丁、皇后紀第十下・二七丁）、第六

冊、九七丁（志第一・二二丁、志第二・二八丁、志第三・三七

丁、志第四・一一丁）、第七冊、九〇丁（志第五・一六丁、志

第六・一五丁、志第七・一七丁、志第八・一二丁、志第九・

一六丁、志第十・一四丁）、第八冊、九六丁（志第十一・二二

丁、志第十二・一一丁、志第十三・二四丁、志第十四・一三

丁、志第十五・一四丁、志第十六・一二丁）、第九冊、一一五

丁（志第十七・一三丁、志第十八・一八丁、志第十九・一八

丁、志第二十·一四丁(九·一〇丁乱丁)、第二十一·一二丁、志第二十二·一六丁、志第二十三·二四丁)、第二〇冊、一〇〇丁(志第二十四·一一丁、志第二十五·一三丁、志第二十六·一三丁、志第二十七·一〇丁、志第二十八·一八丁、志第二十九·一五丁、志第三十·二〇丁)、第一一冊、九七丁(劉玄劉盆子列傳第一·二三丁、王劉張李彭盧列傳第二·二〇丁、隗囂公孫述列傳第三·三三丁、宗室四王三侯列傳第四·二一丁)、第一二冊、九一丁(李王鄧來列傳第五·二二丁、鄧寇列傳第六·三七丁、馮岑賈列傳第七·三二丁)、第一三冊、一一一丁(吳蓋陳臧列傳第八·二五丁、耿弇列傳第九·二六丁、鉅期王霸祭遵列傳第十·一九丁、任李萬邳劉耿列傳第十一·一七丁、朱景王杜馬劉傳堅馬列傳竇融列傳第十二·二四丁)、第一四冊、八六丁(竇融列傳第十三·二九丁、馬援列傳第十四·三七丁、卓魯魏劉列傳第十五·二〇丁)、第一五冊、一〇三丁(伏侯宋蔡馮趙牟韋列傳第十六·三一丁、宣張二王杜郭吳承鄭趙列傳第十七·二四丁、桓譚馮衍列傳第十八上·二四丁、馮衍列傳第十八下·二四丁)、第一六冊、九七丁(申屠剛鮑永邳惲列傳第十九·二六丁、蘇楊郎襄列傳第二十上·一〇丁、郎顛襄楷列傳第二十下·三四丁、郭杜孔張廉王蘇羊賈陸列傳第二十一·二七丁)、第一七冊、八八丁(樊陰列傳二十二·一六丁、朱馮虞鄭周列傳第二十三·二四丁、梁統列傳第二十四·二五丁、張曹鄭列傳第二十五·二三丁)、第一八

冊、九六丁(鄭范陳賈張列傳第二十六·三〇丁、桓榮丁鴻列傳第二十七·二二丁、張法滕馮度楊列傳第二十八·一七丁、劉趙淳于江劉周趙列傳第二十九·二七丁)、第一九冊、八六丁(班彪列傳第三十上·三〇丁、班固列傳第三十下·二九丁、第五鍾離宗宋寒列傳第三十一·二七丁)、第二〇冊、八六丁(光武十王列傳第三十二·三三丁(二三·二四丁乱丁)、朱棻何列傳第三十三·三四丁、鄧張徐張胡列傳第三十四·一九丁)、第二一冊、一〇八丁(袁張韓周列傳第三十五·二五丁、郭陳列傳第三十六·二六丁、班梁列傳第三十七·二八丁、楊李翟應霍爰徐列傳第三十八·二九丁)、第二二冊、九八丁(王充王符仲長統列傳第三十九·三七丁、孝明八王列傳第四十·一四丁、李陳龐陳橋列傳第四十一·一八丁、崔駰列傳第四十二·二九丁)、第二三冊、八九丁(周黃徐姜申屠列傳第四十三·一五丁、楊震列傳第四十四·三四丁、章帝八王列傳第四十五·一六丁、張王種陳列傳第四十六·二四丁)、第二四冊、九八丁(杜欒劉李劉謝列傳第四十七·二五丁、虞傅蓋臧列傳第四十八·三一丁、張衡列傳第四十九·四二丁)、第二五冊、八九丁(馬融列傳第五十上·二一丁、蔡邕列傳第五十下·三三丁、左雄周舉黃瓊列傳第五十一·三五丁)、第二六冊、一〇四丁(荀韓鍾陳列傳第五十二·二二丁、李固杜喬列傳第五十三·二五丁、吳延史盧趙列傳第五十四·二七丁、皇甫張段列傳第五十五·三〇丁)、第二七冊、九二丁(陳蕃王允列傳第五十六·二四丁、党錮列傳第

五十七・三七丁、郭太符融許劭列伝第五十八・一二丁、竇武何

進列伝第五十九・一八丁)、第二八冊、一〇四丁(鄭太孔融荀

彧列伝第六十・三六丁、皇甫嵩朱儁列伝第六十一・二〇丁、董

卓列伝第六十二・三〇丁、劉虞公孫瓚陶謙列伝第六十三・一八

丁)、第二九冊、一〇六丁(袁紹列伝第六十四上・三四丁、袁

紹劉表列伝第六十四下・二〇丁、劉袁呂列伝第六十五・二四

丁、循吏列伝第六十六・二八丁)、第三〇冊、一〇〇丁(酷吏列

伝第六十七・一八丁、宦者列伝第六十八・三五丁、儒林列伝第

六十九上・二三丁、儒林列伝第六十九下・二四丁(二二丁天地

逆綴)、第三一冊、九二丁(文苑列伝第七十上・二六丁、文苑

列伝第七十下・三〇丁、独行列伝第七十一・三六丁)、第三二冊、

九七丁(方術列伝七十二上・二四丁、方術列伝七十二下・

二五丁、逸民列伝第七十三・二三丁、列女伝第七十四・二五

丁)、第三三冊、九八丁(東夷列伝第七十五・一九丁、南蛮西南

夷列伝第七十六・三八丁、西羌伝第七十七・四一丁)、第三四冊、

八九丁(西域伝第七十八・三二丁、南匈奴列伝第七十九・三八

丁、烏桓鮮卑列伝第八十・二〇丁)。

〔刊記〕

無。

〔印記〕

「超／宝」(朱方印)、「永源書房」(朱長方印)、「島田」(朱小印、

島田蕃根、一八二七〜一九〇七)、「徳富／猪式郎／之章」(朱方

印・大)、「蘇峰／清賞」(朱方印、陰刻)、「蘇峰文庫」(朱長方

印)。

〔備考〕

第二冊と一一冊に朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名

送仮名が施されているが、無書人の冊多く、書人があっても一

部の丁に朱引や朱句読点が施される程度である。第五冊、皇后

紀第十上の巻末に、「本文文永三年窮臘之日伏玉炬前奉授天子」

右小弁藤原信国／以件奥書本校点了 享祿四六廿六日」と墨書。

第一二冊の巻末に徳富蘇峰の墨識語、「明治三十八年十二月八日

夕 蘇峰一読」。

川瀬一馬は刊行年を寛永五年以降とするが、実際は寛永元年

以後(あるいは元和九年)の刊。高木浩明「古活字版調査余

録(二)『後漢書』の刊行年時を考える」(『汲古』第五九号、

二〇一一年、「中近世移行期の文化と古活字版」第三部第七章、

勉誠出版、二〇二〇年所収)。

史部 一 正史類

22、史記 存八十三(九十二卷 (漢) 司馬遷撰

〔請求番号〕善本書目・六二五頁

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二九・五×二〇・七糎。四針袋綴。各冊とも

右肩に蘇峰の筆で、「巻末有慶長十四年跋語」と墨書。

〔題簽〕無。

〔内題〕「魯仲連鄒陽列伝第二十三(一格空) 史記八十三(〜淮陰侯列

伝第三十二(二格空) 史記九十二)。

〔尾題〕「魯仲連鄒陽列伝第二十三（一格空）史記八十三」（淮陰候列伝第三十二（二格空）史記九十二）。

〔本文〕八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（列伝二十三、二三・〇×一七・一糶）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「史記伝二十三（三十二）丁附」。

〔丁数〕第一冊、五五丁（魯仲連鄒陽列伝第二十三・二三丁、屈原賈生列伝第二十四・二二丁半、呂不韋列伝第二十五・一〇丁半）、第二冊、六九丁（刺客列伝第二十六・二八丁半（二八丁補写）、李斯列伝第二十七・三二丁半、蒙恬列伝第二十八・八丁）、第三冊、六七丁（張耳陳余列伝第二十九・二〇丁、魏豹彭越列伝第三十・七丁半、黥布列伝第三十一・一三丁、淮陰候列伝第三十二・二六丁半）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「顔氏家訓日借／人典籍須加愛／護先有歛壞就／為補治此亦士／大夫百行一也／番易菅玄東誌」（双、墨方印、菅得庵、一五八一（一六二八）、「華山／藏書／之印」（朱方印、花山院常雅、一七〇〇）七一、江戸時代中期の公卿）、「蘇峰學人／徳富氏愛／藏圖書記」（双、朱方印）、「成篋堂／圖書記」（朱長方印）、「善本」（双、朱長方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、上欄と下欄に朱墨による書人が施されている。各冊の巻末には、本書の旧蔵者である儒学者の菅得庵による墨識語、「慶長十四

易草木已酉春三月二十又四點之終 菅原（以下削去）」（第一冊）、「慶長十四己酉秋菊月上旬以朱墨點之（以下破り取る）九齒」（第二冊）、「慶長十四己酉十一月朔点之畢（以下削去）」（第三冊）が記されている。国立公文書館内閣文庫に僚卷あり。川瀬、三五九・三八〇頁、（一）慶長十一年以前刊。本書（第一種本）の刊行は、現在、慶長八年十一月以前であることが明らかになっている（小秋元段『増補太平記と古活字版の時代』、新典社、二〇一八年、第二部第四章参照）。

史部 一 正史類

23、史記 存卷六・三十一・三十二・四十七・四十八・五十四―五十七

（漢）司馬遷撰

〔請求番号〕善本書目・六二五頁

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮表紙（第一冊のみ徳富蘇峰の筆で「零本共四／慶長十一年跋語あり／珍」と朱書）。新補の薄茶色覆表紙（蘇峰の筆で「慶長十一年云々跋語在焉／慶長活字史記 壹（四）」と墨書、綴部に「共四」と墨書）附。三〇・二×二一・五糶。五針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「呉太伯世家第一（四格空）史記三十一」、「齊太公世家第二（四格空）史記三十二」、「秦始皇本紀第六（四格空）史記六」、「孔

子世家第十七（四格空） 史記四十七（一）絳侯周勃世家第二十七（一格空） 史記五十七。

〔尾題〕「呉太伯世家第一（四格空） 史記三十一」、「齊太公世家第二（四格空） 史記三十二」、「秦始皇本紀第六（四格空） 史記六」、「孔子世家第十七（四格空） 史記四十七」（一）絳侯周勃世家第二十七（一格空） 史記五十七。

〔本文〕 八行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（世家第一、二・三・九×一七・二種）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「史記家一（家二・紀六・家十七・家十八・家二十四（二十七） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六七丁（呉太伯世家第一・二九丁半、齊太公世家第二・三七丁半）、第二冊、六七丁（秦始皇本紀第六・六七丁）、第三冊、六二丁（孔子世家第十七・四四丁、陳涉世家第十八・一八丁）、第四冊、六五丁（曹參世家第二十四・一二丁、留侯世家第二十五・二〇丁、陳丞相世家第二十六・一六丁、絳侯周勃世家第二十七・一七丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「徳富／所有」（双、朱方印）、「蕪／峯」（朱方印）、「蘇峰／清賞」（双、朱方印）、「天下之公／寶須愛護」（朱長方印）、「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」（双、朱方印）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他、上欄と下欄に朱墨による書人が施されている。第一冊の卷末に墨識

語（書入の筆と同筆、「慶長十一丁未秋八月以東福善惠軒之本新加朱墨倭点者也」。川瀬、三五九・三八〇頁、（一）慶長十一年以前刊。本書（第一種本）の刊行は、現在、慶長八年十一月以前であることが明らかになっている（小秋元段『増補太平記と古活字版の時代』、新典社、二〇一八年、第二部第四章参照）。
帙題簽、蘇峰筆、「慶長活字史記^{共四}（慶長十一年云々）跋文在焉／蘇峰珍藏」（墨書）。

史部 一 正史類

24、史記 百三十卷（漢）司馬遷撰

〔請求番号〕 善本書目・六三〇頁

〔体裁〕 大本二九冊。

〔表紙〕 栗皮表紙（見返し改装）。二八・八×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「史記 首」と朱打付書。右肩に「活字板 共二十九冊／蘇峰學人」と朱書。いずれも蘇峰筆。

〔内題〕 「史記索隱序」（低三格）〈朝散大夫国子博士弘文／館學士河内司馬貞撰〉、「史記索隱後序」、「史記正義序」（低三格）〈諸王侍読官議郎守右清／道率府長史張守節上〉、「補史記序（七格空）小司馬氏」、「史記集解序」、「史記正義論例諡法解」（低二格）〈諸王侍読官議郎守右清／道率府長史張守節上〉、「史記目錄」。「三皇本紀（五格空） 補史記（小司馬氏／撰并注）」（太史公自序伝第七十（一格空） 史記一百三十）。

〔尾題〕「史記索隱序」、「史記索隱後序終」、「史記補史序」、「史記集解

序」、「史記正義論例證法解」、「史記目錄終」、「三皇本紀（八格空）補史記」（太史公自序第七十（三格空）史記一百三十）。

〔本文〕每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（三皇本紀、二一・四×一六・六糧）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「史記序一（例二・録一・紀（記）一

（十二）・表一〇・書一〇八・家一〇三十・伝一〇七十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、一一三丁（史記索隱序・二丁、史記索隱後序・二丁半、

史記正義序・一丁半、補史記序・三丁、史記集解序・六丁、史

記正義論例證法解・二二丁、史記目錄・二二丁、三皇本紀・六

丁、五帝本紀第一・四九丁）、第二冊、一一六丁（夏本紀第二・

四〇丁、殷本紀第三・二〇丁、周本紀第四・五六丁）、第三冊、

一一〇丁（秦本紀第五・四三丁、秦始皇本紀第六・六七丁（六六

丁補写）、第四冊、一〇八丁（項籍本紀第七・五一丁、高祖本

紀第八・五七丁）、第五冊、一〇九丁（呂后本紀第九・二二丁、

孝文本紀第十・三〇丁、孝景本紀第十一・一〇丁・孝武本紀第

十二・三八丁、三代世表第一・一〇丁）、第六冊、九六丁（十二

諸侯年表第二・四八丁、六國年表第三・二八丁、秦楚之際月表

第四・二〇丁）、第七冊、一一一丁（漢興以來諸侯年表第五・

三八丁、高祖功臣侯者年表第六・七三丁）、第八冊、九二丁（惠

景間侯者年表第七・一八丁、建元以來侯者年表第八・三〇丁、

建元以來王子年表第九・二四丁、漢興以來將相名臣年表第十・

二〇丁）、第九冊、一二二丁（禮書第一・一八丁・樂書第二・

六〇丁、律書第三・一六丁半、曆書第四・二七丁半）、第一〇

冊、一二〇丁（天官書第五・六四丁、封禪書第六・五六丁）、第

一一冊、一〇七丁（河渠書第七・一一丁、平準書第八・二九

丁、吳太伯世家第一・二九丁半、齊太公世家第二・三七丁半）、

第十二冊、一一四丁（魯周公世家第三・三三丁、燕召公世家第

四・一四丁、管蔡世家第五・一二丁半、陳杞世家第六・一三丁

半、衛康叔世家第七・一七丁半、宋微子世家第八・二四丁半）、

第十三冊、一〇九丁（晉世家第九・五六丁、楚世家第十・五三

丁）、第十四冊、一〇四丁（越王勾踐世家第十一・二二丁、鄭世

家第十二・二三丁、趙世家第十三・六〇丁）、第一五冊、一一九

丁（魏世家第十四・三一丁、韓世家第十五・一五丁、田敬仲完

世家第十六・二九丁、孔子世家第十七・四四丁）、第一六冊、

一〇七丁（陳涉世家第十八・一八丁、外戚世家第十九・二二丁、

楚元王世家第二十・四丁半、荊燕世家第二十一・六丁半、齊悼

惠王世家第二十二・一五丁半、蕭相國世家第二十三・八丁半、

曹相國世家第二十四・二二丁、留侯世家第二十五・二〇丁）、第

一七冊、一一九丁（陳丞相世家第二十六・一六丁、絳侯周勃世

家第二十七・一七丁、梁孝王世家第二十八・一五丁、五宗世家

第二十九・一二丁半、三王世家第三十・一九丁半、老子伯夷列

伝第一・一六丁、管晏列伝第二・七丁、申不害韓非列伝第三・

一一丁半、司馬穰直列傳第四・四丁半）、第一八冊、一一六丁（孫子吳起列傳第五・一一丁、伍子胥列傳第六・一五丁、仲尼弟子列傳第七・三四丁・商君列傳第八・一五丁、蘇秦列傳第九・四二丁）、第一九冊、一一二丁（張儀列傳第十・三二丁半、樗里子甘茂列傳第十一・一六丁半、穰侯列傳第十二・九丁、白起王子甘茂列傳第十三・一四丁、孟子荀卿列傳第十四・九丁半、孟嘗君列傳第十五・一六丁半、平原君虞卿列傳第十六・一五丁）、第二〇冊、一一七丁（信陵君列傳第十七・一一丁半、春申君列傳第十八・一四丁半、范雎蔡澤列傳第十九・三二丁半、樂毅列傳第二十・一二丁、廉頗藺相如列傳第二十一・一七丁、田單列傳第二十二・六丁半、魯仲連鄒陽列傳第二十三・二三丁）、第二一冊、一〇二丁（屈原賈生列傳第二十四・二二丁半、呂不韋列傳第二十五・一〇丁半、刺客列傳第二十六・二八丁半、李斯列傳第二十七・三二丁半、蒙恬列傳第二十八・八丁）、第二二冊、一一二丁（張耳陳余列傳第二十九・二〇丁、魏豹彭越列傳第三十・七丁半、黥布列傳第三十一・一三丁、淮陰侯列傳第三十二・二六丁半、韓信盧綰列傳第三十三・一二丁半、田儼列傳第三十四・八丁、樊鄴滕灌列傳第三十五・二五丁）、第二三冊、一〇二丁（張丞相列傳第三十六・一七丁、酈生陸賈列傳第三十七・一八丁半、傅靳蒯成列傳第三十八・六丁半、劉敬叔孫通列傳第三十九・一四丁半、季布欒布列傳第四十・八丁、袁盎鼂錯列傳第四十一・一三丁半、張釋之馮唐列傳第

四十二・一一丁半、萬石君張叔列傳第四十三・一二丁半）、第二四冊、一〇四丁（田叔列傳第四十四・一〇丁半、扁鵲倉公列傳第四十五・四二丁半、吳王濞列傳第四十六・二二丁、魏其武安侯列傳第四十七・二〇丁、韓長孺列傳第四十八・一〇丁）、第二五冊、一一三丁（李將軍列傳第四十九・一四丁、匈奴列傳第五十・四七丁半、衛將軍驃騎列傳第五十一・二九丁半、平原侯主父列傳第五十二・二二丁）、第二六冊、一〇三丁（南越列傳第五十三・一三丁、東越列傳第五十四・七丁、朝鮮列傳第五十五・六丁、西南夷列傳第五十六・八丁、司馬相如列傳第五十七・六九丁）、第二七冊、一二三丁（淮南衡山列傳第五十八・三一丁、循吏列傳第五十九・五丁、汲鄭列傳第六十・一二丁、儒林列傳第六十一・一七丁、酷吏列傳第六十二・二八丁、大宛列傳第六十三・三〇丁）、第二八冊、八五丁（游侠列傳第六十四・一〇丁、佞幸列傳第六十五・五丁半、滑稽列傳第六十六・三二丁半、日者列傳第六十七・九丁半、龜策列傳第六十八・三七丁半）、第二九冊、七五丁（貨殖列傳第六十九・三〇丁、太史公自序傳第七十・四五丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「德富氏／圖書記」（朱長方印）。

〔備考〕朱引、朱句説点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、書入が施されている。第一冊の巻首と巻末に蘇峰の墨識語、「蘇峯自誌／大正三年一月念二全部二十九冊／繕修全成矣予之於此書其／苦心用

カ蓋不鮮少也後人珍／重護持希莫毀損云尔」（卷首）、「大正二年五月赴テ東金東漸寺偶然発見此／書七月廿八日再訪需此寺僧不容大正三年／一月十二日□山生齋来焉予報以此刊書／若干蘇峯自誌一（卷末）、「此書狼藉于□□中不曝涼蓋幾十年矣／蠹魚紛々出從頁中今更加繕修云尔」（卷末）。さらに後表紙の見返しにも蘇峰の朱識語、「是書於東漸寺□□極矣今繕修／告成安置于成篁堂中可／謂得其所也 大正三二月念九 猪誌」。川瀬、三五九・三八〇頁、(二) 慶長元和中刊、図録篇一九七図に成篁堂文庫本の図版を収む。

史部 一 正史類

25、史記 百三十卷 (漢) 司馬遷撰

〔請求番号〕善本書目・六三〇頁

〔体裁〕大本五〇冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）丹空押雷文繋ぎ牡丹唐草文様表紙。二九・一

×二一・〇糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（一一・五×三・四糎）、「史記〈序／搃目〉

（一）百二十九之三十／終」。

〔内題〕「史記索隱序／〈朝散大夫国子博士弘文／館學士河内司馬貞撰〉」、

「史記索隱後序」、「史記正義序／〈諸王侍讀宣議郎守右／道率府

長史張守節上〉」、「補史記序（七格空）小司馬氏」、「史記集解

序」、「史記目錄」、「史記正義論例證法解／〈（低二格）諸王侍讀

宣議郎守右清／道率府長史張守節上〉」、「三皇本紀（五格空）補史記（小司馬氏／撰并注）」（～太史公自序伝第七十（一格空）史記一百三十）。

〔尾題〕「史記索隱序」、「史記索隱後序終」、「史記正義序終」、「史記補史

序」、「史記集解序（一格空）終」、「史記目錄（一格空）終」、「史

記正義論例證法解」、「三皇本紀（七格空）補史記」（～太史公自

序第七十（三格空）史記一百三十）。

〔本文〕每半葉九行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（史記索隱序、二一・九×一六・六糎、三皇本紀、

二一・九×一六・五糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「史記序一（録一・例二・紀一（～十）・

記十一・十二・表一～十・書一～八・家一～三十・伝一～七十）

丁附」。

〔丁数〕第一冊、五三丁（史記索隱序・二丁、史記索隱後序・二丁、史

記正義序・二丁、補史記序・三丁、史記集解序・五丁、史記

目錄・一九丁、史記正義論例證法解・二〇丁）、第二冊、四八

丁（三皇本紀・五丁、五帝本紀第一・四三丁）、第三冊、五三丁

（夏本紀第二・三五丁、殷本紀第三・一八丁）、第四冊、五〇丁

（周本紀第四）、第五冊、三八丁（秦本紀第五）、第六冊、六〇丁

（秦始皇本紀第六）、第七冊、四五丁（項羽本紀第七）、第八冊、

五二丁（高祖本紀第八）、第九冊、四六丁（呂太后本紀第九・

一九丁、孝文本紀第十・二七丁）、第一〇冊、四三丁（孝景本紀

第十一·九丁·孝武本紀第十二·三四丁)、第一一冊、八七丁
(三代世表第一·一〇丁、十二諸侯年表第二·四八丁、六國年表
第三·二九丁(二八丁重複)、第一二冊、五八丁(秦楚之際月
表第四·二〇丁、漢興以來諸侯年表第五·三八丁)、第一三冊、
七三丁(高祖功臣侯者年表第六)、第一四冊、九二丁(惠景間侯
者年表第七·一八丁、建元以來侯者年表第八·三〇丁、建元以
來王子年表第九·二四丁、漢興以來將相名臣年表第十·二〇丁)、
第一五冊、七一丁(禮書第一·一七丁·樂書第二·五四丁)、第
一六冊、四〇丁(律書第三·一五丁、曆書第四·二五丁)、第
一七冊、五七丁(天官書第五)、第一八冊、五〇丁(封禪書第
六)、第一九冊、三六丁(河渠書第七·一〇丁、平準書第八·
二六丁)、第二〇冊、六〇丁(吳太伯世家第一·二七丁、齊太公
世家第二·三三丁)、第二一冊、六六丁(魯周公世家第三·二九
丁、燕召公世家第四·一三丁、管蔡世家第五·一二丁、陳杞世
家第六·一二丁)、第二二冊、三八丁(衛康叔世家第七·一六丁、
宋微子世家第八·二二丁)、第二三冊、五〇丁(晉世家第九)、
第二四冊、四七丁(楚世家第十)、第二五冊、三九丁(越王勾踐
世家第十一·一九丁、鄭世家第十二·二〇丁)、第二六冊、五四
丁(趙世家第十三)、第二七冊、六七丁(魏世家第十四·二八丁、
韓世家第十五·一三丁、田敬仲完世家第十六·二六丁)、第二八
冊、五五丁(孔子世家第十七·三九丁、陳涉世家第十八·一六
丁)、第二九冊、五三丁(外戚世家第十九·二〇丁、楚元王世

家第二十·五丁、荊燕世家第二十一·六丁、齊悼惠王世家第
二十二·一四丁、蕭相國世家第二十三·八丁)、第三〇冊、五九
丁(曹相國世家第二十四·一一丁、留侯世家第二十五·一八丁、
陳丞相世家第二十六·一四丁、絳侯周勃世家第二十七·一六
丁)、第三一冊、四三丁(梁孝王世家第二十八·一四丁、五宗
世家第二十九·一二丁、三王世家第三十·一七丁)、第三二
冊、六〇丁(老子伯夷列傳第一·一五丁、管晏列傳第二·七
丁、申不害韓非列傳第三·一〇丁、司馬穰苴列傳第四·四丁、
孫子吳起列傳第五·一〇丁、伍子胥列傳第六·一四丁)、第
三三冊、七九丁(仲尼弟子列傳第七·三〇丁·商君列傳第八·
一二丁(卷首丁欠)、蘇秦列傳第九·三七丁)、第三四冊、六三
丁(張儀列傳第十·二八丁、樗里子甘茂列傳第十一·一五丁、
穰侯列傳第十二·八丁、白起王翦列傳第十三·一二丁)、第
三五冊、六一丁(孟子荀卿列傳第十四·九丁、孟嘗君列傳第
十五·一五丁、平原君虞卿列傳第十六·一四丁、信陵君列傳第
十七·一〇丁、春申君列傳第十八·一三丁)、第三六冊、六〇
丁(范雎蔡澤列傳第十九·二九丁、樂毅列傳第二十·一一丁、
廉頗藺相如列傳第二十一·一五丁、田單列傳第二十二·五丁)、
第三七冊、五一丁(魯仲連鄒陽列傳第二十三·二一丁、屈原
賈生列傳第二十四·二〇丁、呂不韋列傳第二十五·一〇丁)、
第三八冊、六二丁(刺客列傳第二十六·二六丁、李斯列傳第
二十七·二九丁·蒙恬列傳第二十八·七丁)、第三九冊、六一

丁（張耳陳余列伝第二十九・一八丁、魏豹彭越列伝第三十・七丁、黥布列伝第三十一・一二丁、淮陰侯列伝第三十二・二四丁）、第四〇冊、五八丁（韓信盧縮列伝第三十三・一二丁・田儻列伝第三十四・八丁、樊滕灌列伝第三十五・二二丁、張丞相列伝第三十六・一六丁）、第四一冊、五六丁（酈生陸賈列伝第三十七・一七丁、傅靳蒯成列伝第三十八・六丁、劉敬叔孫通列伝第三十九・一三丁、季布欒布列伝第四十・七丁、袁盎鼂錯列伝第四十一・一三丁）、第四二冊、六八丁（張釋之馮唐列伝第四十二・一〇丁、萬石君張叔列伝第四十三・一一丁、田叔列伝第四十四・九丁、扁鵲倉公列伝第四十五・三八丁）、第四三冊、五八丁（吳王濞列伝第四十六・一八丁、魏其武安侯列伝第四十七・一八丁、韓長孺列伝第四十八・九丁、李將軍列伝第四十九・一三丁）、第四四冊、六八丁（匈奴列伝第五十・四二丁、衛將軍驃騎列伝第五十一・二六丁）、第四五冊、五一丁（平津侯主父列伝第五十二・二〇丁、南越列伝第五十三・一二丁、東越列伝第五十四・六丁、朝鮮列伝第五十五・六丁、西南夷列伝第五十六・七丁）、第四六冊、六二丁（司馬相如列伝第五十七）、第四七冊、五七丁（淮南衡山列伝第五十八・二七丁、循吏列伝第五十九・五丁、汲鄭列伝第六十・一〇丁、儒林列伝第六十一・一五丁）、第四八冊、六〇丁（酷吏列伝第六十二・二五丁、大宛列伝第六十三・二六丁、游侠列伝第六十四・九丁）、第四九冊、六七丁（佞幸列伝第六十五・五丁、滑稽列

伝第六十六・二〇丁、日者列伝第六十七・九丁、龜策列伝第六十八・三三丁）、第五〇冊、六六丁（貨殖列伝第六十九・二六丁、太史公自序傳第七十・四〇丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「蘇峰學人／徳富氏愛／藏圖書記」（双、朱方印・大）、「天下之公／寶須愛護」（朱長方印）、「蘇峰／清賞」（双、朱方印）、「徳富／所有」（双、朱方印）、「天下之／公寶／須珍惜／愛護蘇峰屬」（双、朱方印・大）、「青山／艸堂」（朱方印、陰刻）、「I／TOKUTOMI」（朱丸印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

第一冊の後表紙見返しに、鉛筆書の購書識語、「38. 5. 1 / 五十冊 / 40、/ 琳」（明治三八年五月一日、琳琅閣書店）。川瀬三五九・三八〇頁、(三) 慶長元和中刊、図録篇一九八図に成實堂文庫本の図版を収む。

史部 一 正史類

26、史記 存卷二―四・七―十二・十八―二十二・二十七―三十・三十七―四十二・五十四―六十・百二―百三十（漢）司馬

遷撰

〔請求番号〕善本書目・六三〇頁

〔体裁〕大本一五冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・五×二〇・八糎。四針袋綴。第一三

冊の前表紙(天地逆)は、後表紙の付け替え。綴部に「全部二十四冊」と墨書されているが、不審。

〔題簽〕 無。第八冊のみ左肩に「史記」と打付書。

〔内題〕 「夏本紀第二(五格空) 史記二」(〓孝武本紀第十二(四格空) 史記十二)、「高祖功臣侯年表第六(二格空) 史記十八」(〓漢興以来将相名臣年表第十(一格空) 史記二十二)、「天官書第五(六格空) 史記二十七」(〓平準書第八(六格空) 史記三十)、「衛康叔世家第七(四格空) 史記三十七」(〓三王世家第三十(四格空) 史記六十)、「張釈之馮唐列伝第四十二(一格空) 史記一百二」(〓太史公自序伝第七十(二格空) 史記一百三十)。

〔尾題〕 「夏本紀第二(七格空) 史記二」(〓孝武本紀第十二(四格空) 史記十二)、「高祖功臣年表第六(二格空) 史記十八」(〓漢興以来将相名臣年表第十史記二十二)、「天官書第五(六格空) 史記二十七」(〓平準書第八(六格空) 史記三十)、「衛康叔世家第七(四格空) 史記三十七」(〓三王世家第三十(四格空) 史記六十)、「張釈之馮唐列伝第四十二(一格空) 史記一百二」(〓太史公自序伝第七十(三格空) 史記一百三十)。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边(本紀第二、二一・六×一六・七糶)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「史記紀二」(〓十二)・表六〓十・書五〓八・家七〓三十・伝四十二〓七十) 丁附)。

〔丁数〕 第一冊、一一六丁(夏本紀第二・四〇丁、殷本紀第三・二〇丁、

周本紀第四・五六丁)、第二冊、一〇八丁(項籍本紀第七・五一丁、高祖本紀第八・五七丁)、第三冊、五一丁(呂太后本紀第九・二一丁、孝文本紀第十・三〇丁)、第四冊、四八丁(孝景本紀第十一・一〇丁・孝武本紀第十二・三八丁)、第五冊、一六五丁(高祖功臣侯年表第六・七三丁、惠景間侯者年表第七・一八丁、建元以来侯者年表第八・三〇丁、建元以来王子年表第九・二四丁、漢興以来将相名臣年表第十・二〇丁)、第六冊、一六〇丁(天官書第五・六四丁、封禪書第六・五六丁、河渠書第七・一一丁、平準書第八・二九丁)、第七冊、九八丁(衛康叔世家第七・一七丁半、宋微子世家第八・二四丁半、晋世家第九・五六丁)、第八冊、九七丁(楚世家第十・五三丁、越王勾踐世家第十一・二一丁、鄭世家第十二・二三丁)、第九冊、一一九丁(孔子世家第十七・四四丁、陳涉世家第十八・一八丁、外戚世家第十九・二二丁、楚元王世家第二十・四丁半、荆燕世家第二十一・六丁半、齊悼惠王世家第二十二・一五丁半、蕭相国世家第二十三・八丁半)、第一〇冊、一一二丁(曹相国世家第二十四・一二丁、留侯世家第二十五・二〇丁、陳丞相世家第二十六・一六丁、絳侯周勃世家第二十七・一七丁、梁孝王世家第二十八・一五丁、五宗世家第二十九・一二丁半、三王世家第三十・一九丁半)、第一一冊、七七丁(張釋之馮唐列伝第四十二・一一丁半、萬石君張叔列伝第四十三・一二丁半、田叔列伝第四十四・一〇丁半、扁鵲倉公列伝第四十五・四二丁

半)、第二二冊、一四一丁(吳王濞列伝第四十六・二二丁、魏其武安侯列伝第四十七・二〇丁、韓長孺列伝第四十八・一〇丁、李將軍列伝第四十九・一四丁、匈奴列伝第五十・四六丁半、衛將軍驃騎列伝第五十一・二九丁半)、第三冊、一二五丁(平津侯主父列伝第五十二・二二丁、南越列伝第五十三・一三丁、東越列伝第五十四・七丁、朝鮮列伝第五十五・六丁、西南夷列伝第五十六・八丁、司馬相如列伝第五十七・六九丁)、第一四冊、一三三丁(淮南衡山列伝第五十八・三一丁、循吏列伝第五十九・五丁、汲鄭列伝第六十・一二丁、儒林列伝第六十一・一七丁、酷吏列伝第六十二・二八丁、大宛列伝第六十三・三〇丁、游侠列伝第六十四・一〇丁)、第一五冊、一五〇丁(佞幸列伝第六十五・五丁半、滑稽列伝第六十六・二二丁半、日者列伝第六十七・九丁半、龜策列伝第六十八・三七丁半、貨殖列伝第六十九・三〇丁、太史公自序傳第七十・四五丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」(双、朱方印・大)、「善本」(双、朱長方印)、「成實堂／圖書記」(朱長方印)。

〔備考〕朱句読点、第一冊には他に朱書入もあり。第一四冊の後表紙見返しに鉛筆書の購書識語、「39. 11. 5 / 十八冊 / 12. 0 / 琳

(明治三九年一月五日、琳琅閣書店)。

川瀬、三五九・三八〇頁、(二)慶長元和中刊。

史部 一 正史類

27、前漢書 存目錄・卷百 (漢)班固撰・(唐)顏師古注

〔請求番号〕善本書目・六四一頁

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文襷に兩竜文様表紙(裏打修補)。二七・七×

二〇・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「前漢書」□□、「前漢書」_百と打付書。第二冊の右肩

には、「列伝／叙伝_上／同_下」と墨書。

〔内題〕「前漢書目錄」。

〔尾題〕「前漢書目錄」。

〔本文〕一〇行×一七字。大型活字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(七十上、二一・七×一六・六糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「前漢目錄(前漢伝七十上(前漢伝七十

下・前漢末・跋・後) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一七丁(前漢書目錄)、第二冊、六三丁(叙伝第七十

上・二九丁、叙伝第七十下・二九丁、末・三丁、宣徳三年朝鮮

本の原跋・一丁、後・一丁)。

〔刊記〕「(低二格)寛永第五(戊辰)曆菊月廿一日(大字) / (低五

格)於洛陽本能寺前刊行焉」。

〔印記〕無。

〔備考〕誤植訂正若干。川瀬、二八一・三六三・三八一・八二五頁。帙

入(題簽、「前漢書目錄及終篇(共/二)」、蘇峰筆)。

28、貞觀政要 十卷 (唐) 吳兢撰 (元) 戈直注

〔請求番号〕善本書目・六三五頁

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)茶色表紙。二九・〇×二〇・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。目錄題紙片(二七・七×一六・〇糎)、墨書、「君道/政體

(征代/安邊)共十」(第一〇冊剥落)。

〔内題〕「御製貞觀政要序」、「貞觀政要集論題辭」、「貞觀政要序/ (低一

格)唐衛尉少卿兼脩国史修文館學士吳兢/ (低一格)撰」、「貞

觀政要(六格空)戈直集論」、「貞觀政要卷第一」、「貞觀政要卷

第二(一十)(四格空)戈直集論」。

〔尾題〕「貞觀政要卷第一(一十終)」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(序、二一・五×一五・〇糎、卷第一、二一・六×

一五・二糎)、有界。

〔版心〕黒口及花口魚尾、中縫、「貞觀序(目錄・貞觀姓氏・貞觀一(十

丁附)。

〔丁数〕第一冊、六五丁(御製貞觀政要序・二丁、貞觀政要集論題辭・

五丁、貞觀政要序・二丁、目錄・四丁、集論諸儒姓氏・二丁、

貞觀政要・一丁、卷第一・四九丁)、第二冊、一〇〇丁(卷第

二)、第三冊、六五丁(卷第三)、第四冊、五八丁(卷第四)、第

五冊、六四丁(卷第五)、第六冊、五六丁(卷第六)、第七冊、

四三丁(卷第七)、第八冊、四二丁(卷第八)、第九冊、四二丁

(卷第九)、第一〇冊、四〇丁(卷第十)。

〔刊記〕「(低一格)元和九(癸/亥)初冬吉辰(一格空)〈三條白壁町

/忠田吉兵衛開板)」。

〔印記〕「德富氏」(双、朱長方印)、「蘇峰/清賞」(双、朱方印)、「天下

之公/寶須愛護」(朱長方印)。卷首右下方印切除。

〔備考〕第二冊を除き、無書入。第一冊の見返し下部に、「慶長活字

/貞觀政要/共十」と墨書(蘇峰筆)のある紙片を貼付。帙

入(題簽、蘇峰筆、慶長活字貞觀政要 共/拾)。川瀬、

三六二・八二六頁。

29、貞觀政要 十卷 (唐) 吳兢撰 (元) 戈直注

〔請求番号〕善本書目・六三五頁

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕柿洪刷毛目文様覆表紙附。二八・六×二〇・〇糎。第一冊、縹

色表紙。第二冊目以下、縹色空押雷文襷に雨竜文様表紙。四針

袋綴。

〔題簽〕覆表紙、無。右肩に「菅原聡長卿手校本/貞觀政要」(第一冊)、

「貞觀政要二(一十)」と墨書。第一冊の表紙、左肩に後補の書

題簽(一六・三×四・〇糎)、「貞觀政要 一」、第二冊以下の表

紙、左肩に後補の書題簽(一六・一×四・〇糎)、「貞觀政要二

〔十終〕。第一冊と二冊目以下は別筆。

〔内題〕「御製貞觀政要序」、「貞觀政要集論題辭」、「貞觀政要序／（低一格）唐衛尉少卿兼脩国史修文館学士吳兢／（低一格）撰」、「貞觀政要（六格空）戈直集論」、「貞觀政要卷第一」、「貞觀政要卷第二（一十）（四格空）戈直集論」。

〔尾題〕「貞觀政要卷第一（一十終）」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（卷第二、二一・五×一五・一糧）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「貞觀二（一十）丁附」。

〔丁数〕第一冊、六五丁（全丁補写、御製貞觀政要序・二丁、貞觀政要集論題辭・五丁、貞觀政要序・二丁、目錄・四丁、集論諸儒姓氏・二丁、貞觀政要・一丁、卷第一・四九丁）、第二冊、一〇〇丁（卷第二、第三冊、六五丁（卷第三）、第四冊、五八丁（卷第四）、第五冊、六四丁（卷第五）、第六冊、五六丁（卷第六）、第七冊、四三丁（卷第七）、第八冊、四二丁（卷第八）、第九冊、四二丁（卷第九）、第一〇冊、四〇丁（卷第十）。

〔刊記〕「（低一格）元和九（癸／亥）初冬吉辰（二格空）〈三條白壁町／忠田吉兵衛開板〉」。

〔印記〕「東坊／城藏／書記」（朱方印、陰刻）、「山陰圖書」（朱長方印、東坊城山陰）、「獅谷蓮社藏本」（朱楯田印、陰刻）、「无礙菴」（朱長方印、今泉雄作）、「徳富氏／珍藏記」（朱長方印、陰陽刻）。

第一冊は、「東坊／城藏／書記」、「山陰圖書」、「无礙菴」の三印。

〔備考〕朱引、朱・藍で句読点、墨・藍で返点、振仮名、送仮名、複数の異本との校合有。卷第三の卷末他に菅原聡長による識語あり。

「天保六年十二月十六日与式部大輔為定四位長材朝臣少納言在久朝臣一過了／右大弁菅原聡長」（卷第三卷末、墨書）、「以阿波介藤以文本一校畢／文政元年八月八日夜 少納言菅聡長」（卷第四、後表紙見返し、朱書）、「文政元年八月四日一校畢 同年十二月十二日一過畢／同二年初春十日与傍翰坏為定朝臣対読 少納言聡長」（卷第六、後表紙見返し、朱書）、「文政二年六月卅日夜一過畢于時涼風 少納言菅原聡長」（卷第九卷末、朱書）、「嘉永四年五月十一日偶直之暇於燈下一過（二格空）権中納言菅（花押）」（卷第九卷末、墨書）。他、山田以文校本等の識語や伏見版の刊語等を書写した紙片、大正四年十月の蘇峰による識語を記した紙片、合わせて六枚を添付。

「本云／安元三年二月五日奉授／主上既訖／正三位行宮内卿兼式部大輔播磨權守藤原朝臣永範／永久二年仲春二十五日点訖（三格空）良兼／合証本等又加白点訖／秘本也（八格空）永範／建久第五年九月二十一日詣三品李部大卿書閣説合畢有秘説等／匠作員外（一格空）少（朱）（一格空）手伊賀朱（一格空）藤孝範／建保四年夷則二十五日受嚴訓訖／文章得業生經範／嘉祿三年四月二十四日合（一格空）二條院御本并八條左相府証本畢／刑部権少輔經範」（第一紙、表）「建長三年二月十日以家説授茂才明範既訖／三品李部大卿經範／建長六年三月二十日以家説授小男淳範

既訖／三品夷部大卿經範」(第一紙、裏)。「江家本奥書如左(朱)／本云／以累代秘說本奉授／聖弘三年三月五日(一格空)吏部大卿江判朱云／寛弘九年閏七月念一日藤家本一校了／江匡衡」(第二紙、表)、「此一卷以江家旧卷(卷子本有／匡衡奥書)伝写本校正訖称江本者／是也余卷今逸惜哉／以源容所元寛校本再校訖(此本有多福文庫印／元和活版也)／以清国嘉慶戊午重鐫掃葉山房刻本再訂訖／所称清本是也／文政元年八月一日 阿波介藤原以文」(第二紙、裏)、「永禄本云(朱)／貞觀政要卷第二(二格空)〈以長雅卿親与本校合乎古止点等写之／称永本是也菅家累世之本也藤以文〉(朱)／本云手自校衆本勘本文扱善合点了／三品李尸(部) 員外大卿菅判／建保四年五月十一日授男著作即長貞了／大府卿菅為一／嘉禄元年八月九日候于九條前殿下旦読判／貞心三年閏余七月十六日授男長成了／李部大卿判／安貞二年四月二日授男高長了／大府卿判」(第三紙、表)、「嘉禎四年五月一日授少子長明孫家長等了／李部大卿判／仁治三年七月廿八日侍／当今皇帝御読／大藏卿兼式部大輔判／弘長二年三月二日授愚息清長一／李部大卿判／永仁五年十二月五日以家説重授正修上人一／從二位菅清長判／永仁七年三月十日以説授小童摩殊丸了(生年十二才／明玄判)〈永本／朱印／如此〉／永禄三年四月終書功了／李部大卿菅長雅(文化六年十二月以文以此／菅長親卿書写本再校)(朱)／右菅長雅卿親写本奥書也此本(船橋／五條)家所藏也云(朱)」(第三紙、裏)、「慶長五年伏見版の刊語

／右慶長刻本之跋本文七行十七字活版也此旧版今藏于城州円光寺云／寛五年十一月 錦所藤以文誌」(第四紙)、「古本校合凡例／八條左府本 二條院御点本 菅本／或本 南家本異本／古本一本 摺本／イ本 □本 家本／永本(菅長雅卿親写本／有永禄三年之奥書／故称永本今為五條／家藏)(朱) 江家本(原本卷子本有匡衡／朝臣奥書故称江本)(朱)」(第五紙)、「是書菅原聰長卿手校本也其所／参証者安元永仁本以下暨于□／□嘉度板良罕觀之珍籍也／不為止元和活字版也／大正乙卯十月初二／蘇峯自誌」(第六紙)。第一冊、後表紙の見返しに鉛筆書購書メモ「16、／4・8・26／文行／十冊」(大正四年八月二六日、文行堂書店)。

史部 五 雜史類

30、貞觀政要 十卷 (唐) 吳兢撰 (元) 戈直注

〔請求番号〕善本書目・六三六頁

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二六・〇×一八・三釐。四針袋綴(康熙綴)。

〔題簽〕無。左肩に「貞觀政要」と打付書。

〔内題〕「御製貞觀政要序」、「貞觀政要集論題辭」、「貞觀政要序／(低一格) 唐衛尉少卿兼脩国史修文館学士吳兢／(低一格) 撰」、「貞觀政要(六格空) 戈直集論」、「貞觀政要卷第一」、「貞觀政要卷第二(一十) (四格空) 戈直集論」。

〔尾題〕「貞觀政要卷第一（一十終）」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（序、二一・五×一五・〇糎、卷第一、二一・六×一五・一糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「貞觀序（目録・貞觀姓氏・貞觀一）十丁附」。

〔丁数〕第一冊、六五丁（御製貞觀政要序・二丁、貞觀政要集論題辭・五丁、貞觀政要序・二丁、目録・四丁、集論諸儒姓氏・二丁、貞觀政要・一丁、卷第一・四九丁）、第二冊、九九丁（卷第二、五四丁欠）、第三冊、六五丁（卷第三）、第四冊、五八丁（卷第四）、第五冊、六四丁（卷第五）、第六冊、五六丁（卷第六）、第七冊、四三丁（卷第七）、第八冊、四二丁（卷第八）、第九冊、四二丁（卷第九）、第一〇冊、四〇丁（卷第十）。

〔刊記〕「（低一格）元和九（癸／亥）初冬吉辰（一格空）〈三條白壁町／忠田吉兵衛開板〉」。

〔印記〕「報國館」（朱椿四印）、「明治／文庫」（朱方印）、「成實／堂／藏書」（朱方印・大）、「須愛護／蘇峰／囑」（朱印）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「蘇／峰」（朱方印）、「徳富文庫」（双、朱長方印）、「徳富／猪式郎／之章」（朱方印・大）。

〔備考〕無書入。前表紙見返しに鉛筆書購書メモ「38・3・22／琳／6、／十冊」（明治三八年三月二二日、琳琅閣書店）。桐箱（「貞觀政要／全十冊」、墨書紙片貼付）入。

史部 五 雜史類

31、貞觀政要 十卷（唐）吳兢撰（元）戈直注

〔請求番号〕善本書目・六三六頁

〔体裁〕大本、五冊。

〔表紙〕茶色裏打改装表紙（第一冊の前表紙のみ色違いの茶）。二九・四×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。第一冊、右下に「零本五冊／自六至十」、左肩に「元和活字／貞觀政要」と朱書（蘇峰筆）。

〔内題〕「貞觀政要卷第六（一十）（五格空） 戈直集論」。

〔尾題〕「貞觀政要卷第六（一十終）」。

〔本文〕每半葉七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（卷第六、二一・七×一五・〇糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「貞觀六（一十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五六丁（卷第六、五四・五五丁乱丁）、第二冊、四三丁（卷第七）、第三冊、四二丁（卷第八）、第四冊、四二丁（卷第九）、第五冊、四〇丁（卷第十）。

〔刊記〕「（低一格）元和九（癸／亥）初冬吉辰（一格空）〈三條白壁町／忠田吉兵衛開板〉」。

〔印記〕「蘇峰學人／徳富氏愛／藏圖書記」（朱方印・大）。

〔備考〕書入は、第一冊の五六丁表に朱引と朱句読点が施されるのみ。第一冊の前表紙見返しに蘇峰の識語。「大正二七月念八夜／十月十四日修／是書有下半無上半他日／期合璧完備云尔／大正二年

十月旬記／蘇峯自記」。見返し下部に「元和活字／貞觀政要／零本五」と墨書のある紙片を貼付。

史部 八 伝記類 雑伝

32、君臣図像 二卷

〔請求番号〕善本書目・六二六頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕薄茶色（香色）表紙（押八双はあるが、後補か）。三二・九×

二四・三糎、四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽（二〇・二×四・二糎）、「君臣図像 上

（下）」。

〔内題〕「（低二格）続刊聖賢図序」、「（低二格）題聖賢像」、「（低三格）

歴代君臣図像序」。

〔尾題〕「上（下）終」。

〔本文〕行数不等×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺（続刊聖賢図序・伏犧、二五・九×一九・七糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「君臣図像上（下）序・君臣図目録（

丁附」。

〔丁数〕一一三丁（続刊聖賢図序・一丁、題聖賢像・一丁、歴代君臣図

像序・二丁、目録・二丁、伏犧／閩王・三九丁、二四丁・梁武

帝欠、倉頡／許魯齋・六八丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕題簽に、「要齋／珍藏」（朱方印、細野要齋、一八一―）

一八七八、儒者）、巻首に「御／本」（朱方印、徳川義直）。

〔備考〕無書入。帙題簽蘇峯筆、「朝鮮活版君臣図像（御本印鈴在焉／共

二冊嘉靖四年／刊行）印〓極・蘇・峯」、帙に蘇峯の墨識語、「蘇

峯学人／此書徳川氏秘府之蔵儲也其／享保年前逸出于人間者／

近藤守重右文故事所記／歴々可徴也巻頭有御本／朱印是則徳川

家康蔵書／印記也明治四十一年五月念三」、前表紙の見返しに蘇

峯の墨識語、「是書成篋堂文庫中稀有之珍籍也／徳川家康手沢本

而享保年前逸出於人／問者也精討博搜之近藤守重尚且不得見／

矧〓他哉然而偶尔歸于成篋堂挿架天／耶命耶抑物〓所〓耶夫豈可

不〓〓宝重乎／明治四十三年十月念記暴書之際／蘇峯学人手記

／蘇峯再考／此書紙質帙類本邦産是須研究／也 大正丙辰八月

念七」。

史部 八 伝記類 雑伝

33、※君臣図像 二卷

〔請求番号〕善本書目・六二六頁

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）丹表紙。三四・一×二四・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕左肩に原刷題簽（二二・三×四・六糎）、「君臣図像 上（下）」。

〔内題〕「（低二格）続刊聖賢図序」、「（低二格）題聖賢像」、「（低三格）

歴代君臣図像序」。

〔尾題〕「上(下)終」。

〔本文〕行数不等×二〇字。

〔匡郭〕四周双辺(続刊聖賢図序、二五・七×一九・八糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「君臣図像上(下・序・君臣図目録)

丁附」。

〔丁数〕第一冊、四六丁(続刊聖賢図序・一丁、題聖賢像・一丁、歴代

君臣図像序・二丁、目録・二丁、伏犧〱閼王・四〇丁、二三丁

と二四丁乱丁)、第二冊、六八丁(倉頡〱許魯齋)。他、各冊と

も前遊紙一丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「本山／文庫」(朱方印、本山彦一、一八五三〜一九三二)、「徳

富氏(陰刻)／珍蔵記(陽刻)」(朱長方印)。

〔備考〕若干朱訂正の筆入る。第一冊の前遊紙に墨識語、「贈／徳富蘇峯

翁座下 本山彦一」。桐箱(君臣図像 二冊)入。別に覆刻整版

二冊(「淇水老人遺愛」印、「今出河蔵書」印、帙入)を合わせ

て保存。『善本書目』には「前記一本と同版」とあるが、両書は

異植字版の関係にある。

史部 八 伝記類

34、新編排韻増広事類氏族大全 十卷

〔請求番号〕善本書目・六三四頁

〔体裁〕大本九冊。

〔表紙〕丹表紙(押八双有)。二七・七×一九・七糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。第一冊のみ左肩に「排韻増広事類」と打付書。各冊とも右

肩には「成」と墨書あり。

〔内題〕「新編排韻増広事類氏族大全(七格空) 甲集(陰刻)(〱癸集)」。

〔尾題〕「甲集終」(〱壬集終)、「新編排韻増広事類氏族大全終」。

〔本文〕一三行×二四字。小型活字。

〔匡郭〕四周双辺(二一・三×一五・八糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「排韻卷一(〱十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七三丁(甲集)、第二冊、六七丁(乙集)、第三冊、

五七丁(丙集)、第四冊、七〇丁(丁集)、第五冊、六九丁(戊

集)、第六冊、五六丁(己集)、第七冊、五二丁(庚集)、第八冊、

七四丁(辛集)、第九冊、七三丁(壬集・五二丁、癸集・二一

丁)。他、各冊とも前後に遊紙各二丁。

〔刊記〕「(低三格) 元和五(己未) 年九月日」。

〔印記〕「徳富／文庫」(朱方印)、「蘇／峯」(朱方印)、「天下之公／寶須

愛護」(朱長方印)、「トク／トミ」(亀甲形朱印)、「菅正／敬印」

(朱方印、陰刻)、「蘇／峰」(朱方印)、「蘇峯／珍蔵」(朱長方

印)、「徳／富」(朱方印)、「蘇峰／清賞」(双、朱方印)、「蘇峰

／清賞」(朱方印、陰刻)、「成寶堂」(双、朱長方印)、「徳富／

護持」(双、朱方印)、「成／寶堂／印」(朱)、「青山／艸堂」(朱

方印、陰刻)。

〔備考〕朱引と朱句読点が第一冊には全丁に、他の冊は若干施されてい

る。「〔南北朝〕刊の五山版に基づき、木活字を用い款式を改めた翻印本」(住吉朋彦『中世日本漢学の基礎研究 韻類編』、汲古書院、二〇一二年参照)。

史部 八 伝記類(三) 総録

35、唐才子伝 十卷 (元) 辛文房撰

〔請求番号〕善本書目・六四三頁

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)茶色表紙。二八・六×二〇・三糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「才子伝」と打付書。第一冊のみ右肩に「騰」、その

下に「共三」と墨書。

〔内題〕「唐才子伝目録」、「唐才子伝卷第一(一)七・九・十」/「低十二

格」西域(一格空)辛(一格空)文房(一格空)撰、「唐才子

伝卷第八/「低十二格」西域(一格空)辛(一格空)良史(一

格空)撰」。

〔尾題〕「唐才子伝目録」、「唐才子伝卷第一(一)十」

〔本文〕一二行×二二字。小型活字。

〔匡郭〕四周单边(目録、二一・七×一五・三糎、卷第一、二一・九×

一五・六糎)、無界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「才子卷目(卷一)十」丁附。

〔丁数〕第一冊、四五丁(目録・四丁、卷第一・一四丁、卷第二・一三

丁、卷第三・一四丁)、第二冊、五六丁(卷第四・一三丁、卷第

五・一五丁、卷第六・一四丁、卷第七・一四丁)、第三冊、四四丁(卷第八・一四丁、卷第九・一五丁、卷第十・一五丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「蘇峰/審定」(朱方印)、「天下之公/寶須愛護」(朱長方印)、

「蘇峰學人/徳富氏愛/藏圖書記」(双、朱方印・大)、「正/敬」

(朱方印、陰刻)、「蘇/峰」(朱方印)、「青山艸堂」(朱楷円印、

陰刻)、「蘇峰/讀過」(朱長方印、陰刻)

〔備考〕無書入。第三冊の卷末に徳富蘇峰の墨識語、「蘇峰學人/明治

四十年九月廿三日於仙台東昌寺獲焉/予此唐才子伝凡四部矣其

一即所謂五山板也他兩部即/正保整版也今得此活字板故為四部

也而予喜可知也/朱印、「蘇」「峰」「見」。帙題簽蘇峰筆「古

板活字唐才子伝(共三/蘇峰秘笈」。川瀬、三八三・八二六頁、

寛永中刊。

史部 九 史評類

36、帝鑑図説 二卷 (明) 張居正・(明) 呂調陽撰

〔請求番号〕善本書目・六一七頁

〔体裁〕大本、六冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)薄茶色空押唐花文様表紙。二八・五×

一九・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に原刷題簽(二七・七×四・二糎)、「帝鑑図説

中・和」。

智仁・聖・義・

〔内題〕「帝鑑図説叙」、「帝鑑図説後序」。

〔尾題〕無。

〔本文〕每半葉九行×一九字。挿絵一一七図。

〔匡郭〕四周双辺（叙、二一・七×一四・〇糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「前序（前・聖・前目録・前・中狂・後目録・後・後序） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五八丁（叙・万曆癸酉春吉日礼部尚書兼翰林院学士華亭陸樹声撰・三丁、進図疏・四丁、聖・哲・芳・規・二丁、目録・五丁、任賢図治止賛受言・四四丁）、第二冊、五三丁（納諫賜金留納戒奢）、第三冊、六〇丁（弘文開館遺使賑恤）、第四冊、五七丁（延英忘倦燭送詞臣）、第五冊、五七丁（狂・愚・覆・轍・二丁、目録・三丁、遊畋失位笑祖儉徳・五二丁）、第六冊、四九丁（金蓮布地任用六賊・四六丁、後序・三丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「徳富／猪一／郎印」（朱方印、陰刻）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「菅正／敬印」（朱長方印、陰刻）、「蘇／峰」（朱方印）、「盡人／事而待／天命」（朱方印・大）。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱傍点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が片仮名で施されている。挿絵に一部近代の筆で彩色（紫・ピンク・黄等、川瀬一馬は江戸末期の筆と見る）。国会本と同版、刷りは良く、国会本より早印。桐箱（蓋、「活／字帝鑑図説／全六冊」、側面下部、「帝／鑑／図／説」と墨書）。

本書は、慶長十一年（一六〇六）、豊臣秀頼が出版したもので、いわゆる秀頼版と称されるものだが、本書を果たして秀頼版と称してよいものかどうか最近疑問が呈されている（高木浩明「古活字版『帝鑑図説』再考―『帝鑑図説』は本当に（秀頼版）か」、井上泰至編『資料論がひらく軍記・合戦図の世界 理文融合型資料論と史学・文学の交差』、勉強出版・アジア遊学262、二〇二一年）。巻末に西笑承兌の跋文を有する「有跋本」と、これを欠く「無跋本」、さらに異植字版がある。前二者は同版であるが、有跋本と無跋本と称することで二版であるかの誤解が生じる可能性があり、注意を要する。さらに異植字版についても、これは前二者と同種活字を用いていることからこう言われるが、実際は別の活字を用いたものであり、異版（別版）と称すべきもの。本書は上記の呼称に従うならば、無跋本。

史部 一四 政書類（五）法令

37、祥刑要覧（明）呉訥撰

〔請求番号〕善本書目・六三九頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補縹色表紙。二七・四×一九・四糎。五針袋綴。右肩に蘇峰の筆で、「活字珍書 主蘇峯字人」と朱書（外題の筆は別筆）。

〔題簽〕無。左肩に「祥刑要覧 全」と朱打付書。

〔内題〕「祥刑要覧序」、「祥刑要覧卷上／（低八格）都台致政海虞呉訥」。

〔尾題〕「祥刑要覽卷終」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。大型活字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边（序、二一・九×一六・一糶）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「祥刑序（祥刑） 丁附」。

〔丁数〕 三九丁（序、正統壬戌秋八月朔嘉議大夫都察院左副都御史致仕海虞呉訥謹序・一丁、「棠陰比事」の後序、景泰辛未夏海虞大耄翁識・二丁、祥刑要覽卷上・三六丁）。

〔刊記〕 「（低一格）寛永元年（一格空）（甲／子）（二格空）三月吉日／（低七格）玉屋町田中長左衛門刊之」。

〔印記〕 「徳富氏／珎藏記」（双、朱長方印、陰・陽刻）。

〔備考〕 朱句説点の他、上欄に朱書入有。前表紙見返しには、蘇峰による鉛筆書の購書メモ、「12・5・17／文／4, 50」（大正一二年五月一七日、文行堂書店）。後表紙の見返しに「右原六憲」と墨書。川瀬、三八七・八三〇頁、（二）寛永元年刊。

子部 一 儒家類

38、晦菴先生語録類要 十八卷（宋）葉士龍編

〔請求番号〕 善本書目・六四六頁

〔体裁〕 大本、五冊。

〔表紙〕 後補纒色表紙。二七・六×一九・七糶。五針袋綴。「正保板活字全五冊／朱文公語録類要」と朱書（蘇峰筆）。

〔題簽〕 無。左肩に「語録（語録 五・語録 十・語録 十四・語録

十七）」と朱打付書。

〔内題〕 「新編晦菴先生語録類要目録／（低八格）後学括蒼葉（一格空）士龍編次」、「晦菴先生語録類要卷第一（一十八）／（低四格）勉齋黃先生門人括蒼葉士龍編次」。

〔尾題〕 「晦菴先生語録類要目録」、「晦菴先生語録類要卷第一（一十八）終」。

〔本文〕 序・語録姓氏・後序、每半葉八行×一七字、大型活字。目録・本文、每半葉一三行×一九字、小型活字。

〔匡郭〕 四周双边（序、二〇・九×一五・二糶、卷第一、二〇・九×一五・四糶）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「語録序一（序二・姓氏・卷目・卷一）十八・後序） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、八四丁（序、嘉熙戊戌仲秋新安朱安謹識・一丁、朱子語録格言序、淳祐甲辰季春下澣粵易王遂書・二丁、語録答問弟子姓氏・二丁、目録・二丁、卷第一・五丁、卷第二・三七丁、卷第三・二〇丁、卷第四・一五丁）、第二冊、六三丁（卷第五・一三丁、卷第六・一六丁、卷第七・一二丁、卷第八・二五丁、卷第九・一七丁）、第三冊、六〇丁（卷第十・一六丁、卷第十一・一二丁、卷第十二・二二丁、卷第十三・二二丁）、第四冊、七五丁（卷第十四・二二丁、卷第十五・一九丁、卷第十六・三四丁）、第五冊、三八丁（卷第十七・一五丁、卷第十八・二〇丁、後序、右文公語録類要十八卷故考亭書院堂長澹

軒葉氏手編之書也……大徳壬寅二月朔後学武夷詹天祥君履書・二丁、後序、右晦菴先生語録類要……成化庚寅秋九月吉日直隸徽州府婺源縣知縣覃懷韓儼謹識／(低一格) 儒士汪道全書(三格空) 古歛黃文敬刊・二丁)。

〔刊記〕「正保三歲極月日／(低三格) 二條鶴屋町田原仁左衛門刊行」。

〔印記〕「中／嚴」(朱丸印)、「石城山」(朱楯印)、「須愛護／蘇峰／囑」(朱)、「蘇峰／清賞」(朱方印、陰刻)、「蘇／峰」(朱方印)、「徳富／猪式郎／之章」(朱方印・大)、「徳富文庫」(双、朱長方印)、「有□／堂印」(朱方印)。

〔備考〕上欄に誤植訂正の字を墨書。第一冊の前表紙見返しに、鉛筆書の購書メモ、「38・3・26／五冊2・0／琳」(明治三八年三月二六日、琳琅閣書店)。帙題簽(蘇峰筆)、「朱文公語録類要共五」、帙に蘇峰の墨識語、「正保年間活字板也是一种之／珍籍也云爾／明治四十一年四月念九／蘇峰学人」。川瀬、三六四・三八五・八二八頁。

子部 一 儒家類

39、孔子家語 三卷 (元) 王廣謀撰

〔請求番号〕善本書目・六一六頁

〔体裁〕大本四冊。

〔表紙〕後補茶色空押縁取り割小菱文様表紙。二八・八×二〇・四糎。

四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「家語一(四)」と打付書。その下に白墨で「晁」、右上に「寒」と墨書。

〔内題〕「新刊標題句解孔子家語目錄／(低六格) 猷(一格空) 堂(一格空) 王(一格空) 廣謀(一格空) 景猷(小字)」、「標題句解孔子家語卷上／(低五格) 猷堂王(一格空) 廣謀(一格空) 景猷(一格空) 句解」、「標題句解孔子家語卷中(下)」、「新刊素王事紀目錄」、「新刊素王事紀」。

〔尾題〕「新刊標題句解孔子家語目錄終」、「標題句解孔子家語卷上(中・卷之下)」、「目錄^畢」、「新刊素王事紀卷終」、「標題句解孔子家語卷下終」。

〔本文〕七行×一七字。注小字双行。上欄に標目。

〔匡郭〕四周双辺(目錄、二二・一×一五・八糎)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「目錄(家語上(中・下)・家語後序・事紀目錄・事紀・孔子廟式・孔子式・家語) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六一丁(目錄・三丁、卷上・五八丁)、第二冊、五三丁(卷中)、第三冊、三五丁(卷下)、第四冊、五七丁(後序・七丁、新刊素王事紀目錄・二丁、新刊素王事紀・二二丁、聖朝通制孔子廟祀・二六丁、刊記・一丁)。他、各冊とも前後に遊紙各一二丁。

〔刊記〕「世際季運而學校教將廢也維時／内府家康公子于武得其名故興廢繼絶／為後学刻梓文字數十万而賜^予退為謝／公之恩惠初開家語此書是聖人與義治世／要文寔非小補也刊字列盤中則明本家／語以數本考正焉或板行有訛謬或文字／有顛倒以亡加之以余刪之雖

如此有帝虎鶴鶴誤者必矣只願待博雅君子改制／焉也謹跋／（一行空）／慶長第四龍集巳亥仲夏吉辰／前学校^三野納於城南伏見里書焉／（二行空）／（低十三格）慈眼刊之。

〔印記〕「佛日／藏書」（朱長方印、円覚寺仏日庵）、「蘇峰學人／徳富氏

愛／藏圖書記」（朱方印）、「天下之公／寶須愛護」（朱長方印）、

「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「成實堂」（朱長方印）。

〔備考〕伏見版。卷上・中・下に朱筆でヲコト点、墨筆で返点、振仮名、

送仮名が施されている。川瀬は、卷末刊語一葉のみ植版を異に

する本があることを指摘する。成實堂文庫には伏見版を二点所

蔵するが、いずれの本も植版を異にしない方の版である（図録

篇・図一七図）が、第一冊、「新刊標題句解孔子家語目錄」の卷

首丁一丁のみ植版を異にする。他、「新刊素王事紀」の四丁表の

上欄「史或／作吏」が、本書は陽刻であるのに対して、もう一

点は陰刻という違いがある。帙題簽、「慶長活字家語（共四／蘇

峰珍蔵）」（墨書、蘇峰筆）。

子部 一 儒家類

40、孔子家語 三卷 (元) 王廣謀撰

〔請求番号〕善本書目・六一六頁

〔体裁〕特大本四冊。

〔表紙〕原裝（押八双有）薄茶色表紙。三三・二×二一・五種。五針袋

綴。

〔題簽〕左肩に双辺枠原刷題簽（一八・五×四・〇種）、「孔子家語^{卷上}」

^中（卷下）。第一冊と第四冊は、題簽剥落。左肩に「孔子家語^{卷上}」、

「孔子家語^序」と打付書。

〔内題〕「新刊標題句解孔子家語目錄／（低六格）猷（一格空）堂（一格

空）王（二格空）廣謀（一格空）景猷（小字）」、「標題句解孔子

家語卷上／（低五格）猷堂王（一格空）^{廣謀}（二格空）景猷（一

格空）句解」、「標題句解孔子家語卷中（下）」、「新刊素王事紀目

録」、「新刊素王事紀」、「聖朝通制孔子廟祀」。

〔尾題〕「新刊標題句解孔子家語目錄終」、「標題句解孔子家語卷上（中・

卷之下）」、「目錄^畢」、「新刊素王事紀卷終」、「標題句解孔子家語

卷下終」。

〔本文〕七行×一七字。注小字双行。上欄に標目。

〔匡郭〕四周双辺（目錄、二二・一×一五・七種）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「目錄（家語上（中・下）・家語後序・

事紀目錄・事紀・孔子廟式・孔子式・家語）丁附」。

〔丁数〕第一冊、六一丁（目錄・三丁、卷上・五八丁）、第二冊、五三丁

（卷中）、第三冊、三五丁（卷下）、第四冊、五七丁（後序・七丁、

新刊素王事紀目錄・二丁、新刊素王事紀・二二丁、聖朝通制孔

子廟祀・二六丁、刊記・一丁）。

〔刊記〕「世際季運而学校教將廢也維時／内府家康公于文于武得其名故興

廢繼絶／為後学刻梓文字數十万而賜予退為謝／公之恩惠初開家語

此書是聖人與義治世／要文寔非小補也刊字列盤中則明本家／語

以数本考正焉或板行有訛謬或文字／有顛倒以亡加之以余刪之雖如此有帝虎鸚鵡誤者必矣只願待博雅君子改制／焉也謹跋／（一行空）／慶長第四龍集巳亥仲夏吉辰／前学校^{三裏}野納於城南伏見里書焉／（一行空）／（低十三格）慈眼刊之。

〔印記〕「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「徳富氏／所藏印」（朱椿凹印）、「蘇峰文庫」（朱長方印）、「徳富／猪二郎」（朱方印、陰刻）、「蘇峰／學／人」（朱方印）、「落葉満空山／何處尋行跡」（朱長方印、陰刻）、「徳富／猪式郎／之章」（朱方印）、「自彊不息」（朱長方印）、「蘇／峰」（朱方印）、「徳富氏／圖書記」（朱長方印）、他一印。

〔備考〕伏見版。卷上と巻中の巻首三丁まで、朱・墨・藍で丸、傍点等が若干施されているのみ。前掲書と基本的には同版。但し、第一冊、「新刊標題句解孔子家語目録」の巻首丁のみ植版を異にする他、「新刊素王事紀」の四丁表の上欄「史或／作史」が、陽刻と陰刻（本書）という違いがある。桐箱入。蓋に「孔子家語 全四冊／徳川家康刊行」、蓋裏に「此書慶長活板中之上物也／明治四四年二月初五／蘇峯」、側面に「孔子家語」と墨書（蘇峯筆）。

子部 一 儒家類

41、孔子家語 十卷 王肅註

〔請求番号〕善本書目・六三八頁

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二七・九×一九・四糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「孔子家語（一／二）」（九／十）」と打付書。第五冊の外題右に、「前大納言菅原聡長／書人あり」と墨書。

〔内題〕「孔子家語序／（低六格）王（三格空）肅（三格空）註」、「孔子家語卷第一（〜十）」。

〔尾題〕「孔子家語卷第二（〜十）」。

〔本文〕九行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（序、二〇・九×一五・五糎、巻第一、二〇・九×一五・七糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「家語（家語卷一〜十） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五二丁（序・四丁、巻第一・二六丁、巻第二・二二丁）、第二冊、三九丁（巻第三・二〇丁、巻第四・一九丁）、第三冊、四二丁（巻第五・二五丁、巻第六・一七丁）、第四冊、三八丁（巻第七・二〇丁、巻第八・一八丁）、第五冊、五五丁（巻第九・二八丁、巻第十・二七丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「山陰圖書」（朱長方印、東坊城山陰）、「老龍／庵主」（朱印）、

「徳富／文庫」（朱長方印）。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱墨による校合書人等が多数施されている。

各冊巻末には、安政七年三月（但し、巻第十の巻末は、万延元年三月）に、菅原聡長によって明霞校本を以て書人をしたこと

を示す識語あり。「以明霞校本加朱点終／安政七年三月四日時春寒料峭 前権大納言菅（花押）」（第一冊）、「安政七年三月七日一校加朱墨了 蟄居 臣聡長」（第二冊）、「安政七年三月十日以佳本加朱墨 前大納言菅原聡長」（第三冊）、「安政七年三月十七日朱墨之功終 前権大納言（花押）」（第四冊）、「四庫全書曰魏王肅注家語雖名見漢志而書則久／佚明家語非家語王肅沈王肅予弱年説之疑似史／記札記置之箱底者久矣頃日見明霞校本以數書校雠／実用□□古書不堪感嘆乃以朱注旁令□終其功全卷／得字画鮮乃三冊本被□□何板以異本故備他日校正耳／令明霞称高麗本者乃是也愈以珍藏為後孫記之／万延元年三月改元後五日 聡長」。川瀬、三八四・八〇三頁、元和寛永中刊。国立公文書館内閣文庫蔵本（請求番号、二九八一―一六）には、元和七年一月に、外題を角倉素菴が記したことを示す墨書による識語、「辛酉仲冬西山子元外題加焉」（第五冊卷末、辛酉、元和七年、西山子元は、角倉素菴の字）が記されている他、各冊卷末には、元和八年に石川丈山によって記された墨書による識語があることから、本書の刊行年は、元和七年以前と特定できる。この識語は、本書の刊行年時を知る手がかりになる他、当時の交遊関係や、古活字版の享受の実際を知る上でも興味深いものがある（高木浩明『中近世移行期の文化と古活字版』、勉誠出版、二〇二〇年、五九四頁参照）。箱入（孔子家語 活字本全五冊、蘇峰筆）。

子部 一 儒家類

42、小学集註大全 十卷（明）呉訥撰・（明）陳祚正誤・（明）陳選注

〔請求番号〕善本書目・六四三頁

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕縹色表紙（押八双有）。三一・八×二〇・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「小学大全（卷一／卷六）（〽）卷之九之十終／共

六」と大きく朱書。

〔内題〕「小学集註大全序」、「小学（学）集解序」、「小学集註序」、「小学

集解正誤序」、「小学総論」、「小学目錄」、「小学書題」（低八格）

海虞呉（一格空）訥（一格空）集解／（低八格）姑蘇陳（一格

空）祚（一格空）正誤／（低八格）天台陳（一格空）選（一格

空）増註、「小学集註大全卷第一（〽）十」／（低八格）海虞呉

（一格空）訥（一格空）集解／（低八格）姑蘇陳（一格空）祚

（一格空）正誤／（低八格）天台陳（一格空）選（一格空）増

註。

〔尾題〕「目錄畢」、「小学集註大全卷第一（〽）九・十終」。

〔本文〕卷首序、六行×一〇字、小学集解序、一〇行×一九字、本文、

一〇行×一六字。

〔匡郭〕四周单边（卷首序、一九・六×一六・四糎、小学集解序、

一九・六×一五・八糎、卷第一、一九・五×一六・二糎）、無界

（小学集解序、有界）。大型活字、注小字双行。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「序（総論・小学大全目・小学大全題・

小学大全卷一（一十） 丁附。

〔丁数〕 第一冊、三八丁（小学集註大全序、弘治十八年陽月之吉嘉議大夫吏部右侍郎前詹事府少詹事兼翰林院侍讀學士震澤王整序・四丁、小孝（學）集解序（整版）・二丁、小学集註序、成化己丑（五年）天台陳選序・二丁、小学集解正誤序、景泰五年秋七月望後姑蘇陳祚永錫序・一丁、小学総論・五丁、小学目錄・二丁、小学書題・小学題辭・七丁、小学集註大全卷第一・一五丁）、第二冊、五三丁（卷第二・二五丁、卷第三・二八丁）、第三冊、二二丁（卷第四）、第四冊、三〇丁（卷第五）、第五冊、六九丁（卷第六・二〇丁、卷第七・二五丁、卷第八・二四丁）、第六冊、六五丁（卷第九・五〇丁、卷第十・一五丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「光棣／之印」（朱方印、陰刻、竹屋光棣、一七八一）
一八三七）、「洒竹文庫」（朱長方印、大野洒竹、一八七二）
一九一三）、「蘇峰學人／徳富氏愛／藏圖書記」（双、朱方印・大）。

〔備考〕 切貼訂正（訂正箇所活字紙片を上から貼付）有。書き入れは、巻第七の七丁裏に朱引と朱句読点がわずかに施されるのみ。第一冊の後表紙の見返しに鉛筆書購書メモあり。「4・2・28／ム／10、六冊」（大正四年二月二八日、村口書房）。川瀬、三八四頁、寛永中刊。伝本、成篁堂文庫本を著録するのみ。

子部 一 儒家類

43、北溪先生性理字義 二卷（宋）陳淳撰

〔請求番号〕 善本書目・六四三頁

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 後補薄縹色（水色）表紙に、後補薄茶色横刷毛目文様覆表紙附。

二八・七×二〇・五糎。四針袋綴。覆表紙の右下には、蘇峰の筆で「大正戊午四月／蘇峯學人」と墨書（上冊のみ）。綴じ目下に「共二」。

〔題簽〕 無。「活字本 共貳／珎／性理字義」と朱打付書（上冊のみ）。

左肩に「活字／性理字義 乾（坤）」と打付書（覆表紙、蘇峰筆）。

〔内題〕 「北溪先生性理字義序」、「北溪先生性理字義目錄」、「北溪先生性理字義卷之上（下）」。

〔尾題〕 「北溪先生性理字義目錄終」、「北溪先生性理字義卷之上」、「北溪先生性理字義卷下」。

〔本文〕 每半葉一〇行×一八字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二三・四×一六・三糎、卷之上、二三・五×一六・三糎）、有界。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「性理字義 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四五丁（序・二丁、目錄・一丁、卷之上・四三丁）、第二冊、四六丁（卷之下）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕「森氏開萬／冊府之記」（朱長方印、森立之）、「蘇峯／珍藏」（朱

長方印）、「徳富／猪一郎」（朱方印、陰刻）、「蘇峰文庫」（朱長方印）、「蘇峰／學／人」（朱方印、巻下巻末のみ）。

〔備考〕朱引、朱句読点、朱・藍筆で校正、異本との校合が施されている。現在は二分冊であるが、第一冊の前表紙の見返しに「上下合冊」と墨書されているように、元は合冊。二冊とも後表紙を欠くが、本来後表紙であったものを第二冊の前表紙に用い（天地が逆）、「嶋田翰氏所贈／蘇峰□□」と墨書。川瀬、三八五・八〇三・八二八頁、寛永中刊。「晦菴先生語録類要の大字の部分・近思録・小学集注大全等同種の活字なり」。川瀬は、『新修成篁堂文庫善本書目』でも本書の刊行を「寛永中刊」とするが、慶應義塾図書館蔵本には石川丈山による元和四年の識語が記されていることから、それ以前の刊行であることは明らかである。

子部 二 兵家類

44、呉子

〔請求番号〕善本書目・六一七頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕茶色表紙（押八双有）。二七・五×一九・一糎。四針袋綴。右肩に「荒（墨）／慶長活字版 蘇峯学人（朱）」上から薄茶色横刷毛目文様の覆表紙を添付、右肩から「慶長活字 蘇峯学人／大正己未（八年）一月念九」と墨書。

〔題簽〕茶色表紙左肩に、後補の書題簽（一五・六×三・六糎）、「七書

呉子 上下」。覆表紙左肩には「呉子 全」と墨書。

〔内題〕「呉子巻上（下）」。

〔尾題〕「呉子巻上（下）終」。

〔本文〕八行×一七字。

〔匡郭〕四周双辺（二一・四×一五・〇糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「呉子上（下） 丁附」。

〔丁数〕一九丁（巻上・一二丁、巻下・八丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「水／雲」（朱方印）、「壽徳書□」（朱長方印、陰刻）、「蘇峰学人

／徳富氏愛／蔵圖書記」（双、朱方印）、「成／篁堂／印」（朱）、「徳富氏」（双、朱長方印）、「トク／トミ」（表紙、朱菱形印）。

〔備考〕無書入。川瀬、二一七・六九七頁、伏見版、慶長十一年刊。「同種活字を以て殆ど同時に再度の印行が行はれた」異植版兩種があるというが、そのいずれに当たるかは要検討。国立国会図書館蔵本とは異版。

子部 二 兵家類

45、施氏七書講義 四十二卷（金）施子美撰

〔請求番号〕善本書目・六三七頁

〔体裁〕大本、一〇冊。

〔表紙〕後補丹表紙。二六・三×一九・一。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の双边刷梓書題簽(二一・六×四・一糶)、「施氏七書講義 乙(ノ十止)」。

〔内題〕「武学上舎施氏七書講義目錄」、「施氏七書講義卷一(卷第二・三・五ノ十二)」(卷第十一、「講義」を「義講」とする)、「施氏孫子講義卷第四」、「施氏呉子講義卷第十二(ノ十六)」、「施氏司馬法講義卷第十七(ノ二十一)」(卷第二十、「講義」を「解義」とする)、「施氏尉繚子解義卷第二十二(ノ二十九・卷第三十)」、「施氏三略講義卷第三十一(ノ三十三)」、「施氏六韜講義卷第三十四(ノ三十九)」(卷第三十七、「講義」を「講議」とする)、「施氏問对講義卷第四十(ノ四十二)」。

〔尾題〕「(低一格) 武学上舎施氏七書講義目錄終」、「施氏孫子講義卷第一(一)終」、「施氏七書講義卷第三(ノ十一)」(卷第七は、「施氏」を「施子」とする)、「施氏呉子講義卷第十二(ノ十六)終」、「施氏司馬法講義卷第十七(ノ二十一)終」、「施氏尉繚子解義卷第二十二(ノ二十八・卷第二十九・三十)終」、「施氏三略講義卷第三十一(ノ三十三)終」、「施氏六韜講義卷第三十四(ノ三十九)終」、「施氏問对講義卷第四十(ノ四十二)終」(卷第四十一、「終」なし)。

〔本文〕每半葉九行×一七字。

〔匡郭〕四周双边(序、二〇・六×一四・六糶、卷一、二〇・六×一四・五糶)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「孫子(呉子)・司馬・尉繚・三略・六

韜・太宗)七書講義(二・卷二十四十二) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一一三丁(序・一丁、目錄・七丁、卷一・二三丁、卷第二・一七丁、卷第三・二五丁、卷第四・二五丁、卷第五・一五丁)、第二冊、一二二丁(卷第六・二五丁、卷第七・一九丁、卷第八・一六丁、卷第九・三四丁、卷第十・一二丁、卷第十一・一六丁)、第三冊、一〇二丁(卷第十二・二七丁、卷第十三・一八丁、卷第十四・二〇丁、卷第十五・一五丁、卷第十六・二二丁)、第四冊、一四三丁(卷第十七・三二丁、卷第十八・二九丁、卷第十九・三七丁、卷第二十・三五丁、卷第二十一・一〇丁)、第五冊、一〇六丁(卷第二十二・一七丁(一五丁欠)、卷第二十三・二〇丁、卷第二十四・二〇丁、卷第二十五・二〇丁、卷第二十六・二九丁)、第六冊、八二丁(卷第二十七・二三丁、卷第二十八・一八丁、卷第二十九・一八丁、卷第三十・二二丁)、第七冊、一〇三丁(卷第三十一・五五丁、卷第三十二・二三丁、卷第三十三・二五丁)、第八冊、一〇二丁(卷第三十四・四九丁、卷第三十五・五三丁)、第九冊、一三八丁(卷第三十六・六五丁、卷第三十七・三一丁、卷第三十八・一八丁、卷第三十九・二四丁)、第一〇冊、一二四丁(卷第四十・四八丁、卷第四十一・四二丁、卷第四十二・三四丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「徳富ノ猪式郎ノ之章」(朱方印)、「蘇峰文庫」(朱長方印)、「蘇

峯／珍蔵」(朱長方印)、「徳富／猪印」(朱方印、陰刻)、「蘇／峯」(朱方印)、「蘇峰／清賞」(朱方印、陰刻)。

〔備考〕 卷二まで墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他朱墨による書入あり。卷三以下の冊は、藍色の筆で、句読点、上欄に誤植等の訂正が施されているのみ。川瀬、三六一・三八六・八〇二・八二九頁、(一)慶長元和中刊本。刊行年時は、元和四年頃か(高木浩明『中近世移行期の文化と古活字版』、勉誠出版、二〇二〇年)。

子部 五 医家類 (二) 経脈

46、新刊黄帝明堂灸経 三卷 (元) 寶桂芳校

〔請求番号〕 善本書目・六一七頁

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 栗皮表紙(原表紙か)。二八・八×二二・一糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。中央やや左寄りに、「慶長古版／黄帝明堂灸経 全」、右下

に「蘇峰珍蔵」といづれも蘇峰の筆で朱書。

〔内題〕 「新刊黄帝明堂灸経序(卷上／下)」。

〔尾題〕 「新刊黄帝明堂灸経卷上(中)」、「明堂灸経卷下」。

〔本文〕 卷首序、一〇行×一六字。大型活字、本文、一二行×二〇字。

稍小型の活字。「胡侍郎奏過尻神指訣」(挿図)、「正人形第一(二十)」(挿絵図)、「背人形第一(九)」(挿絵図)、「側人形第一(七)」(挿絵図)、巻下に「正人形第一(六)」(挿絵図)、

「背人形第一(三)」(挿絵図)。

〔匡郭〕 序、四周双辺(二二・七×一七・一糶)、無界。本文、四周双辺(二二・六×二六・九糶)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「明堂灸経序(明堂灸経) 丁附」。

〔丁数〕 五五丁(序、至大辛亥春月燕山活濟堂刊・一丁、卷上・二八丁表10、卷中・二八丁表11／四四丁表10、卷下・四四丁裏／五四丁表11)。

〔刊記〕 「(低一格) 慶長十三年(一格空) 三月吉日」。

〔印記〕 「徳富」(朱楕円印・小、陰刻)、「蘇峰文庫」(朱長方印)、「蘇峰／清賞」(朱方印、陰刻)、「蘇峰／學刀」(朱方印)。他、判読不明の一印あり。

〔備考〕 墨筆で返点、豎点、振仮名、送仮名、イ本注記が施されている。

川瀬、三三四・三三五・七五七頁。慶長十三年刊本。『増補古活字版之研究』に著録されているのは、成實堂文庫本のみだが、他に、文化庁所蔵(武田科学振興財団杏雨書屋寄託)の福井崇蘭館旧蔵本がある。

子部 五 医家類

47、※儒医精要 一卷 (明) 趙繼宗敬齋著

〔請求番号〕 善本書目・六二〇頁

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 薄茶色(卍繋ぎの空押文様がかすかに残る)表紙。二三・五×

一八・四糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「儒医精要 全」と打付書。

〔内題〕「儒医精要（三格空）慈谿趙繼宗敬齋著述」。

〔尾題〕無。

〔本文〕序、八行×一一字（大字）、本文、一行×一六字。

〔匡郭〕四周双辺（序、一八・五×一五・三糶、本文、一八・七×

一五・一糶）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「精要 丁附」。

〔丁数〕五二丁（序、嘉靖七年戊子六月既望／賜進士広東僉事休致慈谿／趙繼宗序・三丁、本文・四九丁）。

〔刊記〕「（低二格）慶長甲寅仲春吉且／（低三格）紀州和歌山見義堂梓」。

〔印記〕「徳富／護持」（双、朱方印）、「天下之公／寶須愛護」（朱長方

印）、「蘇／峯」（朱方印）、「蘇峰／審定」（朱方印）、「蘇峰／讀

過」（朱長方印）。他、判読不明印、一印。

〔備考〕表紙に「蘇峰珍藏／慶長活字／和歌山刊行」と朱書。前表紙見

返しには、「此書□于慶長十九年活字刊行焉卷／尾有字曰／慶長甲寅仲春吉且／紀州和歌山見義堂梓／便知於和歌山為上梓也

是為珍籍／理由之一也／明治卅九年四月於大阪求焉／蘇峰秘笈」

と墨書、後表紙の見返しには、「明治四十四年二月十九日／蘇峰

閲覽（印）」と墨書、さらに鉛筆書の購書メモ「39・4・13／松

雲2」（明治三十九年四月一三日、鹿田松雲堂）あり。帙（題簽、

蘇峰筆、「慶長活字儒医精要（和歌／山刊／行（印）（印））」入。

川瀬、未載。伝本、他に武田科学財団杏雨書屋蔵本。

子部 五 医家類（一）医経

48、難経本義 二卷（元）滑壽著

〔請求番号〕善本書目・六三三頁

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕粟皮渋引き表紙。二七・一×一八・七糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。上冊の表紙に、「元和活字 珍共二／珍／蘇峰秘笈」と朱書。

〔内題〕「難経本義序」、「難経本義上（下）／（低十格）許（一格空）昌（一格空）滑（一格空）寿（一格空）著／（低十格）四（一格空）明（一格空）呂（一格空）復（一格空）校正」。

〔尾題〕「凡例畢」、「闕誤総類畢」、「卷上終」、「難経本義卷下」。

〔本文〕每半葉一〇行×二一字。

〔匡郭〕序、四周双辺（二〇・四×一五・二糶）、無界。本文、四周双辺

（卷上、二〇・四×一五・四糶）、無界、稍小型の活字。

〔版心〕白口双黒魚尾、中縫、「難経序（凡例・総・姓・攷・図・上・下）

丁附」。

〔丁数〕第一冊、六五丁（序、至正二十六年二月工部郎中掲法序・一丁、

序、至正二十五季龍集甲辰十月既望翰林学士承／旨榮禄大夫知

制誥兼修（一格空）国史張翥序・一丁、序、至正二十有一年重

光赤奮若之歲臘月既望奉直大夫温州路総管管内勸農兼防禦事天

台劉仁本叙・二丁、序、至正辛丑秋九月己酉朔自序・一丁、凡

例・一丁、闕誤総類・二丁、彙攷引用諸家姓名・本義引用諸家姓名著内外傷寒弁等書・二丁、難經彙攷・六丁、難經図・六丁、難經本義上・四三丁）、第二冊、四八丁（下・四七丁、原跋刊（整版）、刊記・二丁）。

〔刊記〕跋刊、「八十一難經之註解古來頗多就中視／滑伯仁之本義其旨趣深奥而天疆其／文詞明白而易曉（一格空）本朝未能梓行維／時門下之医生宜帆齋道救聚數帳校／訂之仍囿工而令鏤板可謂救恤之心至／哉矣／慶長丁未春分之節（一格空）洛下玄朔敬識」（慶長丁未〓慶長十二、一六〇七年）、「（低四格）元和三年歲舍丁巳仲秋之吉梅壽重刊」。

〔印記〕「小島氏／圖書記」（朱長方印、小島宝素）、「津寫／家藏」（朱長方印）、「徳富／猪印」（朱方印）、「蘇／峯」（朱方印）、「徳／富」（朱方印）、「天下書／公寶／須玕惜／愛護／蘇／峰／属」（朱方印）、「徳富文庫」（朱長方印）、「成／簣堂／印」（朱印）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「徳富／文庫」（朱方印）、「蘇峰／學／人」（朱方印）、「自彊／不息」、「徳富／猪一郎」（朱方印、陰刻）、「蘇峰／學人」（朱方印）、「徳富／猪一／郎印」（朱方印、陰刻）。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、その他朱墨による書入あり。下巻の後表紙の見返しに墨識語、「櫻寧生此注余曩藏／東井原刊而是則重／刻活字本也庚子小春／挙以贈津島彦逸／者道救之後嗣也 小島質（朱筆）」（津島彦逸（北溪）、

一八一三〜一八六二、医者）。

川瀬・三三三頁。成簣堂文庫本を著録するのみ。「小島宝素の島津玄逸に贈りたるもの」とするが、「島津玄逸」とあるのは、「津島彦逸」の誤り。

子部 五 医家類（四） 診法

49、脈訣 一卷 崔嘉彦撰

〔請求番号〕善本書目・六二八頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原装（押八双有）栗皮表紙。二七・五×一九・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「脈訣 全」と打付書。

〔内題〕「重刊東垣十書序」、「東垣十書類次／第一脈訣／二湯液本草／三

脾胃論／四内外傷弁惑論／五蘭室秘藏／六医経溯洄集／七格致余論／八局方發揮／九此事難知／十外科精義」、「脈訣／（低三格）紫虚崔真人（一格空）撰」。

〔尾題〕「東垣十書類次終」、「東垣十書終」、

〔本文〕八行×一〇字。大型活字。

〔匡郭〕四周双辺（序、一六・六×一六・二糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾（一体型）、中心に上下黒魚尾（一体型）中縫、

〔脈〕「丁附」。

〔丁数〕三〇丁（序、嘉靖八年己丑孟夏朔且光澤王書于勅賜博文堂・七

丁、類次・一丁、脈訣・二二丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「玄／信」（朱方印、陰刻）、「江州永原玄々堂／邨田圖書信」（朱長方印）、「蘇／峰」（朱菱形印）。

〔備考〕

朱引、朱句読点、墨筆で返点、送仮名が施されている。巻末に以下の一文を墨書。「這脈訣者、東垣十書内之一書也、紫虚崔真人／拾遺岐黄巧原、集王氏切委、整四言韻句着焉／者也、頃当流久勤之立菴德巖公索予於訓／点、不獲黙止動鋤翰一点記先師之口授、磨丹／墨識聖意之字解矣、公宜如斯訣朱句日誦／琅々而將啓迪門下之学侶矣、然則全須同／王氷之妙伝、叔和之明説而已、勉施々々／于時天正十午生生日 洛滌翠 一溪叟道三」。

表紙に「日本活字版現存中最古之一／天正十午生生日一溪叟道三奥書／大正辛酉六月十一日／主蘇峯学人」と朱書。見返しには「日本現存ノ旧活字本ハ永鈔□来／是也而して此書天正十年跋文／アリ其ノ旧本タル以テ知ル可シ／大正十二月十一 猪」と墨書のある紙片を貼付。他、「記／拾冊 東垣／十書／道三書入／……五月十五日／山田茂助／徳富様／上」と墨書のある紙片を貼付。

川瀬、三三五頁に、無刊記の医書活字印本に成賞堂文庫本著録。

子部 一〇 雜家類 (三) 雜説

50、新刊鶴林玉露 甲・乙・丙集、各六卷 (宋) 羅大經編

〔請求番号〕善本書目・六二九頁

〔体裁〕大本六冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二七・一×一九・二糶。四針袋綴。

〔題簽〕表紙を新聞紙 (佐久新報、明治卅年十二月廿二日、岡山孤兒院

新報、明治三十六年十月十五日等) で包み、右側に「足利時代活字本」、左肩に「鶴林玉露 一 (一五・六冊)」と墨書。

〔内題〕「新刊鶴林玉露目錄／ (低三格) 廬 (二格空) 陵 (一格空) 羅

(二格空) 大經 (二格空) 景綸」、「新刊鶴林玉露卷之一 (一六) / (低三格) 廬 (一格空) 陵 (一格空) 羅 (二格空) 大經 (二格空) 景綸」。

〔尾題〕「新刊鶴林玉露目錄畢」 (乙集の目錄尾題なし)、「新刊鶴林玉露

卷之一 (一五・卷六)」。

〔本文〕每半葉九行×一九字。稍小型の活字を用いる。

〔匡郭〕四周双辺 (目錄、一九・九×一五・一糶、甲集卷之一、

二〇・二×一四・九糶)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「鶴林目錄 (卷一) 六」 丁附」。

〔丁数〕第一冊、六二丁 (序、宋淳祐壬子廬陵羅大經景綸・一丁、目錄・五丁、卷之一・一九丁、卷之二・一八丁、卷之三・一九丁)、第二冊、四九丁 (卷之四・一五丁、卷之五・一五丁、卷之六・一九丁)、第三冊、五六丁 (目錄・六丁、卷之一・一五丁、卷之

二・一七丁、卷之三・一八丁)、第四冊、五五丁(卷之四・一七丁、卷之五・一九丁、卷之六・一九丁)、第五冊、六五丁(目錄・六丁、卷之一・一九丁、卷之二・一九丁、卷之三・二二丁)、第六冊、五五丁(卷之四・二〇丁、卷之五・一九丁、卷之六・一六丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「素石／園印」(朱方印)、「苔香／山房／之印」(朱方印)、「于水／艸堂／之印」(朱方印、陰刻、以上三印、木村素石、一八四三～一九〇三、俳人・三井物産副社長)、「徳富／猪一／郎印」(朱方印、陰刻)、「蘇峰／□讀」(朱)、「菅／原正／□」(朱丸印、陰刻)、「蘇峰文庫」(朱長方印、陰陽刻)、「須愛護／蘇峰／囑」(朱)、「成篁堂／清玩記」(朱楕円印)、「蘇峰／學人」(朱方印)、「徳富」(朱楕円印)。

〔備考〕 朱引、朱句読点の他、徳富蘇峰による朱墨による書入が施されている。第一冊の序の文末に「上杉憲實」と朱書、目錄の文末に「此鶴林玉露者足利学／校之藏本也倍長老贈之／南都興福寺□沙門」と朱書。これらはいずれも後筆である。川瀬一馬は、これを「明治期の妄補で、これを足利時代の活字本に擬そうとしたもの」と見る。各冊とも新聞紙に包まれ、これに蘇峰の筆で「足利時代活字本」と題するが、川瀬によれば、「これが或は西村兼文の偽妄かということは蘇峰も気づき、別に明治三十六年十一月の手記がある」という。川瀬の言う蘇峰の「明

治三十六年十一月の手記」は、原稿用紙冊子で現存しているが、閲覧には供されてはならず、蘇峰が、西村兼文(一八三二～一八九六、幕末の京都西本願寺侍臣、尊皇攘夷派)による偽妄と考えた根拠など、詳細は不明である。

各冊、卷末ごとに蘇峰による朱識語が記されている。「蘇峰学人再読訖／明治三十七年九月廿四日于時中秋無月秋雨凄凉」(第一冊・卷之一)、「明治三十七年九月廿四日蘇峰学人再読訖／于時中秋有雨無月」(第一冊・卷之三)、「明治三十七年十月十八日蘇峰学人記之」(第二冊・卷之四)、「蘇峰学人／明治三十七月念二日再読訖」(第二冊・卷之五)、「明治三十七年十月念二日蘇峰再読訖」(第二冊・卷之六)、「明治三十七年九月十七午頃再読訖」(第三冊・卷之三)、「明治三十七年九月十八日於青山成篁堂／再読訖 蘇峰学人」(第四冊・卷之五、墨書)、「明治三十七年九月二十一日再読訖 蘇峰学人」(第四冊・卷之六、墨書)、「明治三十七年九月二十五日 蘇峰再読」(第五冊・卷之一)、「明治三十七年九月廿五日於成篁堂／蘇峰学人再閲訖」(第五冊・卷之二)、「明治三十七年十月十八日／於青山成篁堂蘇峰生」(第五冊・卷之三)、「明治三十七年十月初五日 蘇峰学人再訖」(第六冊・卷之四)、「明治三十七年十月十八日蘇峰学人／此日葬友人藤嶋正健氏谷中雨縦之下矣」(第六冊・卷之五、藤島正健、一八四五～一九〇四、大藏官僚、官選県知事。藤島と蘇峰とは母方の従兄弟同士であった)、「明治三十七年十月十八日 蘇峰

学人再読」(第六冊・卷之六)。川瀬、三六二・三八八・八三一頁、慶長元和中刊。桐箱入。東洋文庫蔵本に元和八年俊長の識語があり、およその刊行年時を特定できる。

子部 一〇 雑家類

51、勸善書(拔書) 存卷一 (明) 仁孝皇后撰

〔請求番号〕 善本書目・六四五頁

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 栗皮表紙(押八双有)。二七・七×一九・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「徳川初代活字／勸善書」、右下に「蘇峯珍藏」と朱書。

〔内題〕 「(低二格) 勸善書序」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 一一行×二〇字。

〔匡郭〕 四周单边(序、二二・四×一六・三糎、本文、二二・五×一六・二糎)、無界。

〔版心〕 白口双花口魚尾、中縫、「勸善一目(勸善二) 丁附」。

〔丁数〕 五六丁(序、永楽三年二月初九日・三丁、目録・四丁、大明仁孝皇后勸善書卷一之四拔書・四九丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「徳富氏／珍藏記」(双、朱長方印、陰陽刻)。

〔備考〕 墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。後表紙の見返し

に鉛筆書購書メモあり。「2・2・24/50」(大正二年二月二四日)。川瀬、八三四頁、「寛永七年刊伝法正宗記・翻訳名義集その他と同種活字印本で寛永初年の印行であらう。叡山版に加へてもよいと思ふ」。伝本に小汀文庫蔵本を著録する(図録篇八四七図)が、該書は現在、関西大学図書館長澤文庫に所蔵されている。

子部 一〇 雑家類(五) 雑纂

52、群書治要 原闕卷四・十三・二十 (唐) 魏徵等奉勅撰

〔請求番号〕 善本書目・六三一頁

〔体裁〕 大本四七冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二七・四×一九・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「群書治要 一」と打付書。右肩には「周易」(袁子正書／抱朴子)(五十)と墨書。

〔内題〕 「羣書治要序／(低三格) 秘書監鉅鹿男臣魏徵等奉(一格空)勅撰」、「羣書治要目録」、「羣書治要卷第一(五十)」。

〔尾題〕 「羣書治要卷第一(五十終)」。

〔本文〕 每半葉八行×一七字。銅活字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边(序、二〇・九×一五・五糎、卷第一、二〇・九×一五・四糎)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾一体型、中縫、「群書治要序(目録・一(五十) 丁附)」。

〔丁数〕 第一冊、三二丁（序・三丁、目録・四丁、巻第一・二四丁）、第

二冊、三八丁（巻第二）、第三冊、三六丁（巻第三）、第四冊、三五丁（巻第五）、第五冊、三五丁（巻第六）、第六冊、三八丁（巻第七）、第七冊、三四丁（巻第八）、第八冊、三三丁（巻第九）、第九冊、三六丁（巻第十）、第一〇冊、三四丁（巻第十一）、第一一冊、三四丁（巻第十二）、第一二冊、三一丁（巻第十四）、第一三冊、三二丁（巻第十五漢書三）、第一四冊、三四丁（巻第十六）、第一五冊、三七丁（巻第十七）、第一六冊、二九丁（巻第十八）、第一七冊、三〇丁（巻第十九）、第一八冊、三三丁（巻第二十一）、第一九冊、三六丁（巻第二十二）、第二〇冊、三五丁（巻第二十三）、第二一冊、三六丁（巻第二十四）、第二二冊、三八丁（巻第二十五）、第二三冊、三八丁（巻第二十六）、第二四冊、二八丁（巻第二十七）、第二五冊、二九丁（巻第二十八）、第二六冊、三四丁（巻第二十九）、第二七冊、三六丁（巻第三十）、第二八冊、三〇丁（巻第三十一）、第二九冊、三三丁（巻第三十二、丁附に誤刻あり）、第三〇冊、三三丁（巻第三十三）、第三一冊、三七丁（巻第三十四）、第三二冊、三四丁（巻第三十五）、第三三冊、三二丁（巻第三十六）、第三四冊、三七丁（巻第三十七）、第三五冊、三三丁（巻第三十八）、第三六冊、三五丁（巻第三十九）、第三七冊、三八丁（巻第四十）、第三八冊、三二丁（巻第四十一）、第三九冊、三三丁（巻第四十二）、第四〇冊、二五丁（巻第四十三）、第四一冊、三一

丁（巻第四十四）、第四二冊、三三丁（巻第四十五）、第四三冊、三六丁（巻第四十六）、第四四冊、三六丁（巻第四十七）、第四五冊、三三丁（巻第四十八）、第四六冊、三五丁（巻第四十九）、第四七冊、三七丁（巻第五十）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「服部氏文庫」（朱長方印）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「徳富／猪式郎／之章」（朱方印・大）。

〔備考〕 駿河本。無書入。厚手の楮紙を料紙に用いて、ずしりと重い。巻第十六の六丁表・八行目の割注「菜」、巻第十七の二丁表・三行目の「靡く」など、部分的に活字の一部を擦り消し、墨筆で訂正を施した箇所あり。第一冊の前遊紙に蘇峰の墨識語、「此書徳川家康最後之事業也矣／始業元和二年正月十九日卒業／同年五月下旬而彼未及見其成／業而逝焉然彼遺業存於此矣／豈可不愛惜珍蔵哉 蘇峰学人／明治三十六年十月十三日 印、菅氏／正敬」・「蘇／峰」。

子部 一〇 雑家類（五） 雑纂

53、群書治要 原闕卷四・十三・二十 存巻第一（二十九）（唐）魏徵等

奉勅撰

〔請求番号〕 善本書目・六三三頁

〔体裁〕 大本二六冊。

〔表紙〕 香色裏打改装表紙。二七・六×二〇・二糶。五針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「群書治要一（序目／周易）（二尚書）」、「治要三（毛詩）（治要二十九晉書上）」（大字）と打付書。その下に冊数（一〜廿六）、右下に「共二十六冊／主蘇峯學人」と墨書（蘇峯筆、外題とは別筆）。

〔内題〕「羣書治要序／（低三格）秘書監鉅鹿男臣魏徵等奉（一格空）勅撰」、「羣書治要目錄」、「羣書治要卷第一（〜二十九）」。

〔尾題〕「羣書治要卷第一（〜二十九）」。

〔本文〕每半葉八行×一七字。銅活字。注小字双行。

〔匡郭〕四周双边（序、二〇・八×一五・四糎、卷第一、二〇・九×一五・四糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾一体型、中縫、「群書治要序（目錄・一）二十九」丁附。

〔丁数〕第一冊、三一丁（序・三丁、目錄・四丁、卷第一・二四丁）、第二冊、三八丁（卷第二、二〇・二二丁乱丁）、第三冊、三六丁（卷第三）、第四冊、三五丁（卷第五）、第五冊、三五丁（卷第六）、第六冊、三八丁（卷第七）第七冊、三四丁（卷第八、一四・一五丁乱丁）、第八冊、三三丁（卷第九）、第九冊、三六丁（卷第十）、第一〇冊、三四丁（卷第十一）、第一一冊、三四丁（卷第十二）、第一二冊、三一丁（卷第十四）、第一三冊、三二丁（卷第十五漢書三）、第一四冊、三四丁（卷第十六）、第一五冊、三七丁（卷第十七）、第一六冊、二九丁（卷第十八）、第一七冊、三〇丁（卷第十九）、第一八冊、三三丁（卷第

二十一）、第一九冊、三六丁（卷第二十二）、第二〇冊、三五丁（卷第二十三）、第二一冊、三六丁（卷第二十四）、第二二冊、三八丁（卷第二十五）、第二三冊、三八丁（卷第二十六）、第二四冊、二八丁（卷第二十七）、第二五冊、二九丁（卷第二十八）、第二六冊、三四丁（卷第二十九）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「徳富氏／珍藏記」（朱長方印、陰陽印）。

〔備考〕駿河本。無書入。厚手の楮紙を料紙に用いて、ずしりと重い。卷第十六の六丁表・八行目の割注「菜」、卷第十七の二丁表・三行目の「靡く」など、部分的に活字の一部を擦り消し、墨筆で訂正を施した箇所あり。朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、卷によっては上欄と下欄等に書人が施されている。目錄、卷第八、卷第十九、卷第二十一の卷末に「結光泰点」、卷第七、卷第二十七の前表紙見返しに「結城光泰点」、卷第二十五の前表紙見返しに「結城齋点」、卷第二十九の前表紙見返しに「結城恒齋点」と墨書。第一冊の前遊紙に蘇峯の墨識語、「是書大正八年二月十六日／購求焉同夜発病荏苒／到乎今感慨□深矣／八月初八於青山草堂」。虫損甚大。

子部 一〇 雑家類（五） 雑纂

54、新彫皇朝類苑 七十八卷（宋）江少虞撰

〔請求番号〕善本書目・六三五頁

〔体裁〕 大本一五冊。

〔表紙〕 後補丹空押已繫ぎ文様表紙。二六・三×一九・一種。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「皇宋事宝類苑序」(低一格) 左朝請大夫権発遣吉州軍州事江

(一格空) 少虞(一格空) 撰、「皇宋事宝類苑後序」、「麻沙新雕

(一格空) 皇朝類苑卷第目錄一」(新雕(一格空) 皇朝類苑卷

第目錄十四)、「新雕(一格空) 皇朝類苑卷第一(七十八)」。

〔尾題〕 「新雕(一格空) 皇朝類苑卷第目錄一(卷第目錄十四終)」、「新

雕(一格空) 皇朝類苑卷第一(七十八終)」。

〔本文〕 序、每半葉八行×一二字(行書体)。本文、每半葉二三行×二〇

字。稍小型細字。

〔匡郭〕 序、四周双辺(二二・三×一六・五種)、有界。本文、四周双辺

(卷第一、二二・〇×一六・四種)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾(序・目錄・跋、黒口双花口魚尾)、中縫、「皇朝

類苑序(皇朝卷目錄・皇朝卷一(七十八)・皇朝類苑跋) 丁

附」。

〔丁数〕 第一冊、四九丁(序、紹興十五年五月十七日謹序・三丁、後

序・二丁、總目・二丁、目錄・四二丁)、第二冊、六六丁(卷

第一・一二丁、卷第二・一三丁、卷第三・九丁、卷第四・一一

丁、卷第五・一〇丁、卷第六・一一丁)、第三冊、六四丁(卷第

七・一〇丁、卷第八・一三丁、卷第九・一一丁、卷第十・一一

丁、卷第十一・一二丁、卷第十二・八丁)、第四冊、六八丁(卷

第十三・一二丁、卷第十四・一三丁、卷第十五・一三丁、卷第

十六・九丁(四丁欠)、卷第十七・一〇丁、卷第十八・一二丁)、

第五冊、四六丁(卷第十九・一一丁、卷第二十・一一丁、卷第

二十一・一一丁、卷第二十二・一三丁)、第六冊、六〇丁(卷

第二十三・一二丁、卷第二十四・一二丁、卷第二十五・一二

丁、卷第二十六・一二丁、卷第二十七・一二丁)、第七冊、

六三丁(卷第二十八・一一丁、卷第二十九・一二丁、卷第

三十・一〇丁、卷第三十一・一〇丁、卷第三十二・一〇丁、卷

第三十三・一〇丁)、第八冊、六二丁(卷第三十四・一二丁、卷

第三十五・一四丁、卷第三十六・一二丁、卷第三十七・一二丁、

卷第三十八・一二丁)、第九冊、卷第三十九(四十三、補写(薄

様により虫損、蔵書印(淺野源氏/五萬卷樓/圖書記)、「島田氏双

桂樓収蔵)、「畠田翰字彦禎精力所聚」の識語まで、田中幸二

郎により忠実(補写)、第一〇冊、六六丁(卷第四十四・二三丁、

卷第四十五・一二丁、卷第四十六・一二丁、卷第四十七・八丁、

卷第四十八・一一丁、卷第四十九・一〇丁)、第一一冊、六五丁

(卷第五十・九丁、卷第五十一・九丁、卷第五十二・一二丁、卷

第五十三・一二丁、卷第五十四・一二丁、卷第五十五・一三丁)、

第一二冊、六一丁(卷第五十六・一三丁、卷第五十七・一〇丁、

卷第五十八・一二丁、卷第五十九・一三丁、卷第六十・一三丁)、

第一三冊、六六丁(卷第六十一・一三丁、卷第六十二・一二丁、

卷第六十三・一〇丁、卷第六十四・一二丁、卷第六十五・一一

丁、卷第六十六・一〇丁）、卷第一四冊、六七丁（卷第六十七・一一丁、卷第六十八・一三丁、卷第六十九・一三丁、卷第七十・一〇丁、卷第七十一・一〇丁、卷第七十二・一〇丁）、第一五冊、六三丁（卷第七十三・一〇丁、卷第七十四・一〇丁、卷第七十五・一〇丁、卷第七十六・一〇丁、卷第七十七・一一丁、卷第七十八・八丁、跋・四丁）。

〔刊記〕 跋刊、「元和七年重光作噩六月晦日／前南禪臣僧瑞保護書」。

〔印記〕 「敬業館／藏書印」（朱方印）、「櫻山／文庫」（朱丸印）、「徳富氏／圖書記」（朱長方印）。

〔備考〕 元和勅版。第四冊の卷第十四と第一三に朱引や朱句読点が若干施される程度である。透写された第九冊の巻末には、田中幸二郎による識語（成實堂文庫係藏皇宋類苑自卷三十／九至四十二卷欠焉今奉（一格空） 徳富先生之命／以別本補写之 昭和三年六月念八日於成／實堂文庫^{門人}田中幸二郎謹識）が墨書されている。徳富蘇峰による購書識語等が記された紙片二枚を、第一冊の巻首に挟む。「予此書ヲ日長キニ文行堂ニ見タリ獲ント□□ニ□ありしも／果さ、りき九月二十四日琳琅閣ニ於て再た見ル仍テ／決藏戯魚堂法帖ヲ以テ此度ハ群書治要／ト交換ヲ約シ本日受授ヲ了シタリ群書治／要は紀藩後摺ニして原刊と比較研究ノ必要／あり真ニ活字版也 憾クハ此書一冊ヲ欠クコト／大正元年九月念五日 猪（印、蘇峯用箋）」、「近藤守重曰此銅字活版匠郭縦六寸六分横／五寸八分十三行二十字四周双辺是夫朝銅版ノ

／始ナリ」元和年録に元和七年十月禁中ニテ皇朝類／苑と申御書物判本ニ被仰附何れも公家衆學文仕候衆へ／被下公方様へ御一部被進候／大正元年九月中秋夕^{廿五日}蘇峯記（印、蘇峯用箋）。箱入。箱外題（貼り紙、墨書）、「勅板／皇宋類苑／十四冊／□卷八／珍籍須愛護」。

子部 一一 小説家類（四） 伝奇小説

55、剪燈新話句解 三卷（明）瞿佑著・滄洲訂正・垂胡子集釈

〔請求番号〕 善本書目・六二九頁

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 原裝（押八双有）栗皮表紙。二九・一×二一・〇糰。五針袋綴。

右肩に「光福」と墨書のある紙片を貼付、その下に「留」と墨書。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽はあるものの、破損剥落。「剪燈新話 上

（中・下）」と打付書。

〔内題〕 「剪燈新話序」、「剪燈新話引」、「剪燈新話詩（一格空）并序」、

「剪燈新話目錄」、「剪燈新話句解卷之上（中・下）／（低八格）

山陽瞿佑宗吉著／（低八格）滄洲（三格空）訂正／（低八格）

垂胡子（二格空）集釈」。

〔尾題〕 「剪燈新話目錄終」、「剪燈新話句解卷之下終」。卷之上・中、尾題なし。

〔本文〕 八行×一六字。大型活字（二画一画が極太）、注小字双行。

〔匡郭〕 四周単辺（序、二二・八×一七・二種、巻之上、二二・五×一七・二種）、有界。

〔版心〕 大黒口（上、五・七種、下、四・三種） 双黒魚尾（いずれも下向き）、中縫、「序」「丁附」。

〔丁数〕 第一冊、八二丁（剪燈新話序、洪武十一年歳次戊午六月朔日山陽瞿佑書于呉山大隱堂、剪燈新話序、洪武三十年夏四月錢塘凌雲翰序、剪燈新話引、洪武十四年秋八月呉植書于錢塘邑庠進徳齋、剪燈新話詩并序、洪武己巳六月六日陸人佳衡書于紫微深処・五丁半、目録・一丁半、巻之上・七五丁）、第二冊、六六丁（巻之中）、第三冊、七七丁（巻之下）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「青／山／艸／堂」（朱丸印）、「蘇／峰」（朱菱形印）。他、巻末に判読不明の墨丸印。

〔備考〕 墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。第二冊、一二丁裏と一三丁表の間に「三表帖来由40・10・22／蘇峰字人（印）」（表）、「明治四十四年十二月一日以此帖交換活字／剪燈新話一部焉」（裏）の封書を挟む。封書の中には、本書を琳琅閣書店で入手した際の店主とのやり取りなど、興味ある来歴が長文で認められた奉書紙が入る。

川瀬、三九〇・八三三頁、慶長元和中刊。

子部 一一 小説家類（二）異聞
56、冷齋夜話 十巻（宋）釈惠洪撰

〔請求番号〕 善本書目・六四一頁

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 後補薄縹色（水色）表紙。二二・八×一六・七種。四針袋綴。右肩に「活字本（墨）／尤珍（朱）」、右下に「蘇峰逸人／清玩之一」と墨書。

〔題簽〕 無。左肩に「冷齋夜話 全」と打付書。

〔内題〕 「冷齋夜話目録」、「冷齋夜話巻之一（一〇）」。

〔尾題〕 「冷齋夜話目録終」、「冷齋夜話巻之一（一〇）終」。

〔本文〕 九行×一八字。稍小型の活字を用いる。

〔匡郭〕 四周単辺（目録、一六・二×二・四種、巻之一、一六・一×一二・三種）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「夜話目（一〇） 丁附」。

〔丁数〕 一〇三丁（目録、一〇丁、巻之一・一二丁、巻之二・九丁、巻之三・七丁、巻之四・一〇丁、巻之五・八丁、巻之六・八丁、巻之七・九丁、巻之八・一〇丁、巻之九・八丁、巻之十・一二丁）。

〔刊記〕 目録の末に、刊語「是書僧惠洪所編也洪本筠州彭氏子／祝髮為僧以詩名聞海内与蘇黄方／外友是書古今伝記与夫騷人墨客多／所取用惜旧本訛謬且兵火散失之余／幾不伝於世本堂家藏善本与旧本編／次大有不同再加訂正以續諸梓与同／志者共之幸鑒／癸

未春孟新刊」、卷之十の卷末に、「(低十格) 於下京櫻町開板」。

〔印記〕「成／簀堂／印」(朱印)、「天下之公／寶須愛護」(朱長方印)、「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」(双、朱方印・大)、「徳富／所有」(双、朱方印)、「式岸皆□樹／溪流徹底清／秋魚眠不覺／風葉落□□」(朱方印)、「TOKUTOMI」(朱印)、「自彊／不息」(朱丸印)、「蘇／峰」(朱方印)、「成簀堂」(双、朱長方印)。その他多数。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名の他、白墨訂正等が施されている。前表紙の見返しに蘇峰の墨識語。「寛永二十年於下京櫻町／開板要是活字之体不整一而奇／趣横生雅味可愛蘇峰生坐右／清玩之一也／明治三十八年十二月初六日／於青山草堂」。後表紙の見返しには、鉛筆書の購書メモあり。「38・12・5／鹿3、0」(明治三十八年二月五日、鹿田松雲堂)。映題簽、蘇峰筆。「活字板冷齋夜話(蘇峰／珍藏)」。

川瀬、三六四・三八八・八三一頁、寛永中刊。「本書の「癸未春孟新刊」は原刊記故、寛永二十年を表記するものではないが、活字の様式は寛永頃で相応してゐる。或はたまたま寛永の刊行時の干支と合致してその保存し、下に刊記は「於下京櫻町開板」のみを附記したものかもしれない」(八三一頁)。

子部 一一 小説家類(二) 異聞

57、冷齋夜話 十卷 (宋) 釈惠洪撰

〔請求番号〕善本書目・六四二頁

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕栗皮表紙。二四・一×一六・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。中央に「冷齋夜話(一／二) (三／六、七／十)」と打付書。

第一冊のみ左肩にも「冷齋夜話 上中下之内」と打付書。

〔内題〕「冷齋夜話目録」、「冷齋夜話卷之一(一／十)」。

〔尾題〕「冷齋夜話目録終」、「冷齋夜話卷之一(一／十)終」。

〔本文〕九行×一八字。稍小型の活字を用いる。

〔匡郭〕四周单边(目録、一六・三×一二・五糎、卷之一、一六・一×

一二・三糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「夜話目(一／十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三二丁(目録、一〇丁、卷之一・一二丁、卷之二・九

丁)、第二冊、三三丁(卷之三・七丁、卷之四・一〇丁、卷之

五・八丁、卷之六・八丁)、第三冊、三九丁(卷之七・九丁、卷

之八・一〇丁、卷之九・八丁、卷之十・一二丁)。

〔刊記〕目録の末に、刊語「是書僧惠洪所編也洪本筠州彭氏子／祝髮為僧以詩名聞海内与蘇黄方／外友是書古今伝記与夫騷人墨客多／所取用惜旧本訛謬且兵火散失之余／幾不伝於世本堂家藏善本与日本編／次大有不同再加訂正以繡諸梓与同／志者共之幸鑒／癸未春孟新刊」、卷之十の卷末に、「(低十格) 於下京櫻町開板」。

〔印記〕「佛日／藏書」（朱長方印）、「徳富／文庫」（朱方印）、「蘇／峰

（朱方印）、「成實堂」（朱長方印）。

〔備考〕無書入。各冊とも前後の表紙裏に、『太平記』（整版、双边無界、

一二行×二三字）の刷り反古（第一冊・前、巻第二・一二丁裏、

第一冊・後、巻第一・一六丁表、第二冊・前、巻第一・二丁裏、

第二冊・後、剥離なし、不明、第三冊・前、巻第二・一二丁表、

巻第二・一二丁表、第三冊・後、巻第一・三丁表）あり。川瀬、

三六四・三八八・八三二頁、寛永中刊。図録篇・二一八図に成

實堂文庫本（本書）の図版を収む。刊行年時は、表紙裏の反古

が目安になるか。

子部 一二 類書類

58、新編古今事文類聚 二二二巻（宋）祝穆編・（元）富大用補

〔請求番号〕善本書目・六三七頁

〔体裁〕大本八一冊。

〔表紙〕栗皮（押八双有）表紙。二六・五×二〇・〇糎。目録冊のみ、

焦げ茶色空押卍（大）繋ぎ文様表紙。二六・六×二〇・〇糎。

四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「事文類聚總目（一〇八十終）」と白墨書。第二冊か

ら右肩に「天道部乾（〓縣官部坤）」。

〔内題〕「新編古今事文類聚總目」、「新編古今事文類聚目録一／（低八格）

建（一格空）安（一格空）祝（一格空）穆（一格空）和父編」、

「新編古今事文類聚卷之二／（低八格）建（一格空）安（一格空）

祝（一格空）穆和父編」（〓「新編古今事文類聚卷之三百二十一

／（低六格）南（一格空）江（一格空）富（一格空）大用（一

格空）時可編）。

〔尾題〕「新編古今事文類聚總目終」、「新編古今事文類聚卷之一（〓巻之

二百二十一）」。

〔本文〕每半葉一二行×一九字。序は每半葉九行×一五字。稍小型の活

字（川瀬一馬は元和勅版の活字を襲用しているというが、要検

討）、注小字双行。

〔匡郭〕四周双边（序、二〇・五×一六・一糎）、有界。

〔版心〕黒口双黒魚尾、中縫、「事文序（事文序終・事文總目・事文目録

一・事文一〓二百二十一）丁附」。

〔丁数〕第一冊、二八丁（序、淳祐丙午臘月望日晚進祝^穆伯和父謹識・

三丁、總目・二五丁）、第二冊、五四丁（目録・三丁、巻之一・

二二丁、巻之二・三〇丁）、第三冊、八九丁（目録・一〇丁、巻

之三・一九丁、巻之四・二九丁、巻之五・三一丁）、第四冊、

九五丁（目録・一〇丁、巻之六・二二丁、巻之七・二二丁、巻

之八・二二丁、巻之九・二二丁）、第五冊、七七丁（目録・九丁、

巻之十・二三丁、巻之十一・一八丁、巻之十二・二七丁）、第六

冊、八〇丁（目録・七丁、巻之十三・二九丁、巻之十四・二七

丁、巻之十五・一七丁）、第七冊、七二丁（目録・七丁、巻之

十六・一九丁、巻之十七・二八丁、巻之十八・一八丁）、第八冊、

九二丁（目錄・一〇丁、卷之十九・一九丁、卷之二十・二一丁、卷之二十一・二四丁、卷之二十二・一八丁）、第九冊、六四丁（目錄・七丁、卷之二十三・二五丁、卷之二十四・三二丁）、第一〇冊、九〇丁（目錄・一〇丁、卷之二十五・一二丁、卷之二十六・一九丁、卷之二十七・二四丁、卷之二十八・二五丁）、第一一冊、八七丁（目錄・一〇丁、卷之二十九・三二丁、卷之三十・二四丁、卷之三十一・二二丁）、第二二冊、五六丁（目錄・五丁、卷之三十二・二四丁、卷之三十三・二七丁）、第二三冊、七九丁（目錄・八丁、卷之三十四・三二丁、卷之三十五・三九丁）、第一四冊、五四丁（目錄・五丁、卷之三十六・二二丁、卷之三十七・二七丁）、第一五冊、七〇丁（目錄・六丁、卷之三十八・一八丁、卷之三十九・二七丁、卷之四十・一九丁）、第一六冊、六八丁（目錄・六丁、卷之四十一・一九丁、卷之四十二・二六丁、卷之四十三・一七丁）、第一七冊、六八丁（目錄・七丁、卷之四十四・二二丁、卷之四十五・一八丁、卷之四十六・二二丁）、第一八冊、四七丁（目錄・五丁、卷之四十七・一六丁、卷之四十八・二六丁）、第一九冊、七五丁（目錄・七丁、卷之四十九・二九丁、卷之五十・一七丁、卷之五十一・二二丁）、第二〇冊、七〇丁（目錄・六丁、卷之五十二・一九丁、卷之五十三・六丁、卷之五十四・九丁、卷之五十五・一七丁、卷之五十六・一三丁）、第二一冊、六〇丁（目錄・六丁、卷之五十七・九丁、卷

之五十八・一九丁、卷之五十九・八丁、卷之六十・一八丁）、第二二冊、七二丁（目錄・七丁、卷之六十一・二二丁、卷之六十二・二三丁、卷之六十三・二二丁）、第二三冊、七五丁（目錄・九丁、卷之六十四・二二丁、卷之六十五・二二丁、卷之六十六・二三丁）、第二四冊、七二丁（目錄・九丁、卷之六十七・二二丁、卷之六十八・二二丁、卷之六十九・二〇丁）、第二五冊、六七丁（目錄・七丁、卷之七十・二〇丁、卷之七十一・二二丁、卷之七十二・一九丁）、第二六冊、六〇丁（目錄・六丁、卷之七十三・二九丁、卷之七十四・二五丁）、第二七冊、五四丁（目錄・六丁、卷之七十五・二七丁、卷之七十六・二二丁）、第二八冊、七九丁（目錄・一〇丁、卷之七十七・一八丁、卷之七十八・二四丁、卷之七十九・二七丁）、第二九冊、六〇丁（目錄・八丁、卷之八十・二六丁、卷之八十一・二六丁）、第三〇冊、八八丁（目錄・一〇丁、卷之八十二・三二丁、卷之八十三・二七丁、卷之八十四・一九丁）、第三一冊、七一丁（目錄・一〇丁、卷之八十五・二六丁、卷之八十六・一八丁、卷之八十七・一七丁）、第三二冊、六七丁（目錄・七丁、卷之八十八・一九丁、卷之八十九・一八丁、卷之九十・二三丁）、第三三冊、五三丁（目錄・九丁、卷之九十一・二二丁、卷之九十二・二三丁）、第三四冊、七〇丁（目錄・七丁、卷之九十三・一四丁、卷之九十四・二二丁、卷之九十五・二八丁）、第三五冊、六四丁（目錄・八丁、卷之

九十六・三〇丁、卷之九十七・二六丁）、第三六冊、七六丁（目錄・八丁、卷之九十八・二〇丁、卷之九十九・二一丁、卷之一百・一六丁、卷之一百一・一一丁）、第三七冊、八一丁（目錄・九丁、卷之一百二・二四丁、卷之一百三・二五丁、卷之一百四・二三丁）、第三八冊、七七丁（目錄・一〇丁、卷之一百五・二五丁、卷之一百六・二三丁、卷之一百七・一九丁）、第三九冊、六八丁（目錄・九丁、卷之一百八・一九丁、卷之一百九・二〇丁、卷之一百十・二〇丁）、第四〇冊、七七丁（目錄・一丁、卷之一百十一・三六丁、卷之一百十二・四〇丁）、第四一冊、八二丁（目錄・八丁、卷之一百十三・一九丁、卷之一百十四・二三丁、卷之一百十五・三二丁）、第四冊、七六丁（目錄・八丁、卷之一百十六・四三丁、卷之一百十七・二五丁）、第四三冊、六一丁（目錄・五丁、卷之一百十八・二六丁）、卷之一百十九・三〇丁）、第四四冊、五七丁（目錄・七丁、卷之一百二十・二九丁、卷之一百二十一・二二丁）、第四五冊、六五丁（目錄・七丁、卷之一百二十二・三五丁、卷之一百二十三・二三丁）、第四六冊、六六丁（目錄・八丁、卷之一百二十四・二六丁、卷之一百二十五・三二丁）、第四七冊、八四丁（目錄・一〇丁、卷之一百二十六・二五丁、卷之一百二十七・一八丁、卷之一百二十八・三一丁）、第四八冊、五五丁（目錄・七丁、卷之一百二十九・一四丁、卷之一百三十・一七丁、卷之一百三十一・一七丁）、第四九

冊、八二丁（目錄・九丁、卷之一百三十二・二七丁、卷之一百三十三・二六丁、卷之一百三十四・二〇丁）、第五〇冊、五一丁（目錄・六丁、卷之一百三十五・二三丁、卷之一百三十六・二二丁）、第五一冊、五九丁（目錄・七丁、卷之一百三十七・三一丁、卷之一百三十八・二二丁）、第五二冊、八七丁（目錄・九丁、卷之一百三十九・一九丁、卷之一百四十・一九丁、卷之一百四十一・二三丁、卷之一百四十二・一七丁）、第五三冊、九六丁（目錄・九丁、卷之一百四十三・三六丁、卷之一百四十四・二九丁、卷之一百四十五・二二丁）、第五四冊、八八丁（目錄・八丁、卷之一百四十六・二二丁、卷之一百四十七・一六丁、卷之一百四十八・二六丁、卷之一百四十九・一七丁）、第五五冊、六七丁（目錄・七丁、卷之一百五十・三二丁、卷之一百五十一・二八丁）、第五六冊、五〇丁（目錄・六丁、卷之一百五十二・二九丁、卷之一百五十三・一五丁）、第五七冊、七三丁（目錄・八丁、卷之一百五十四・二二丁、卷之一百五十五・二一丁、卷之一百五十六・二二丁）、第五八冊、七九丁（目錄・八丁、卷之一百五十七・一七丁、卷之一百五十八・三五丁、卷之一百五十九・一九丁）、第五九冊、四九丁（目錄・五丁、卷之一百六十・二四丁、卷之一百六十一・二〇丁）、第六〇冊、八五丁（目錄・一〇丁、卷之一百六十二・一九丁、卷之一百六十三・二九丁、卷之

一百六十四・二七丁)、第六一冊、八一丁(目錄・八丁、卷之一百六十五・二四丁、卷之一百六十六・二一丁、卷之一百六十七・二八丁)、第六二冊、七〇丁(目錄・七丁、卷之一百六十八・二二丁、卷之一百六十九・一八丁、卷之一百七十・二三丁)、第六三冊、七二丁(目錄・八丁、卷之一百七十一・一四丁、卷之一百七十二・一九丁、卷之一百七十三・三一丁)、第六四冊、五八丁(目錄・六丁、卷之一百七十四・一五丁、卷之一百七十五・一六丁、卷之一百七十六・二二丁)、第六五冊、七九丁(目錄・七丁、卷之一百七十七・三八丁、卷之一百七十八・二七丁、卷之一百七十九・七丁)、第六六冊、八〇丁(目錄・九丁、卷之一百八十一・四九丁)、第六七冊、六九丁(目錄・八丁、卷之一百八十二・三四丁、卷之一百八十三・二七丁)第六八冊、九一丁(目錄・九丁、一百八十四・二三丁、卷之一百八十五・一六丁、卷之一百八十六・一〇丁、卷之一百八十七・三三丁)、第六九冊、八八丁(目錄・九丁、卷之一百八十八・七九丁)、第七〇冊、八八丁(目錄・九丁、卷之一百八十九・二一丁、卷之一百九十・五八丁)、第七一冊、六一丁(目錄・六丁、卷之一百九十一・四二丁、卷之一百九十二・一三丁)、第七二冊、八一冊(目錄・八丁、卷之一百九十三・二二丁、卷之一百九十四・九丁、卷之一百九十五・七丁、卷

之一百九十六・三五丁)、第七三冊、九八丁(目錄・一一丁、卷之一百九十七・二三丁、卷之一百九十八・八丁、卷之一百九十九・三七丁、卷之二百・一九丁)、第七四冊、七八丁(目錄・八丁、卷之二百一・四〇丁、卷之二百二・一四丁、卷之二百三・一一丁、卷之二百四・五丁)、第七五冊、七五丁(目錄・一〇丁、卷之二百五・二四丁、卷之二百六・七丁、卷之二百七・一七丁、卷之二百八・一七丁)、第七六冊、六六丁(目錄・七丁、卷之二百九・六丁、卷之二百十・七丁、卷之二百十一・一九丁、卷之二百十二・二七丁)、第七七冊、一〇一丁(目錄・一一丁、卷之二百十三・三六丁、卷之二百十四・三二丁、卷之二百十五・二三丁)、第七八冊、九八丁(目錄・一一丁、卷之二百十六・六三丁、卷之二百十七・二四丁)、第七九冊、九四丁(目錄・一〇丁、卷之二百十八・四二丁、卷之二百十九・四二丁)、第八〇冊、七五丁(目錄・七丁、卷之二百二十・六八丁)、第八一冊、五四丁(目錄・六丁、卷之二百二十一・四八丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「完山／＼澄」(朱方印)、「虚／＼」(朱香炳印)、「百／＼／堂」

(朱方印)、「□／史」(朱方印)、「金炳／治印」(朱方印、陰刻)、「辛酉／司馬」(朱長方印、以上卷首)、「朝鮮／國人」(朱方印、陰刻)、「秋史／珍藏」(朱方印、金正喜、一七八六—一八五六、李氏朝鮮の能書家)、「金／正／喜／印」(朱方印、陰刻、金正

喜、「清□／閣書／畫記」(朱方印)、「金／師」(朱方印)、他、陰刻印一印(以上、卷末)。「蘇／峯」(朱方印)、「蘇峰學人／京城所獲」(朱長方印)。

〔備考〕

朱引、朱句読点若干。無書人の冊多し。以下の冊には、蘇峰による墨もしくは万年筆書の識語が記されている。「大正五年三月十九日於鮎貝氏／獲焉八十冊合総目為八十一冊／同年十一月初一於鵲巢居／蘇峯自誌」(第二冊の前表紙見返し、墨。鮎貝氏とは、鮎貝房之進。一八六四～一九四六、言語学者・歌人・歴史学者。落合直文の弟、朝鮮総督府顧問。蘇峰は明治四三(一九一〇)年～大正五(一九一六)年、京城日報社の運営に当たっていた。旧王宮景福宮の裏山の孝子洞の北門に通ずる所に居を下し、鵲巢居と名付けていた。別棟には金さんという下僕が住んでいたという。金谷要作「京城「鵲巢居」の思い出」、
「大正十三／十一月十七於大森山王艸堂 蘇峯老人 御歳／六十又二」(第六冊の巻末、万年筆)、「大正五年十一月初一日／於京城鵲巢居／蘇峯一讀」(第八冊の巻末、墨書)、「昭和八年十二月卅日午前十時／蘇峰七十一叟／於山王艸堂又讀」(第八冊の後表紙見返し、万年筆)、「昭和五稔四月念／蘇峰六十八叟讀」(第三六冊の後表紙見返し、墨)、「大正十四改元□□其／翌日於山王艸堂 梅窓側蘇峯老人使用」(第三七冊の巻末、墨書)、「大正十三年十一月十七日 蘇峯一讀／於大森山王草堂 歳六十又二」(第四三冊の巻末、万年筆)、「大正十三 於大森山王艸堂／十一

月十七日 蘇峯老人歳／六十又二(第四四冊の巻末、万年筆)。第一冊の後表紙の見返しの袋に領収書。「領収書／一金肆拾円也／古今事文類聚揃拾□冊代金□□正□之／領収候／大正四年十二月十三日／楽園洞七十八番地／李鍾翊 印(李鍾翊)／鮎貝公様」。

川瀬、三八九・八三二頁、「本書の活字は元和勅版の活字を襲用してゐる部分があると認められるので、内閣文庫蔵本には元和七年の識語も見え、かたがた元和年間の印行と考へられる」(八三二頁)。内閣文庫には二点の所蔵があり、そのうちの一点(請求番号、365・33)には巻末に、元和七年十月から寛永元年六月六日までの墨識語が施されている。これにより刊行年時も元和七年十月以前と特定できる。

子部 一四 道家類

59、句解南華真經 十卷附新添莊子十論一卷 (宋) 林希逸撰

〔請求番号〕善本書目・六二七頁

〔体裁〕大本五冊。

〔表紙〕栗皮表紙(押八双有)。二七・七×一九・四釐。四針袋綴。

〔題簽〕無。

〔内題〕「句解南華真經發題／(低五格) 虞(二格空) 齋(二格空) 林(二格空) 希(一格空) 逸」、「句解南華真經目錄」、「句解南華真經卷之一(ノ十)／(低八格) 虞(二格空) 齋(二格空) 林(二

格空) 希逸、「莊子後序」、「新添莊子論／(低五格) 教(一格空) 授(一格空) 李(一格空) 士表(一格空) 述」

〔尾題〕「句解南華真經卷之一(五・卷第六・七・九・十終)」、「新添莊子十論卷終」。

〔本文〕 七行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(序、二〇・八×一五・一糶、卷之一、二〇・九×一四・九糶)、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「莊子序(穆陵宸翰・莊子目錄・莊子一) 十・莊子後序・莊子跋・新添莊子論) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、一〇八丁(序、漆園老仙之作是書也) 景定辛酉季夏望日石塘林同謹書・二丁、発題・三丁、穆陵宸翰・一丁、目錄・一丁、卷之一・四九丁、卷之二・五二丁)、第二冊、一一六丁(卷之三・五五丁、卷之四・六一丁)、第三冊、一一七丁(卷之五・五一丁、卷之六・六六丁)、第四冊、一二五丁(卷之七・六二丁、卷之八・六三丁)、第五冊、一三〇丁(卷之九・四七丁、卷之十・四九丁、後序、景定改元中和節宣教郎邵武軍建寧縣林經德序・三丁半、跋、景定辛酉十一月己巳三衢徐森景說跋・一丁半、新添莊子十論・二九丁)。他、各冊とも前後に遊紙各一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「東坊／城蔵／書記」(朱方印、陰刻)、「山陰圖書」(朱長方印)、「蘇峰／□讀」(朱印)、「徳富／猪印」(朱方印、陰刻)、「蘇峰文

庫」(朱長方印)、「蘇峰／清賞」(朱方印、陰刻)、「成篋堂／清玩記」(朱棗田印)、「蘇峰／學人」(朱方印)、他判読不明の朱丸印(陰刻) 一印。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆による振仮名、送仮名、他、朱墨による書人が多数施されている。桐箱(蓋、「莊子／口義／活字／五冊」と墨書、「一四五七」と墨書のある紙片を貼付) 入。川瀬、(一) 慶長中刊。

子部 一四 道家類

60、句解南華真經 存卷之一(九) (宋) 林希逸撰

〔請求番号〕 善本書目・六二七頁

〔体裁〕 大本七冊。

〔表紙〕 後補香色表紙。二七・六×二〇・二糶。四針袋綴。各冊とも前後の表紙裏に文書の反古を用いる。

〔題簽〕 無。左肩に「莊子 三(九)」と打付書。卷之三の冊の右肩に、「第一冊。第二冊。第十冊欠」と墨書。以上の筆は、卷之三の冊の前表紙見返しに記されている田中幸二郎の識語(備考欄参照)の筆と同筆。

〔内題〕 「句解南華真經卷之三(九)／(低五格) 虞(二格空) 齋(一格空) 林(二格空) 希(一格空) 逸」、「莊子後序」。

〔尾題〕 「句解南華真經卷之三(五・卷第六・七・九)」。

〔本文〕 七行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（卷之三、二〇・九×一五・三糶）、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「莊子三（〜九） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五五丁（卷之三）、第二冊、六〇丁（卷之四、三四丁欠）、第三冊、五二丁（卷之五） 第四冊、六六丁（卷之六）、第五冊、六二丁（卷之七）、第六冊、六三丁（卷之八）、第七冊、四七丁（卷之九）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「祥雲／寺印」（墨方印）、「徳富／文庫」（朱方印）、「天下之公／寶須愛護」（朱長方印）、「蘇峰／清賞」（朱方印）、「徳富／護持」（双、朱方印）、「成／簀堂／印」（朱印）、「菅正／敬印」（朱方印、陰刻）、「蘇／峰」（朱方印）、「青山／艸堂」（朱方印、陰刻）、「徳富／所有」（双、朱方印）、「成簀堂」（双、朱長方印）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「徳／富」（朱方印）。

〔備考〕 卷首に「祥雲寺常住」（卷之三）、「祥雲常住」（卷之四〜九）と墨書。無書入。

第一冊（卷之三）の前表紙の見返しに墨識語あり。「本書元來第二冊を欠ク、昭和四、十一月、天海旧儲本ノ首尾各一冊欠本ナル、而シテ本書と同版式の書ノヲ得タルガ故ニ、本書ノ首尾二冊ヲ以テ／天海旧儲本莊子ヲ補ヘリ／昭和四、十二月初二／田中幸二郎記」。

子部 一四 道家類

61、句解南華真經 十卷附新添莊子十論一卷（宋）林希逸撰

〔請求番号〕 善本書目・六二七頁

〔体裁〕 大本一〇冊。

〔表紙〕 後補丹表紙（見返し新補改装、第七〜一〇冊の後表紙は新補）。二七・六×二〇・〇糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「南華真經一（〜十）」。

冊（天海の筆に似せて巧みに模写したもの）の外題の筆は別筆。

〔内題〕 「句解南華真經発題／（低五格） 虞（二格空） 齋（二格空） 林（二格空） 希（一格空） 逸」、「句解南華真經目錄」、「句解南華真經卷之一（〜十）／（低八格） 虞（二格空） 齋（二格空） 林（二格空） 希逸」、「莊子後序」、「新添莊子十論／（低五格） 教（一格空） 授（一格空） 李（一格空） 士表（一格空） 述」。

〔尾題〕 「句解南華真經卷之一（〜五・卷第六・七〜九・十終）」、「新添莊子十論卷終」。

〔本文〕 七行×一七字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二〇・八×一五・一糶、卷之一、二〇・九×一五・〇糶）、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「莊子序（穆陵宸翰・莊子目錄・莊子一十・莊子後序・莊子跋・新添莊子論） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、五六丁（序、漆園老仙之作是書也／景定辛酉季夏望日 石塘林同謹書・二丁、発題・三丁、穆陵宸翰・一丁、目錄・

一丁、卷之一・四九丁）、第二冊、五二丁（卷之二）、第三冊、五五丁（卷之三）、第四冊、六一丁（卷之四）、第五冊、五一丁（卷之五）、第六冊、六六丁（卷之六）、第七冊、六二丁（卷之七）、第八冊、六三丁（卷之八）、第九冊、四七丁（卷之九）、第一〇冊、八三丁（卷之十・四九丁、後序、景定改元中和節宣教郎知邵武軍建寧縣林經德序・三丁半、跋、景定辛酉十一月己巳三衢徐霖景說跋・一丁半、新添莊子十論・二九丁、二九丁目は補写）。

〔刊記〕

無。

〔印記〕「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」（双、朱方印・大）、「天下之公／寶須愛護」（朱長方印）、「蘇峰珍藏」（朱長方印）、「蘇峰／學人」（朱方印）、「徳富／猪印」（朱方印、陰刻）、「蘇／峯」（朱方印）。

〔備考〕

朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名が施されている。第一冊の巻首右上と右下に蔵書印の切取痕があり、裏打修補。川瀬一馬によると、ここには祥雲寺旧蔵印及び墨書があったという（後述）。第二冊（卷之二）～第七冊（卷之七）の内題下には、天海の筆で「天海蔵」と墨書されるが、第八冊（卷之八）と第九冊（卷之九）の巻首、匡郭右辺の外側には、第二冊（卷之二）～第七冊（卷之七）とは別筆、楷書体に近い筆で「天海蔵」と墨書されている。第一〇冊の後遊紙の表丁と裏丁には、蘇峰による識語が記されている。「Umcut／按是書天海僧正旧

儲其題簽／僧正手筆其裝釘一切英語／所謂温骨斗（稿者注、アンカット）者也但憾欠首／尾両卷耳 昭和己巳（稿者注、四年）霜／月十七日購□従本郷古書／肆誌喜 蘇峰六十七叟（印、徳富／猪印・蘇／峯）（表）、「首尾両卷従別儲同活刷本／補充茲成完好善本後／人□□前人辛苦経営／云尔 昭和己巳臘尾念／六蘇峰六十七叟」（裏）。後表紙の見返しには、鉛筆書の購書メモあり。「六／冊4・11・17／琳／22,50」「六」を擦り消し「八」と訂正。アンカットとは、書籍の小口こぐちを切りそろえてないこと。読むときにはペーパーナイフ等を使って切りながらすすむ。本書の場合は、袋綴が切れてないことを言っているものか。

以上、成篁堂文庫には、『句解南華真経』が三点（いずれも同版）所蔵されているが、そのうちの一点（十冊本）について、川瀬一馬は、以下のように記す（『新修成篁堂文庫善本書目』、六二七頁）。「本書巻一・十の二冊を欠き、他の八冊は朱の原表紙付、墨書外題は天海僧正筆、又、各冊首に「天海蔵」の墨書がある。もと欠巻であった巻一・十の二冊は、前記祥雲寺旧蔵本を補配し、巻首の祥雲寺旧蔵印及び墨書を切り取り削去し、巻七・八・九の後表紙を取って巻一・十の表紙に配し、墨書外題を巧みに模写し、全十冊の前表紙より見れば、天海手沢の如くによそおってある。巻七至十の四冊の後表紙は同類の料紙を以て新添補配している」。

川瀬は、「他の八冊は朱の原表紙付、墨書外題は天海僧正筆、又、

各冊首に「天海蔵」の墨書がある」と記しているが、いささか訂正を要する。

第一〇冊の後遊紙に記された徳富蘇峰の識語と、後表紙見返しに記された鉛筆書の購書メモ（蘇峰筆）によると、この本は昭和四年一月一七日に、琳琅閣書店で購入した本で、巻一と十を欠いた八冊だったことがわかる。欠巻の巻一・十の二冊は、現在補配され、他巻と同じ丹表紙が掛けられているが、その伝来と経緯についてはいささか説明を要する。八冊には現在、同一の丹表紙が掛けられ、左肩には、川瀬のいうところの「天海僧正筆」の外題が記されているので、端本ながら八冊は揃い本のように見えるが、注意を要する。八冊のうち、巻二〜七の六冊は、巻首の内題下に「天海蔵」の識語（紛れもなく天海筆）が記され、天海旧蔵本とわかるものだが、巻八と九の二冊にはそれはなく、巻首匡郭右辺の外側に、「天海蔵」と楷書体に近い筆で墨書されている。しかしこれは、巻二〜七の天海の筆とは明らかに別筆、後に何者かによって記されたものであることから、巻二〜七の六冊とは別の伝来の本を補配したものである。すなわち、蘇峰が琳琅閣書店から購入した時点で、八冊は元からの揃い本ではなく、巻二〜七の六冊と、巻八と九の二冊は、伝来の異なる本が補配されたものであることを意味する。第一〇冊の後表紙見返しには先述のごとく蘇峰によって記された鉛筆書の購書メモ（八冊／4・11・17／琳／22、50）がある

が、このメモを、よく目を凝らして見てみると、「六〇〇〇（判読不明）」とあるのを擦り消し、「八」と書き直したことがわかる。昭和四年一月一七日に、蘇峰が琳琅閣書店で本を購入した時は八冊ではなく、「もとは六冊」であった可能性がある。そう考えれば、巻二〜七の六冊の巻首丁の内題下に記された「天海蔵」の識語と、巻八と九の二冊にそれがなく、巻首丁の匡郭右辺の外側に、楷書体に近い別筆で「天海蔵」と墨書されていることの違いについても理解できる。

つまり、八冊に掛けられている丹表紙は、昭和四年一月一七日に、蘇峰が琳琅閣書店で購入した後に掛け直されたものである。八冊の表紙は、「朱の原表紙」ではなく、当然、「墨書外題は天海僧正筆」でもないことも明らかである。

では次に、「もと欠巻であった巻一・十の二冊」の素性について考えてみる。蘇峰の先の識語によれば、「首尾両巻従別儲同活刷本補充」とあるが、川瀬はこれを「前記祥雲寺旧蔵本」とする。「前記祥雲寺旧蔵本」とは、現在巻三から巻九のみを存する七冊本で、成篋堂文庫に蔵される。巻三の表紙には、「第一冊。第二冊。第十冊欠」と墨書され、前表紙の見返しには、以下のような識語が同筆で記される。

本書元来第二冊を欠く、昭和四、十一月、天海旧儲本ノ首尾各一冊欠本ナル、而シテ本書と同版式の書ヲ得タルガ故ニ、本書ノ首尾二冊ヲ以テ天海旧儲本莊子ヲ補ヘリ／昭和四、十二月初二／

田中幸二郎記

この識語によれば、「祥雲寺旧蔵本」は元来第二冊（巻二）を欠いた九冊本であった。識語に言う「天海旧儲本」とは、蘇峰が琳琅閣書店から購入した巻一・十の二冊を欠いた八冊本のことである。「本書と同版式の書ヲ得タル」と言うのが、まさにそれである。田中幸二郎（後述）によれば、巻一・十の二冊を欠いた「天海旧儲本」に、「祥雲寺旧蔵本」の巻一・十の二冊を補配したということがわかる。この結果、巻一・二・十を欠く現在の七冊本になった。巻三の表紙に墨書された「第一冊。第二冊。第十冊欠」はそれを意味する。

ところで、先述の「天海旧儲本」とは伝来の異なるこの二冊にも、「天海旧儲本」と同じ丹表紙が掛けられているが、これは現在の「天海旧儲本」巻七・八・九の後表紙を流用したものである（現在の巻七・八・九の後表紙は、新装の丹表紙に改装）。巻一の表紙には前後に二枚、巻十の表紙には前表紙に一枚が流用されていることが確認できる。それは、現在の丹表紙の後表紙には、丸に「尾」の字に「新」の字を加えた印が押されているが、後表紙を前表紙に流用していることから、綴じの位置が左右逆になるだけではなく、天地が逆になるため、丸に「尾」の字に「新」の字を加えた印も天地が逆になっていることからそれとわかる。

次に、「祥雲寺旧蔵本」（巻一・十、二冊）と、「天海旧儲本」（巻

二・九、八冊、実際は、巻二・七の六冊と巻八・九の二冊は補配されたもの）を補配し、現在の十冊の形にした田中幸二郎について触れておく。

田中幸二郎とは、蘇峰の門人だった池上幸二郎のことである。その略歴を、池上と倉田文夫の共著、『本のつくり方―和本・洋本・帙・函』（主婦と生活社、一九七九年）の筆者略歴から引用する。

明治四十一年、千葉県に生まれる。初代池上八百吉が、神田表神保町に製本屋を開いたのは、慶応三年。二代梅吉に至って、初めて古書修理と銘打って、営業を始めた。筆者はその三代目。本が好きで、二代目の養子となり、修理の技法を学ぶ一方、徳富蘇峰、幸田成友、三田村鳶魚、永井荷風、森銃三諸氏の門に出入りして、書誌学を身につけ、宋元版から和漢書、および洒落本、黄表紙、黒本、赤本に至るまで、その本の姿を習得した。終戦後、文化庁より国宝、重要文化財の修理を委嘱され、東京国立博物館内に、池上国宝修理室を設け、現在に至る。昭和五十四年春、永年の文化財保護の功により、勲六等单光日章を授与される。『山崎闇斎全集』『佐藤直方全集』『崎門学脈系譜』などの編纂と、『雁門集』（俳句集）『夢の如しの記』の著書がある。

さらに付言すれば、池上製本は、徳富蘇峰専属の製本屋であった。

池上と倉田文夫の共著『本のつくり方』和本・洋本・帙・函（主婦と生活社、一九七九年）は、池上が和本、倉田が洋本について、装丁別に作り方を丁寧な解説をしている。写真図版多数で素人にもわかりやすい。本の冒頭で、「和本とともに五十年―手づくり本のすすめ―」と題して、池上が自身の生い立ちから、環境、和本製本との関わりを始め、徳富蘇峰との関係などについて書いている。参考までに蘇峰との関係について一部引用する。「私が学校を終わり、東京に出、徳富蘇峰先生の秘書兼助手になって勤めたのは、昭和三年であった。蘇峰先生の蔵書は十万冊といわれ、天下の貴重本がたくさんあった。今でいえば、重要文化財が何部もあることである。私はそこで秘書といわれたが、司書といったほうが正しかった。蘇峰先生は本を非常に大切にすることで、普通の本にも、表紙の上にも一枚紙をかぶせておくのである。表紙掛けは書生の仕事で、私は暇があるとそれを眺めていた。掛けた表紙の題簽を書くのが私の仕事であった。先生は時に、大切な本は専門家を自宅に招いて修理させていた。昭和五年のころであった。都下の名工、池上梅吉翁を招いた折、身延山の北宋版「礼記正義」の欠本を発見した。これのもと金沢文庫にあった物だが、身延山ではその価値を十分知らないため、紙くず同然に考えていた。実はこの本は中国で失われていて、国宝的な物であった。修理には何か月もかかったが、その見事なでき映えを蘇峰先生が喜び、梅吉翁のことを冗

談に「孔子の恩人恙なきや」と折にふれていうようになった。私は修理の依頼で、梅吉翁の仕事場に足繁く通うようになった。（中略）昭和六年、私は蘇峰先生の仲人で梅吉翁の長女と結婚し、池上家三代目となった。」

成篋堂文庫蔵の『句解南華真経』の表紙の問題も、池上が蘇峰の秘書兼助手になった時期と一致する。川瀬一馬が、「全十冊の前表紙より見れば、天海手沢の如くによそおつてある」という見解を記していたが、そもそも巻二〜九の八冊の表紙の外題は天海僧正筆ではないのだから、「天海手沢の如くによそお」うものにもない。巻一・十の表紙に、巻二〜九の八冊の表紙同様、「墨書外題を巧みに模写」したのは、「天海手沢の如くによそおつて」のことではなく、単に巻二〜九の八冊の表紙の外題との統一感を出すために、池上幸二郎によってなされた可能性も十分であろう。

子部 一四 道家類

62、太上感應篇経伝 一卷

〔請求番号〕善本書目・六四五頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二五・三×一五・五糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「万曆／活字本／太上感應篇経伝」と打付書。

〔内題〕「太上感應真経序」、「太上感應篇経伝」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 八行×一五字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二〇・五×一三・一糶）、無界。

〔版心〕 卷首丁のみ黒口双花口魚尾、以下、白口上花口魚尾、中縫、「序

（感応篇） 丁附」。

〔丁数〕 七二丁（序、万曆壬寅歲臘月穀旦／賜同進士出身前／欽差提督

南畿学校陝西道御史年治／（低七格）生柯挺頓首拜撰・六丁（一

〜六）、太上感応篇経伝・一三丁（七〜十九）、太上感応篇経伝・

五三丁（一〜五十三）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「樂印」（朱長方印）、「浮生／夢場」（朱方印、陰刻）、「蘇／峯

（朱方印）、「青山／艸堂」（朱方印、陰刻）。

〔備考〕 唐本仕立て。本書の料紙は竹紙を模した薄様紙を用いているの

が特徴的である。前表紙の見返しには、鉛筆書の購書メモあり。

「41・1・10琳／25、一冊」（明治四一年一月一〇日、琳琅閣書

店。川瀬、三九二・八三四頁、寛永正保中刊。

子部 一四 道家類

63、太上感応篇経伝 一卷

〔請求番号〕 善本書目・六四五頁

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 後補黄色表紙。二六・七×一六・一糶。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「太上感応真経 全」、右肩に「古活字本」、右下に

「旧浅艸文庫印記在焉」と墨書。

〔内題〕 「太上感応真経序」、「太上感応篇経伝」。

〔尾題〕 無。

〔本文〕 八行×一五字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二〇・四×一三・一糶）、無界。

〔版心〕 卷首丁のみ黒口双花口魚尾、以下、白口上花口魚尾、中縫、「序

（感応篇） 丁附」。

〔丁数〕 七二丁（序、万曆壬寅歲臘月穀旦／賜同進士出身前／欽差提督

南畿学校陝西道御史年治／（低七格）生柯挺頓首拜撰・六丁（一

〜六）、太上感応篇経伝・一三丁（七〜十九）、太上感応篇経伝・

五三丁（一〜五十三）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「浅艸文庫」（朱長方印、板坂卜齋、一五七八〜一六五五、江

戸時代前期の医師）、「奚暇齋／讀本記」（朱長方印、多紀元堅、

一七九五〜一八五七、江戸時代末期の幕府医官）、「徳富／猪一

郎」（朱方印、陰刻）、「須愛護／蘇峰／囑」（朱印）、「徳富文庫」

（双、朱長方印）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「蘇峰／學／

人」（朱方印）、「蘇峯／珍藏」（朱長方印）。

〔備考〕 前掲書と同版。無書入。唐本仕立て。竹紙を模した料紙を用い

るが、前掲書の料紙と比べると、本書の料紙は厚手。巻末に鉛

筆書購書メモあり。「38・3・1／琳、50」（明治三八年三月一

日、琳琅閣書店)。「感応真經一冊」と墨書のある紙製の帙に入れ、さらに蘇峰筆の題簽(古活字太上感応真經(淺艸文庫印在／蘇峰珍蔵)のある標色の帙に入る。川瀬、三九二・八三四頁、寛永正保中刊。

子部 一四道家類

64、列子虜齋口義 二卷 (宋) 林希逸撰

〔請求番号〕善本書目・六三〇頁

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕薄茶色空押雷文繋ぎ蓮華唐草文様表紙(押八双有)。二八・二×

一八・一糶。五針袋綴。

〔題簽〕無。中央に「列子口義 乾(坤)」と打付書。

〔内題〕「列子虜齋口義卷上(下) / (低七格) 虜(二格空) 齋(二格空)

林(三格空) 希逸」。

〔尾題〕「列子虜齋口義卷上(下)」。

〔本文〕每半葉九行×一九字。稍小型の活字を用いる。注低一格。

〔匡郭〕四周双边(二〇・三×一四・六糶)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「列子上(下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、一〇六丁(卷上)、第二冊、九五丁(卷下)、一〇丁・

二二三丁補写、二二三丁と二二三丁乱丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「弘前醫官澁／江氏蔵書記」(朱長方印、渋江抽斎、一八〇五)

五八、医師・考証家・書誌学者)、「島田翰／讀書記」(朱長方印、陰刻、島田翰、一八七九〜一九一五、漢学者・書誌学者)、「徳富／猪一郎／之章」(朱方印・大)、「成實堂／清玩記」(朱精円印)、「蘇峰／清賞」(朱方印、陰刻)

〔備考〕料紙の絨維が粗い。朱や藍で句読点、墨筆で返点、振仮名、送

仮名が施されている。第一冊の表紙と見返しに蘇峰の墨識語、

「慶長活字或曰朝鮮活字ナシ(朱書) 蘇峰珍襲／是書為慶長活字

板／大正五年八月十八日／珍本 蘇峯記」(表紙)、「是書渋江

抽齋曾儲明治三十六年／冬以大野洒竹紹介徒嶋田翰所購也／今

也大野病死嶋田縊死而是書独／存矣豈□感慨哉／大正丙辰八月

十八日曝書之隙／於觀瀾亭 蘇峯誌」(見返し)。帙題簽「古板

活字列子口義(共二／老龍庵珍蔵)」。川瀬、三九〇・八三三頁、

慶長元和中刊。

子部 一四 道家類

65、列子虜齋口義 二卷 (宋) 林希逸撰

〔請求番号〕善本書目・六三〇頁

〔体裁〕大本、二冊。

〔表紙〕写本反古紙を用いた改装表紙(茶色刷毛目文様)。二七・八×

一九・〇糶。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「列子虜齋口義 乾(坤)」と打付書(蘇峰筆)。

〔内題〕「列子虜齋口義卷上(下) / (低七格) 虜(二格空) 齋(二格空)

林（三格空）希逸。

〔尾題〕「列子膚齋口義卷上（下）」。

〔本文〕 每半葉九行×一九字。稍小型の活字を用いる。注低一格。

〔匡郭〕 四周双辺（二〇・四×一四・六糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「列子上（下） 丁附」。

〔丁数〕 第二冊、一〇六丁（卷上）、第二冊、九五丁（卷下）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「九／巖」（朱方印）、「鐵舟禪寺／貞山置之」（墨長方印）、「正圓藏書」（朱長方印）、「蘇峰／過眼」（朱方印）、「徳／富」（朱丸印）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。第一冊の表紙に蘇峰の墨識語、「荒 二冊物／是書慶長活字板□藏壹部□／老龍庵 大正丙辰八月念七／蘇峯誌」。川瀬、三九〇・八三三頁、慶長元和中刊。図録篇二三三図に本書の図版を収む。前掲書と同版。

子部 一四 道家類

66、列仙伝（漢）劉向撰

〔請求番号〕 善本書目・六四二頁

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 後補縹色表紙。二六・八×一八・三糎。四針袋綴。右肩に、蘇峰の筆で「徳川初期活字版 蘇峰珍藏／善本須愛護」と墨書。

〔題簽〕 無。左肩に「列仙伝 全」と打付書（蘇峰筆ではない）。

〔内題〕 「列仙伝目録」、「列仙伝卷上（四格空） 漢光祿大夫劉向撰」、「列仙伝卷下（三格空） 漢光祿大夫劉向撰」。

〔尾題〕 「列仙伝目録終」、「例仙伝卷上終」、「列仙伝終」。

〔本文〕 一〇行×二〇字。小型活字。

〔匡郭〕 四周双辺（目録、一八・〇×一二・三糎、卷上、一八・〇×一二・二糎）、有界。

〔版心〕 目録、九／三十、黒口（小）双花口魚尾（下部にはもう一つ、上向きの黒魚尾）、中縫、「列仙伝目録（列仙伝上・下） 丁附」、一／八、黒口（下黒口は横に線を引く程度）双花口魚尾、中縫、「列仙伝 丁附」。

〔丁数〕 三三丁（目録・一丁、卷上・一六丁、卷下・一五丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「駿府／寶泰寺／什本」（墨楕円印）、「徳富氏／珍藏記」（朱長方印、陰陽刻印）。

〔備考〕 無書入。前表紙見返しに、「明治四十四年七月念四／蘇峯字人」と墨書。川瀬、三八三・八二六頁、寛永中刊。

子部 一四 道家類

67、老子膚齋口義 二卷（宋）林希逸編

〔請求番号〕 善本書目・六二七頁

〔体裁〕 大本一冊。

〔表紙〕 後補茶色表紙。二六・七×一九・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。「蘇峰珍藏／古板活字／老子口義 単」と墨書。

〔内題〕 「老子虜齋口義發題／（低七格）虜（一格空）齋（一格空）林

（二格空）希逸」、「老子虜齋口義上（下）／（低七格）虜（二格

空）齋（一格空）林（二格空）希逸」（上は「希逸」を「逸希」

と誤る）。

〔尾題〕 「老子虜齋口義發題」、「老子虜齋口義上（下）」。

〔本文〕 八行×一八字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边（上、二二・七×一六・七糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「老子口義上（下）」。

〔丁数〕 九九丁（発題・三丁、上・四五丁、下・五二丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「松田／本生」（朱方印）、「島田翰／讀書記」（朱長方印、陰刻）、

「蘇峰學人／徳富氏愛／藏圖書記」（双、朱方印・大）、「徳富／

所有」（双、朱方印）、「蘇峰／清賞」（双、朱方印）、「天下之公

／寶須愛護」（朱長方印）、「徳富／護持」（双、朱方印）、「成／

寶堂／印」（朱方印）、「菅正／敬印」（朱方印、陰刻）、「蘇／峰

（朱方印）。

〔備考〕 朱・藍・墨で句読点、上欄に墨書入が施されている。帙題簽、

蘇峰筆。「活板老子口義 蘇峰珍藏」。川瀬、三九一・八三三頁、

（二）慶長中刊（口）。図録篇・二三八図に成寶堂文庫本の図版

を収む。

子部 一四 道家類

68、老子経 二卷 河上公注

〔請求番号〕 善本書目・六二七頁

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 後補の丹表紙。二七・八×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に後補の薄茶色書題簽（二〇・三×二・七糎）、「老子経

道（徳）」。

〔内題〕 「老子経序（十格空）葛洪」、「老子道経上（下）（六格空）河上

公章句」。

〔尾題〕 「老子道経上（下）」。

〔本文〕 七行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边（序、二〇・九×一五・一糎、上、二〇・八×

一五・〇糎）、有界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「老子経序（上・下）」。

〔丁数〕 第一冊、三四丁（序・四丁、上・三〇丁）、第二冊、三五丁

（下）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「大應寺」（墨長方印）、「小島氏／圖書記」（朱長方印、小島寶

素）、「素石／園記」（朱方印）、「于水／艸堂／之印」（朱方印、

陰刻）、「苔香／山房／之印」（朱方印、以上三印、木村素石）、

「洒竹文庫」（朱長方印、大野洒竹）。他、判読不明印、三印。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

第一冊の卷首に蘇峰の墨識語紙片を挟む。「経籍訪古志云、活字刊本寶素堂藏／首有葛洪序卷首題老子道経上河上公章句／次行題體道第一每半葉七行十七字注双行不記／梓行歳月卷首有大應寺印／蘇峯案此書乃是也 大正四年一月念五／（低四格）蘇峯五十三誕辰自記之」。帙題簽、「老子経（于水草堂珍藏／得菴題簽」。帙内に蘇峰の墨識語、「是経籍訪古志所謂寶／素堂藏儲活字本老子経也／後人須珍惜云尔／大正四年一月念五／蘇峯自記」。鉛筆書の購書メモあり。「4・1・18／16、二冊 村」（大正四年一月一八日、村口書房）。
川瀬、三九一・八三三頁、慶長中刊（イ）。図録篇・二三六図に成實堂文庫本の図版を収む。

集部 二 別集類（五）明

69、王文成公全書 四卷

〔請求番号〕善本書目・六四六頁

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二六・二×一五・九糎。康熙綴。

〔題簽〕左肩に新補の題簽（一八・〇×二・七糎）を貼付するが、無題。

〔内題〕「大学問卷之一」、「王文成公卷之二」、「陽明先生遺言逸事（四格空） 陳龍正／（低十五格）全輯」、「陽明先生弁証（六格空） 陳龍正／（低十四格）全輯」。

〔尾題〕無。

〔本文〕八行×一七字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺（二〇・五×一二・九糎）、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「卷之一（四） 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五〇丁（大学問卷之一）、第二冊、四〇丁（王文成公卷之二）、第三冊、四九丁（陽明先生遺言逸事・二四丁、陽明先生弁証・二五丁）。

〔刊記〕無。

〔印記〕「大谷氏／所藏記」（朱長方印）、「□氏／珍賞」（朱長方印）、「蘇峯學人／□經一讀」（朱長方印、陰刻）、「徳富氏／珍藏記」（朱長方印、陰・陽刻）、「青山／草堂」（朱長方印）、「徳富」（朱丸印、第二冊の卷末のみ）。

〔備考〕「大学問卷之一」の一七丁裏まで朱句読点が施されているのみ。

第一冊の卷末と第三冊の前表紙見返しに蘇峰の墨識語あり。「明治二二（四）十四年二月五日蘇峰再読訖／陽明家書上与諸葛誠子書下与曾文正諡子弟□□光矣」、「蘇峯六十三叟／蘇峯按是書朝鮮／活字本也觀其字形而／可知矣但未詳其刷行／於吾邦与朝鮮耳／大正十四年七月十二」。第三冊の後表紙見返しには、鉛筆書の購書メモあり。「41・6・3／文光2、50／三冊」（明治四一年六月三日、「文光」は「文行」、文行堂書店の誤記か）。帙題簽、「活字版王陽明雜集（共參／蘇峰珍藏）」（蘇峰筆）。
川瀬、八三九頁、「本書の活字は「陸象山全集」等と同じく料紙も唐紙を用ひてゐる点も相似してゐる。寛永頃の印行である」。

伝本、天理図書館・京都大学附属図書館蔵。

集部 二 別集類(二) 唐・五代

70、白氏文集 七十二卷目一卷(唐)白居易撰、那波道圓校刊

〔請求番号〕善本書目・六三四頁

〔体裁〕大本、三〇冊。

〔表紙〕後補丹表紙(押八双はあるが後補、見返し改装)。二七・六×

二〇・〇糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の薄縹色単辺枠書題簽(一六・六×三・二糶)、「白

氏文集 一之二(一六十九之七十一終)」。

〔内題〕「白氏長慶集序」(低二格) 浙東觀察使元(二格空) 稹(二格空)

字微之述、「白氏文集卷第一(一七十一)」、「龍門重修白樂天影

堂記」(低九格) 陶(一格空) 穀(二格空) 述、「(低二格) 白

氏文集後序」。

〔尾題〕「白氏文集卷第一(一七十一)」、「十終」、「卷尾」(卷第十四)、

「白集六十六」。

〔本文〕每半葉九行×一六字。大型活字。

〔匡郭〕四周双辺(卷第一、二二・五×一六・二糶)、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「白集序(一七十一・後序) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、七〇丁(序、長慶四年冬十二月十日微之序・八丁、卷

第一・三二丁、卷第二・三二丁)、第二冊、六三丁(卷第三・

二〇丁、卷第四・二二丁、卷第五・二二丁)、第三冊、六五丁

(卷第六・二三丁、卷第七・二二丁、卷第八・二二丁)、第四冊

六四丁(卷第九・一八丁、卷第十・二六丁、卷第十一・二〇

丁)、第五冊、五一丁(卷第十二・二六丁、卷第十三・二五丁)、

第六冊、五二丁(卷第十四・二四丁、卷第十五・二八丁)、第

七冊、五七丁(卷第十六・二八丁、卷第十七・二九丁)、第八

冊、四八丁(卷第十八・二二丁、卷第十九・二六丁)、第九

冊、四八丁(卷第二十・二五丁、卷第二十一・二三丁)、第一〇

冊、四九丁(卷第二十二・一三丁、卷第二十三・一七丁、卷

第二十四・一九丁)、第一一冊、五五丁(卷第二十五・一七

丁、卷第二十六・一八丁、卷第二十七・二〇丁)、第一二冊、

六五丁(卷第二十八・二三丁、卷第二十九・一六丁、卷第

三十・二六丁)、第一三冊、六三丁(卷第三十一・一九丁(一〇

丁表の七行目、上から二字目)一四丁表の八行目空行)、卷第

三十二・二二丁、卷第三十三・二二丁)、第一四冊、五三丁(卷

第三十四・二九丁、卷第三十五・二四丁)、第一五冊、四七

丁(卷第三十六・二二丁、卷第三十七・二五丁)、第一六冊、

六三丁(卷第三十八・二四丁、卷第三十九・三九丁)、第一七

冊、六〇丁(卷第四十・三九丁、卷第四十一・二二丁)、第一八

冊、五九丁(卷第四十二・二七丁、卷第四十三・一六丁、卷第

四十四・一六丁)、第一九冊、六五丁(卷第四十五・三三丁、卷

第四十六・三三丁)、第二〇冊、六三丁(卷第四十七・二九丁、

卷第四十八・三四丁)、第二一冊、五五丁(卷第四十九・二八丁、

卷第五十・二七丁)、第二三冊、五五丁(卷第五十一・二六丁、卷第五十二・二九丁)、第二三冊、五四丁(卷第五十三・二六丁、卷第五十四・二八丁)、第二四冊、五〇丁(卷第五十五・二四丁、卷第五十六・二六丁)、第二五冊、四八丁(卷第五十七・二四丁、卷第五十八・二四丁)、第二六冊、五四丁(卷第五十九・二九丁、卷第六十・二五丁)、第二七冊、五七丁(卷第六十一・三五丁、卷第六十二・二二丁)、第二八冊、六六丁(卷第六十三・二〇丁、卷第六十四・三〇丁)(一七丁目に卷第六十五の一六丁が入り、以下、卷第六十五の一七・一八・一九丁が続き、その後、卷第六十四の一七丁に戻る)、卷第六十五・一六丁)、第二九冊、七二丁(卷第六十六・二六丁、卷第六十七・二二丁、卷第六十八・二四丁)、第三〇冊、七四丁(卷第六十九・三二丁、卷第七十・一八丁、卷第七十一・一八丁、龍門重修白樂天影堂記・三丁、後序、戊午秋七月丁亥朔那波道圓書于洛中遠望臺・三丁、戊午〓元和四(二六一八)年)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「菅原/□□」(朱方印)、「成實堂/圖書記」(朱長方印)、「徳富氏」(双、長方印)、「蘇峯學人/曾經一讀」(朱長方印、陰刻)、「天下之公/寶須愛護」(朱長方印)、「讀書/□古」(朱長方印、陰刻)、「蘇峯/審定」(朱方印、陰刻)他。

〔備考〕第一・七・二七冊に、若干の朱書人があるのみ。虫損裏打修補。

集部 二 別集類(二) 唐・五代

71、白氏文集 存卷第一・二、二十七・三十、五十九・六十二、六十七・六十八、(唐)白居易撰・那波道圓校刊

〔請求番号〕善本書目・六三四頁

〔体裁〕大本、五冊。

〔表紙〕第一・三冊、後補水色空押卍繫ぎに雲に龍丸文様表紙。

二六・七×一九・一糶、四針袋綴。第一冊の表紙に蘇峯の筆で「澁江抽齋手沢/別藏二本併為五冊」(朱)、「零本三」(墨)。見返しに「共三冊/昭和二稔十月初一□古書展覽會/蘇峯學人」と墨書。第四・五冊、新補丹表紙。右下に「蘇峯秘笈」と墨書。第四冊の見返しに蘇峯の識語。「別藏冊表紙三十冊完全本又/藏雲烟家藏記捺印零本/是書那波道圓活字狩谷/市埜□社中澁江抽齋手沢/手校乃雖零冊須珍重也/昭和戊辰(三年)十月十五日/蘇峯六十六叟(墨書)/曾依澁江手沢本三冊今合為五冊未知/何日得完本乎 昭和戊辰(三年)十月念二(朱書)」。

〔題簽〕第一・三冊、無。左肩に「白氏文集一(一三)」と打付書。第

四・五冊、左肩に後補薄茶色双辺枠の書題簽(一九・〇×三・七糶)、「白氏文集(澁江全善/手沢書人)乾(坤)」(蘇峯筆)。

〔内題〕「白氏長慶集序(低二格) 浙東觀察使元(一格空) 稜(一格空) 字微之述」、「白氏文集卷第一(二、二十七・三十、五十九・六十二、六十七・六十八)」。

〔尾題〕「白氏文集卷第一(二、二十七・三十、五十九・六十二、

六十七・六十八)」。

〔本文〕 每半葉九行×一六字。大型活字。

〔匡郭〕 四周双边(卷第一、二・二・四×一六・二)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「白集序(一・二、二十七)三十、

五十九)六十二、六十七・六十八) 丁附)。

〔丁数〕 第一冊、一三三丁(序、長慶四年冬十二月十日微之序・八丁、

卷第一・三二丁、卷第二・三二丁)、第二冊、八五丁(卷第

二十七・二〇丁、卷第二十八・二三丁、卷第二十九・一六丁、

卷第三十・二六丁)、第三冊、四六丁(卷第六十七・二二丁、卷

第六十八・二四丁)、第四冊、五四丁(卷第五十九・二九丁、卷

第六十・二五丁)、第五冊、五七丁(卷第六十一・三五丁、卷第

六十二・二二丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「弘前醫官洪/江氏藏書記」(朱長方印)、「蘇峰/□書」(朱方

印)、「蘇/峯」(朱方印)、「蘇峰珍藏」(朱長方印)、「蘇峯學人

/曾經一讀」(朱長方印、陰刻)、「徳富/猪一郎」(朱方印、陰

刻)。

〔備考〕 第一冊の卷末に、「右一卷以無旧点而新加補之/壬子正月二十五

日/林学士田植執筆」と墨書のある紙片を貼付。第四冊の卷末

に、「菅本云/会昌四年夏五月二日写得勘了 惠夢/郷人発近不

能再勘之」と墨書。

第三冊の後表紙見返しと、第五冊の卷末に鉛筆書の購書メモあ

り。「10、文行堂/零本三/昭和2・12・1」(昭和二年二月

一日、文行堂書店)、「昭和3・10・11/10、0文行」(昭和三年

一〇月一日、文行堂書店)。

集部 二 別集類(二) 唐・五代

72、白氏文集 存卷四・五(唐) 白居易撰、那波道圓校刊

〔請求番号〕 善本書目・六三四頁

〔体裁〕 大本、一冊。

〔表紙〕 後補薄茶色空押麻の葉に蝶の文様表紙。二七・一×一九・二糎。

五針袋綴。右肩に「古活字珍本零冊/蘇峰秘笈」と墨書(蘇峰

筆)。

〔題簽〕 左肩に後補の双边刷粋書題簽(一八・七×三・九糎)、「白氏文

集 四之五」。

〔内題〕 「白氏文集卷第四(五)」。

〔尾題〕 「白氏文集卷第四(五)」。

〔本文〕 每半葉九行×一六字。大型活字。

〔匡郭〕 四周双边(卷第四、二二・五×一六・一糎)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「白集四(五) 丁附)。

〔丁数〕 四三丁(卷第四・二二丁、卷第五・二二丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「子孫永保/共三十六卷/雲煙家/藏書記」(藍長方印、安西雲

煙、一八〇七)一八五二)、「硯湖/秘笈」(朱方印、佐藤硯湖、

一八三二—一八九〇)、「蘇峰／學人」(朱方印)、「徳富／文庫」(朱方印)、「青山／艸堂」(朱長方印、陰刻)、「蘇峰／讀書／記印」(朱方印)。

〔備考〕

前表紙見返しと巻第五卷末に墨識語。「按是那波道圓聚珍板也距今凡／三百年矣／予ハ此書ノ分身トモ云フ可キモノヲ杭州丁氏書樓ニ於テ見タリ／然モ諸書ハ完備シタレハ分身ニアラサリシサラハ但タ表紙紙質／文体ノ相同シキノミナラス別記子孫永保ノ印サヘ捺シテアリシハ不ノ思議ト云フ可キ也 明治四十年四月念七 蘇峰学人」。「明治三十九年七月於杭州丁氏八千卷書／樓見道円活字本長慶集矣表裝紙／質□相背加之卷頭有雲烟家藏書記印予／竊以此冊子為丁氏儲藏之逸冊焉然丁氏長慶／集全部完備無更補収之要矣未知此冊子／何□求其同群乎□且記徵異日之奇遇也／明治四十年四月念七日／蘇峰学人／明治三十八年八月初一日／自零本而察全卷亦不為難矣／典型標式歴々可徵也若為可以一斑知全豹乃／予有零本僻焉蓋零本価廉而易購也而其」。前表紙見返しには鉛筆書の購書メモあり。「38・5・25、一冊琳25、」(明治三十八年五月二五日、琳琅閣書店)。

集部 二 別集類 (二) 唐・五代

73、新板増広附音釈文胡曾詩註 (宋) 胡元質註

〔請求番号〕 善本書目・六三八頁

〔体裁〕 大本三冊。

〔表紙〕 後補薄茶色刷毛目文様表紙。二八・八×二〇・七糎。四針袋綴。

蘇峰の墨識語、「大正戊午十一月十七日於丹波法常寺／感得一絲和尚手沢／蘇峯学人／活字本」(外題と同筆)。

〔題簽〕 無。左肩に、蘇峰の筆で「胡曾詩註 上(中・下止)」と墨書。

〔内題〕 「新板増広附音釈文胡曾詩註卷上／(低一格) 詠史詩(一格空) 廬(一格空) 陵(一格空) 胡(一格空) 元質(一格空) 註」(大字)。「新板増広附音釈文胡曾詩註卷中(下)」(大字)。

〔尾題〕 「新板増広附音釈文胡曾詩註卷上(中・下) 終」(小字)。

〔本文〕 一四行×二〇字。

〔匡郭〕 四周双辺(二二・二×一六・三糎)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「胡曾卷上(中・下) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、二二丁(卷上)、第二冊、二三丁(卷中)、第三冊、二三丁(卷下)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「式／絲」(朱印、一絲和尚)、「徳富氏／圖書記」(朱長方印)。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名の他、朱墨による書人が多数あり。中巻と下巻の巻末に墨識語あり。「丹州法常禪寺常住／二冊」、「丹州法常禪寺常住／壹部二冊」。川瀬、三九三・八三六頁、(一) 元和寛永中刊。「補注蒙求(十三行本) 同種活字」。

集部 二 別集類 (二) 唐・五代

74、五百家註音弁昌黎先生文集 存卷二〜四十 (第一冊、明刊黒口本補

配、卷二は重複) (唐) 韓愈撰

〔請求番号〕 善本書目・六三八頁

〔体裁〕 大本、一六冊。

〔表紙〕 後補栗皮表紙。二七・六×二〇・三種 (第一冊)、二七・七×

二〇・三種 (第二冊)。四針袋綴。第三冊、前・第五冊、前・第

六冊、後・第七冊、前後・第九冊、後・第一〇冊、前・第一一

冊、後・第一二冊、後・第一三冊、後・第一四冊、前・第一六

冊、前の茶色表紙は原表紙か。

〔題簽〕 無。左肩に、「活字韓集／首卷明黒口本」(第一冊)、「活字韓集

首壹」(第二冊)、「昌黎先生文集 二」(三冊)と打付書。以下

の冊、無題。

〔内題〕 「新刊五百家註音弁昌黎先生文集卷第二(七・九〜十二)」、「五百

家註音弁昌黎先生文集卷第三(四〜六・八・十二〜四十)」。

〔尾題〕 「五百家註音弁昌黎先生文集卷第二(十四・十九・二十・三十五・

三十七・四十)」、「新刊五百家註音弁昌黎先生文集卷第九(〜

十一)」、「昌黎先生文集卷第三」、「韓文第四(二十五・三十三)」、

「昌黎文集卷第五」、「昌黎文集第二十三(二十四)」、「五百家註

昌黎先生文集第七」、「新刊五百家註昌黎先生聯句集卷第八」、

「昌黎先生文集第十二(十五)」、「五百家韓文第十三」、「五百家

註昌黎文集卷第十六」、「韓文集卷十七」、「五百家註韓文第十八

(二十七・三十六・三十八・三十九)」、「五百家註(注)昌黎文
集卷第二十一(二十二)」、「昌黎先生集第二十六」、「五百家註韓
文集第三十(三十一・三十二・三十四)」。

〔本文〕 每半葉九行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双边(卷第二、二二・八×一六・五種)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「韓文二(一四十) 丁附」。

〔丁数〕 第二冊、五五丁(卷第二)、第三冊、五五丁(卷第二、第二冊

と同版)、第四冊、七二丁(卷第三・三〇丁、卷第四・四二

丁)、第五冊、八四丁(卷第五・五九丁、卷第六・二五丁(二六

丁欠)、第六冊、八八丁(卷第七・三一丁、卷第八・五七

丁)、第七冊、七二丁(卷第九・三三丁、卷第十・三八丁)、第

八冊、八四丁(卷第十一・二八丁、卷第十二・二五丁、卷第

十三・三二丁)、第九冊、六〇丁(卷第十四・四四丁(四〇丁

欠)、卷第十五・一六丁)、第一〇冊、七五丁(卷第十六・三〇

丁、卷第十七・二三丁、卷第十八・二三丁)、第一一冊、七九丁

(卷第十九・二六丁、卷第二十・二二丁、卷第二十一・三二丁)、

第一二冊、六五丁(卷第二十二・二二丁、卷第二十三・二六丁、

卷第二十四・一八丁)、第一三冊、八〇丁(卷第二十五・二二丁、

卷第二十六・二二丁、卷第二十七・一九丁、卷第二十八・一七

丁)、第一四冊、九二丁(卷第二十九・一五丁、卷第三十・二九

丁、卷第三十一・二五丁、卷第三十二・二三丁)、第一五冊、

五四丁(卷第三十三・一八丁、卷第三十四・一六丁、卷第

三十五・七丁、卷第三十六・一三丁）、第一六冊、八七丁（卷第三十七・二四丁、卷第三十八・一四丁、卷第三十九・二六丁、卷第四十・二三丁（二四丁欠））。

〔刊記〕無。

〔印記〕「青山／艸堂」（朱方印、陰刻）、「蘇／峰」（朱方印、以上、第二冊、他、判読不明の二印）、「徳富氏／珎藏記」（朱長方印、陰陽刻、第三冊（一六冊））、「蘇峰／審定」（朱方印、第九・一一冊）。

〔備考〕朱引、朱句読点（第二・三冊）、朱丸（句読点）、墨筆で返点、振仮名、送仮名（第四～七冊）が施されている。

第一冊、明刊黒口本補配。後補栗皮表紙（二七・六×二〇・三糎）、晦菴朱文公韓文考異序・五丁、昌黎先生集諸家姓氏・一丁、朱文公校昌黎先生集序・五丁、朱文公校昌黎先生集凡例・三丁、朱文公校昌黎先生集目錄／（低八格）李（二格空）漢（二格空）編（一格空）集・二九丁、朱文公校昌黎先生文集卷之一（低一格）晦庵朱先生考異（二格空）留畊王先生音釈・四〇丁、四周双辺、有界。九行×一八字（巻首序のみ六行×一二字）。江州龍澹寺旧蔵。

第一冊の表紙に「共十六／本来十四冊今補以明黒口本及／別儲活字本二冊為完部／十六冊 主蘇峯字人／活字韓集／首卷明黒口本」と朱書、第一冊の遊紙表丁に墨書した識語紙片を貼付する。「朱文公校昌黎先生文集八冊／明治四十五年一月十七日訪春和堂書肆攤書縦佚不見／適意之珍書也偶於片隅架下獲此冊子

一見／做異常之看不拘于零本□還焉／丁氏善本書室為書志 卷二十四 二十七葉日／此每半葉九行々十八字書雖明翻實猶具宋時／典型云々／第二冊自卷三至卷七欠第八冊自卷二十六至卷三十三欠／明治四十五年一月念一日／蘇峰日記／印、蘇峯用箋。遊紙裏丁には朱識語。「是書第一卷明黒口本明治四十五年一月十七日京都／若林ニテ求ムル零本八冊中ノ一冊也第二卷ハ明治／四十一年六月一日下谷文行堂ニテ零本四冊中ノ一／冊也三卷以下ハ大正二年二月二十四日琳琅閣ニテ／求メタルモノ也三者合併茲ニ全部完成ス書籍／整理ノ困難此ノ如シ従人愛惜シテ何也／大正二十一月念 猪記」。第二冊の前表紙見返しには、「此書明治四十一年六月一日於下谷文行堂求焉今按其活版不降慶長元和但憾為零本也／然自卷二到卷八韓公詩云中中之八在於／此中乃作韓公古詩集之看亦可矣／予別蓄本集第十六十八卷焉明治卅七年／七月二十二日於池端琳琅閣獲之今併藏之／他日焉知不為完璧哉／明治四十一年六月十七日／蘇峰字人」と墨書。第二冊の後表紙見返しに、鉛筆書購書メモ。「四冊2、／41・6・1 文行／他二一冊／五冊」（明治四一年六月一日、文行堂書店）。第三冊の表紙に、「是書徳川氏初代活字本也其／裱背悉皆存當時之面目焉憾／缺首卷／大正二年十一月念／全部完備／計十六冊／十四冊欠首卷／昌黎先生文集 二／蘇峯珎藏」と朱書。川瀬、三九二・八三五頁、元和寛永中刊。図録篇二四〇図に成篁堂文庫本（本書）の図版を収む。

集部 二 別集類(二) 唐・五代

75、五百家註音弁昌黎先生文集 存卷三、八、十六、十八、二十九、

三十二(唐) 韓愈撰

〔請求番号〕 善本書目・六三八頁

〔体裁〕 大本、五冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二八・三〇・一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に、双辺刷粋書題簽(二〇・五×三・七糎)、「韓文公文集

策三策(、策十三策)。

〔内題〕 「五百家註音弁昌黎先生文集卷第三(、六・八・十六・十八・

二十九、三十二)」、「新刊五百家註音弁昌黎先生文集卷第七」。

〔尾題〕 「昌黎先生文集卷第三」、「韓文第四」、「昌黎文集卷第五」、「昌

黎文集第六」、「五百家註昌黎先生文集第七」、「新刊五百家註

昌黎先生聯句集卷第八」、「五百家註昌黎文集卷第十六」、「五百

家註韓文第十八」、「韓文第二十九」、「五百家註韓文卷第三十

(三十一・三十二)。

〔本文〕 每半葉九行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(卷第三、二一・六×一六・五糎)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「韓文三(、八・十六・十八・二十九、

三十二) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、七二丁(卷第三・三〇丁、卷第四・四二丁)、第二

冊、八五丁(卷第五・五九丁、卷第六・二六丁)、第三冊、八八

丁(卷第七・三一丁、卷第八・五七丁)、第四冊、五三丁(卷

第十六・三〇丁、卷第十七・二二丁) 第五冊、九一丁(卷第

二十九・一五丁、卷第三十・二九丁、卷第三十一・二六丁(一六

丁重複)、卷第三十二・二二丁(二〇・二二丁欠)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「蘇／峰」(朱、菱形に丸印、陰刻、第一冊・第二冊)、「青山／

草堂」(朱長方印、第一冊)、「蘇峯／愛讀」(朱長方印、陰刻、

第一冊・第三冊)、「成簣堂／圖書記」(朱長方印、第一冊・第二

冊)、「青山／艸堂」(朱方印、陰刻、第三冊)、「徳富氏／珎藏記」

(朱長方印、陰陽刻、第三冊)、「徳」(朱方印、第四冊表紙)、「徳

富／所有」(双、朱方印、第四冊)、「青山／艸堂」(朱方印、陰

刻、第四冊。第三冊とは別種)、「蘇峰／讀書／記印」(朱方印、

第四冊)。第五冊、藏書印なし。

〔備考〕

朱句読点、朱訂正が若干施されているのみ。第一冊、前表紙見

返しに、鉛筆書購書メモあり。「四十一年六月一日 2、／文行

堂 2、3、4、5 四冊／内二ノ卷は／他ノ活字本ニ／補入ス」

(明治四一年六月一日、文行堂書店)、第四冊の表紙に「活字零

本 蘇峰珎襲」(墨書、蘇峰筆)、後表紙見返しに鉛筆書購書メ

モ「38・7・22／琳／50」(明治三八年七月二二日、琳琅閣書

店)、第五冊の前表紙見返しに「明治四十二年十月初三 蘇峰学

人／予既得四冊矣今獲加一冊他日他日完璧未可／知也」(墨書、

蘇峰筆)、さらに鉛筆書購書メモ「50／四十二年十月二日／文行堂」

(明治四二年十月二日、文行堂書店)あり。帙題簽、「活字韓文

公文集（零本共五／蘇峰珍藏）（蘇峰筆）。

川瀨、三九二・八三五頁、元和寛永中刊。

集部 二 別集類（三） 宋

76、東坡先生詩 二五卷 蘇軾撰・劉辰翁評、東坡紀年錄（宋） 伝藻

編

〔請求番号〕 善本書目・六二八頁

〔体裁〕 大本二五冊。

〔表紙〕 原裝栗皮表紙。二七・六×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。

〔内題〕 「東坡紀年錄／（低六格） 僊溪伝（一格空） 藻（一格空） 編纂」、

「增刊校正百家註東坡先生詩序／（低四格） 状元王公（一格空）

十册（一格空） 龜齡撰」、 「增刊校正王状元集註分類東坡先生詩

姓氏／（低二格） 状元王公（一格空） 十册（一格空） 龜齡（一

格空） 纂集」、 「增刊校正王状元集註分類東坡先生詩卷之一（

卷二十五）／（低二格） 宋礼部尚書端明殿學士兼侍讀學士贈太

師諡文忠公蘇軾／（低八格） 廬陵須溪劉辰翁批点。

〔尾題〕 「東坡紀年錄」、 「增刊校正王状元集註分類東坡先生詩姓氏」、

「增刊校正王状元集註分類東坡先生詩卷之一（十一・十三）

二十四」、 「東坡先生詩卷之十二（二十五）」。

〔本文〕 每半葉九行×一五字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（序、二一・六×一六・六糎、卷之一、二一・六×

一六・七糎）、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾一体型、中縫、「坡詩序（一）二十五」 丁附」、

東坡紀年錄、黒口双花口魚尾、中縫、「坡紀年 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、三三丁（東坡紀年錄） 第二冊、六七丁（序・五丁、姓

氏・四丁、卷之一・五八丁）、 第三冊、四四丁（卷之二）、 第

四冊、五五丁（卷之三）、 第五冊、五九丁（卷之四）、 第六冊、

五三丁（卷之五）、 第七冊、四四丁（卷之六）、 第八冊、六七丁

（卷之七）、 第九冊、五九丁（卷之八）、 第一〇冊、五一丁（卷

之九）、 第一一冊、五二丁（卷之十、尾題「卷十之」、「之」を

切取）、 第一二冊、六〇丁（卷之十一）、 第一三冊、五三丁（卷

十二）、 第一四冊、五三丁（卷之十三）、 第一五冊、四二丁（卷

之十四）、 第一六冊、四四丁（卷之十五）、 第一七冊、五八丁

（卷之十六）、 第一八冊、六三丁（卷之十七）、 第一九冊、七二丁

（卷之十八）、 第二〇冊、九九丁（卷之十九）、 第二一冊、五六丁

（卷之二十）、 第二二冊、六一丁（卷之二十一）、 第二三冊、六一

丁（卷之二十二）、 第二四冊、六二丁（卷之二十三）、 第二五冊、

七五丁（卷之二十四）、 第二六冊、五七丁（卷之二十五、六・七

丁乱丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「青蓮／王府」（朱方印・大、青蓮院門跡）、「徳富／猪式郎／之

章」（朱方印・大）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「蘇峰文庫」

（朱長方印）。

〔備考〕 第一冊（東坡紀年録）の前表紙見返しに鉛筆書購書メモ

「26 37・5・11/3、50琳」（明治三十七年五月一日、琳

琅閣書店）あり。卷末には、「予曾藏明曆版之東坡集矣今対照与

此書ノ字様行間頗酷肖焉但此活字而無訓点彼ノ木版而有訓点而

已耳乃知此書之慶長前ノ后之活字版併為明曆版之原本也ノ明治

三十七年五月十一日 蘇峰学人誌」と墨書。第一三冊（卷十二

の卷末に、「蘇峰珍襲」と墨書。第一五冊（卷之十四）の卷首に、

「東坡詩集十四 明治戊申（四十一年）一月念六ノ開卷閑説淇水

老人」（淇水ニ蘇峰の父、一敬）と墨書のある紙片を挟む。第

一九冊（卷之十八）の卷末に、「蘇峰学人読ノ明治三十七年五月

十五日」と墨書、第二四冊（卷之二十三）の卷末に、「蘇峰学人

珍籠」と墨書。桐函入り。箱の蓋には「慶長ノ東坡詩集ノ活字

（表）」慶長活字東坡集二十六冊ノ明治卅七年五月十一ノ所購于

琳琅閣也是書ノ京都青蓮院官府ノ所儲允可珍惜云尔ノ大正五年

八月念一於湘ノ南観瀾亭 蘇峯誌」（裏）。

川瀬・三九三・八三六頁、慶長中刊。「宋刊本（建安虞氏務本書

堂刊）に基ける朝鮮刊本の纈印なる可し」。

集部 三 総集類（二） 通代

77、文選 存卷第四十五―五十二（梁）蕭統撰

〔請求番号〕 善本書目・六一七頁

〔体裁〕 特大本、四冊。

〔表紙〕 茶色表紙（押八双有）。三〇・五×二二・二種。五針袋綴。薄紫

色覆表紙附。

〔題簽〕 左肩に後補の書題簽（一九・八×三・八種）、「文選（自四十五

ノ至四十六）」（自五十一ノ至五十二）。題簽下部に「元ノ

瑞」（朱方印）。

〔内題〕 「文選卷第四十五（五十二）ノ（低四格） 梁昭明太子撰ノ（低

五格） 五臣并李善注」。

〔尾題〕 「文選卷第四十五（五十二）」。

〔本文〕 每半葉一〇行×二二字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（二四・八×一六・五種）、有界。

〔版心〕 上中下黒口、上下に双花口魚尾、中縫、「文選四十五（

五十二）」、「丁附」。

〔丁数〕 第一冊、八二丁（卷第四十五・四二丁、卷第四十六・四二丁）、

第二冊、八〇丁（卷第四十七・四九丁、卷第四十八・三二丁）、

第三冊、五七丁（卷第四十九・三二丁、卷第五十・二六丁）、第

四冊、四七丁（卷第五十一・二三丁、卷第五十二・二四丁）。

〔印記〕 「田安ノ府芸台印」（朱方印）、「猷英樓ノ圖書記」（朱長方印、以

上二印、田安德川家）、「燈瑞ノ之印」（朱方印、陰刻）、「僧□ノ

萬源」（朱方印）、「彫□書屋ノ藏之印」（朱長方印）、「蘇ノ峰

（朱方印）。

〔備考〕 朱引、朱句説点、墨筆で返点、振仮名、送仮名、上欄にも書入

有。慶長十二年刊・直江版。

集部 三 総集類 (二) 通代

78、文選 六十卷 目一卷 (梁) 蕭統撰

〔請求番号〕善本書目・六四一頁

〔体裁〕大本、三一冊。

〔表紙〕後補薄縹色表紙。二八・一×二〇・八糶。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に後補の書題簽(第四冊、一九・四×四・一糶)、「文選六

臣注 三(三十一尾)」。第一・二・一五冊の題簽剥落。表紙に目錄題を墨書。

〔内題〕「增補六臣註文選目錄／(低五格) 梁昭明太子蕭(二格空) 統

(一格空) 撰／(低五格) 唐(李善(一格空) 呂延濟(一格空)

劉良／張銑(二格空) 李周翰(一格空) 呂向(一格空) 註／

(低六格) 茶陵前進士陳仁子校補」、「文選序／(低五格) 梁昭

明太子撰(銑曰梁姓肅氏梁典云武帝／子名統字德施諡曰昭明)」、

「文選卷第一(六十)／(低八格) 梁昭明太子撰／(低十格) 五臣并李善注」。

〔尾題〕「六臣註文選目錄(一格空) 終」、「文選卷第一(六十)(二格空) 終」。

〔本文〕每半葉一〇行×二三字。注小字双行。

〔匡郭〕四周单边(目錄、二三・〇×一六・六糶、卷第一、一二・七×

一六・四糶)、無界(目錄は有界)。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「文選卷一(六十) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、三三丁(目錄)、第二冊、八六丁(李善上文選注表……

顯慶三年九月十七日翰林郎守太子右内率府録事・一丁、參軍崇

賢館直学士臣李善上表／進集注文選表(七格空) 五臣……開元

六年九月十日工部侍郎臣呂延祚上表・二丁、文選序・五丁、卷

第一・四一丁、卷第二・三七丁)、第三冊、七七丁(卷第三・

四三丁、卷第四・三四丁)、第四冊、七九丁(卷第五・三七丁、

卷第六・四二丁)、第五冊、六四丁(卷第七・三二丁、卷第八・

三三丁)、第六冊、六六丁(卷第九・二八丁、卷第十・三八丁)、

第七冊、七六丁(卷第十一・四七丁、卷第十二・二九丁)、第

八冊、六一丁(卷第十三・三四丁、卷第十四・二七丁)、第九

冊、六七丁(卷第十五・二七丁、卷第十六・四〇丁)、第一〇

冊、七一丁(卷第十七・三一丁、卷第十八・四〇丁)、第一一

冊、七九丁(卷第十九・三三丁、卷第二十・四六丁)、第一二冊、

六七丁(卷第二十一・三五丁、卷第二十二・三三丁)、第一三

冊、八二丁(卷第二十三・四三丁、卷第二十四・三九丁)、第

一四冊、七九丁(卷第二十五・三七丁、卷第二十六・四二丁)、

第一五冊、七二丁(卷第二十七・三三丁、卷第二十八・三九丁)、

第一六冊、九〇丁(卷第二十九・四三丁、卷第三十・四七丁)、

第一七冊、七二丁(卷第三十一・四〇丁、卷第三十二・三二丁)、

第一八冊、六二丁(卷第三十三・三〇丁、卷第三十四・三二丁)、

第一九冊、六五丁(卷第三十五・三七丁、卷第三十六・二八丁)、

第二〇冊、七三丁(卷第三十七・三八丁、卷第三十八・三五丁)、

第二一冊、六九丁(卷第三十九・三三丁、卷第四十・三七丁)、

第二二冊、七八丁（卷第四十一・四二丁、卷第四十二・三六丁）、第二三冊、七五丁（卷第四十三・三九丁、卷第四十四・三六丁）、第二四冊、八一丁（卷第四十五・四〇丁（丁附二十四と二十五の間に「又二十四」として一丁の補写を挟む。国会図書館本にも本文に少異があるが、同様に補写を挟む。これは伝本共通の欠丁を補うものである。直江版には「又二十四」に相当する丁がある。但し丁附は「二十四」とあり、丁附が「二十四」とある丁が二丁続くことになる）、卷第四十六・四一丁）、第二五冊、八〇丁（卷第四十七・四九丁、卷第四十八・三二丁）、第二六冊、五七丁（卷第四十九・三一丁、卷第五十・二六丁）、第二七冊、四七丁（卷第五十一・二三丁、卷第五十二・二四丁）、第二八冊、七〇丁（卷第五十三・四〇丁、卷第五十四・三〇丁（二八丁裏の八行目、「鳳鳥不至言命也」の下に、「〇三十一字脱注上」と朱書。上欄に「今以片言辯其要趣何異乎夕死之類而論春秋之變哉、且荆昭德音、丹雲不卷、」と朱書。但し、この一文、直江版も欠く）、第二九冊、七七丁（卷第五十五・三六丁、卷第五十六・四一丁）、第三〇冊、七一丁（卷第五十七・三五丁、卷第五十八・三六丁）、第三一冊、七八丁（卷第五十九・四一丁、卷第六十・三七丁）。

〔刊記〕 卷第六十尾題の後に慶長十二年刊・直江版の原刊記、「（低一格）右文選板歳久漫殆甚紹興二十八年冬十月／（低二格）直閣趙公來鎮是邦下車之初以儒雅飾吏事首加／（低二格）修正字畫為之

一新俾學者開卷免魯魚三家之訛／（低二格）且欲垂斯文於無窮云右迪功郎明州司法參軍兼／（低二格）監蘆欽謹書／（二行空）／（低一格）慶長丁未沽洗上旬八莫（四格空）板行畢、その後に「（低一格）寛永二乙丑孟夏上旬日（四格空）板行畢」。

〔印記〕 「山田藏書」（朱長方印、山田以文）、「讀杜／艸堂」（朱方印、寺田望南）、「齋部／親成」（讀杜／艸堂）の印の上に切取貼付）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「蘇峰文庫」（朱長方印）、「徳富／猪式郎／之章」（朱方印・大）。

〔備考〕 朱引、朱句説点、墨筆（一部朱）で返点、振仮名、送仮名、朱墨による書入等が施されている。第二冊の見返しに山田以文の識語あり。「文政二年七月十五日以式部大輔菅原長親卿校本／校写訖 阿波介藤原以文」。さらに巻末には、以下の識語を移写する。「嘉元三年九月一日以菅家秘説授申越州大守而已從三位行刑部卿兼式部大輔菅原朝臣在輔／嘉元三年閏十二月十五日以刑部卿兼式部大輔菅原在輔之本校合畢（一格空）從五位上行越後守平朝臣貞顕／本奥云安貞元年十月十日以家之証本移点畢（一格空）文章生菅原在公（一格空）同廿三日重移点畢菅判／寛喜二年二月一日奉嚴親之御説畢奥書在秘本而已（一格空）筑前掾菅原在公／秘本奥書云／応和三年六月八日書写訖（一格空）同廿七日加點訖（一格空）文章生資忠／寛和元年十一月七日以家説奉授^{三條院}親王而已（一格空）右中弁菅資忠／説畢（三格空）菅在御判^{大輔殿}（二格空）加首書畢（一格空）御判^同／康和元年十月

六日説訖（一格空）加州掾菅清能／永久五年六月十八日以此書

奉授（一格空）聖主而已式部大輔菅在良／奉受嚴說畢（三格空）

文章生菅在行改輔以家説授在登了国子祭酒在輔／以菅家秘説授

申九條三品羽林而已（一格空）式部権蒲菅在輔／以家秘説授申

右大将軍訖（二格空）翰林主人菅在輔／正安二年九月八日以家

秘説奉授（一格空）皇太子而已（一格空）学士菅在輔／以家秘

説授男在雄訖（四格空）三品右京兆菅在輔／嘉元四年正月十二

日以式部大輔在輔卿注文選重校合畢彼本以当卷上下而已／越後

守平判／金澤文庫。

慶長十二（一六〇七）年、直江兼続が京都の要法寺の活字で印

刷させた、いわゆる直江版文選の翻印本。寛永二年刊。

集部 三 総集類（二）通代

79、文選 存目録（梁）蕭統撰

〔請求番号〕善本書目・六四一頁

〔体裁〕大本、一冊。

〔表紙〕後補水色表紙。三一・七×二一・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕無。右肩に「文選目録 単」と墨書（蘇峰筆）。

〔内題〕「増補六臣註文選目録／（低五格）梁昭明太子蕭（二格空）統

（一格空）撰／（低五格）唐（李善（一格空）呂延濟（一格空）

劉良／張銑（一格空）李周翰（一格空）呂向（一格空）註／

（低六格）茶陵前進士陳仁子校補。」

〔尾題〕「六臣註文選目録（一格空）終」。

〔本文〕每半葉一〇行。

〔匡郭〕四周单边（目録、二三・〇×一六・四糎）、有界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「文選目録 丁附」。

〔丁数〕三三丁。

〔刊記〕無。

〔印記〕「蘇／峯」（朱印）、「蘇峰學人／京城所獲」（朱長方印）。

〔備考〕無書入。表紙と前表紙見返しに、蘇峰による識語あり。「大正丙

辰（五年）三月旬四／是書直江山城守所刊行所謂慶／長活板零

本也於京城獲之／遇寔奇也哉 於臥雲台／蘇峯□人」、「一冊ハ

字佐美／□太□ニオクル5・3・2（大正五年三月二日）／一

冊ハ浅見氏（浅見倫太郎か）ニオクル6・4・14（大正六年四

月一四日）。後見返しには鉛筆書の購書メモあり。「金4・10・

18共三」（大正四年一〇月一八日）。

有界本であることから、蘇峰は本書を直江版と考えた（是書直

江山城守所刊行所謂慶長活板零本也）が、寛永二年刊本（寛永

二年刊本は目録だけ有界）。

集部 三 総集類（二）通代

80、魁本大字諸儒箋解古文真宝前集（元）黄堅撰

〔請求番号〕善本書目・六三七頁

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二六・三×一九・六糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「古文真宝前集 上」、「古文前集 中(下)」と打付書。第一冊の右肩に「古板活字 三冊／珍本(印、善本)」と朱書(蘇峰筆)。

〔内題〕 「諸儒註解古文真宝前集目錄」、「魁本大字諸儒箋解古文真宝卷之一(一十)前集(陰刻)」。

〔尾題〕 「諸儒註解古文真宝前集目錄畢」、「魁本大字諸儒箋解古文真宝卷之一(一十)前集」。

〔本文〕 九行×一七字。注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(目錄、二二・七×一六・八糎)、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「古文目錄(前一十) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四九丁(目錄・五丁、卷之一・一六丁、卷之二・一一

丁、卷之三・一七丁)、第二冊、四二丁(卷之四・八丁、卷之

五・一二丁、卷之六・八丁、卷之七・一四丁)、第三冊、四八丁

(卷之八・二二丁、卷之九・一七丁、卷之十・一〇丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「徳富／猪二／郎印」(朱方印、陰刻)、「徳富文庫」(双、朱長方印)、「須愛護／蘇峰／囁」(朱印)、「善本」(双、朱長方印)、「蘇／峰」(朱方印)、「蘇峰／清賞」(朱方印、陰刻)「自彊不息」(朱長方印)。他一印。

〔備考〕 朱引、朱句読点、卷之一のみ、巻首七丁まで朱筆で返点、送仮名の他、若干の朱墨書入あり。第一冊の前表紙の見返しに、鉛

筆書購書メモあり。「38・3・26／1、50三冊 琳」(明治三八年三月二六日、琳琅閣書店)。帙題簽、「古板活字古文前集共三蘇峰珍蔵」(蘇峰筆)。川瀬、三九五・八三八頁、元和中刊本。図録篇二五四図に成簀堂文庫本の図版を収む。

集部 三 総集類(二) 通代

81、魁本大字諸儒箋解古文真宝後集 存卷之五(一十) 黄堅撰

〔請求番号〕 善本書目・六二八頁

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 後補灰色表紙。二七・〇×二〇・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に「古文真宝後集 松函(朱)」(「松函」の上から

「五六七八／五門」と墨上書)。

〔内題〕 「魁本大字諸儒箋解古文真宝卷之五(一十) (一格空) 後集」。

〔尾題〕 「魁本大字諸儒箋解古文真宝卷之五(一十) 後集」。

〔本文〕 八行×一八字。大型活字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺(卷之五、二二・八×一六・九糎)、有界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「古文后五(一十) 丁附」。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「蘇峰學人／徳富氏愛／蔵圖書記」(双、朱方印)、「成／簀堂／印」(朱印)、「天下之公／寶須愛護」(朱長方印)。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆による返点、振仮名、送仮名の他、朱墨による書入あり。第一冊と第二冊の後表紙見返しに「帰源書蔵」、

第二冊の前表紙見返しに「帰源院藏庫」、第二冊の巻末裏丁のノ下に「雲如和尚上」と墨書。天部化粧裁ち。

川瀬、三九五頁、(四)慶長元和中刊。

準漢籍 一 経部

82、大学章句抄

〔請求番号〕善本書目・六三六頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕後補薄茶色表紙。二八・六×一九・一糎。四針袋綴。右下に「活字本 蘇峰学人／珍書可愛惜(印、極)」と墨書。

〔題簽〕左肩に、後補の双辺刷柘書題簽(二八・二×三・九糎)、「大学抄 全」。

〔内題〕「大学章句序」。

〔尾題〕「大学章句抄終」。

〔本文〕一二行×二三〜二五字(不等)。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺(二三・〇×一六・五糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「大学抄 丁附」。

〔丁数〕四六丁

〔刊記〕無。

〔印記〕「久／田氏」(朱方印)、「Tokutomi」(朱丸印)、「蘇峰／清賞」(双、朱方印)、「青山艸堂」(朱楯田印、陰刻)。

〔備考〕朱引、朱句読点の他、朱墨による書入あり。前表紙の見返しに、

鉛筆書の購書メモ「41・1・5／□□1」(明治四一年一月五日、書店名判読不明)。

川瀬、三六五・八〇六頁、(一)双辺十二行本、元和中刊。伝本

他に東北大学附属図書館蔵本。

準漢籍 一 経部

83、大学章句抄

〔請求番号〕善本書目・六四〇頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)栗皮表紙。二七・七×一九・七糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に、「大学私鈔 全」と打付書。

〔内題〕「大学章句序」。

〔尾題〕「大学章句抄終」。

〔本文〕一二行。一行字数不等。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺(二二・八×一六・九糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「大学抄 丁附」。

〔丁数〕四六丁

〔刊記〕無。

〔印記〕「蘇峰学人／徳富氏愛／藏圖書記」(朱方印)、「Tokutomi」(朱丸印)、「成／簀堂／印」(朱印)、「成簀堂」(双、朱長方印)、「蘇峰／讀書／記印」(朱方印)、「志／在天下」(朱印)、「式岸皆□

樹／溪流徹底清／秋魚眠不覺／風葉落□□」(朱方印)、他一印。

〔備考〕無書入。後表紙見返しに、「空性惠覺」、「榛沢寺中之院」と墨書、

鉛筆書の購書メモ「38・12・5/鹿2、50/三冊」(明治三八年

一二月五日、鹿田松雲堂、三冊とは中庸章句抄二冊と合わせた
数を言う)。後表紙裏には『脈訣』(古活字版、双边無界、一

行×一九字、脈訣末、三五丁裏・五〇一行)と『韻鏡』(整版、
双边有界、一〇行×二〇字、序、六丁)の刷り反古あり。

準漢籍 一 経部

84、中庸章句抄

〔請求番号〕善本書目・六四〇頁

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)栗皮表紙。二七・九×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕左肩に、後補水色の書題簽(一七・二×三・六糎)、「中庸私鈔
下」。上巻題簽剥落。

〔内題〕「中庸私抄章句序」。

〔尾題〕「中庸私抄上終」、「中庸私抄章句之終」。

〔本文〕一二行。一行字数不等。

〔匡郭〕四周单边(二二・七×一六・七)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾、中縫、「中抄上(下) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、四〇丁(中庸私抄章句序)、第二冊、四二丁(右第
十五章)、六丁重複)。

〔刊記〕「于時寛永二曆重光作噩初春吉辰／(低十五格) 本屋／(低十六

格) 意齋(一格空) 開板焉」。

〔印記〕「蘇峰学人/徳富氏愛/藏圖書記」(朱方印)、「成簀堂」(双、朱
長方印)、「青山/艸堂」(朱方印、陰刻)、「蘇/峰」(朱方印)、

「志/在天下」(朱印)、他一印。

〔備考〕無書入。後表紙見返しに、「榛沢寺中之院」と墨書。一冊、前表
紙裏には『脈訣』(古活字版、双边無界、一行×一九字、脈訣
末、三六丁表・一〇九行、脈訣末、三四丁裏・一〇二行)。

準漢籍 一 経部

85、論語抄

〔請求番号〕善本書目・六三七頁

〔体裁〕大本一〇冊。

〔表紙〕原裝(押八双有)栗皮表紙。二八・五×二〇・一糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に「論語抄」と朱打付書。右肩に「二(十)」と朱書。

〔内題〕「論語抄」(大字)。

〔尾題〕「論語之抄終」(小字)。

〔本文〕一八行。本文大字、注文小字双行。

〔匡郭〕四周单边(二二・八×一六・一糎)、無界。

〔版心〕黒口双花口魚尾一体型、中縫、「論語抄序(一廿) 丁附」。

〔丁数〕第一冊、五九丁(序・一〇丁、学而第一・二二丁、為政第二・
二八丁)、第二冊、四三丁(八佾第三・二九丁、里仁第四・一四

丁)、第三冊、六〇丁(公冶長第五・三〇丁、雍也第六・三〇

丁)、第四冊、四二丁(述而第七・一九丁、卷首一〇丁欠。泰伯第八・二三丁)、第五冊、四六丁(子罕第九・二六丁、郷党第十・二〇丁)、第六冊、四七丁(先進第十一・二五丁、顔淵第十二・二二丁)、第七冊、五九丁(子路第十三・二三丁、憲問第十四・三六丁)、第八冊、四二丁(衛靈公第十五・二三丁、季氏第十六・一九丁)、第九冊、三九丁(陽貨第十七・二三丁、微子第十八・一六丁)、第一〇冊、二九丁(子張第十九・一六丁、堯曰第二十・二三丁)。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「文/堂」(朱)、「天下之公/寶須愛護」(朱長方印)、「成簣堂」(双、朱長方印)、「徳富氏」(双、朱長方印)、「蘇峰/清賞」(双、朱方印)、「一/寧」(朱方印)、「蘇/峰」(朱方印)、「徳/富」(朱方印)、「蘇峯/珍藏」(朱長方印)、他、三印。

〔備考〕 序に若干の朱書入がある他、墨筆による書入がごくわずかに施されているのみ。

第一冊、前表紙の見返しには領収書(領収證/一金拾二円也/右論語抄の代価として受領/仕候也/二月十四日 若林代 上村觀光(印)/森慶造様)を貼付。箱(論語抄 十冊 古活字)と墨書)入り。川瀬、三六五・七二二・八〇六頁、(一)単辺十八行本、慶長元和中刊。図録篇一四六図に成簣堂文庫本の図版を収む。伝本、静嘉堂文庫藏本等。「(一)単辺十八行本は、本能寺前町版と同種の活字で、殊に孟子抄があるから、その一

類の印行と見てもよからう」(八〇六頁)。

準漢籍 三 子部 (二) 兵家類

86、三略秘抄 清原宣賢編

〔請求番号〕 善本書目・六四四頁

〔体裁〕 大本二冊。

〔表紙〕 後補丹空押巾繫ぎ牡丹唐草文様表紙。二六・五×一九・一糶。四針袋綴。

〔題簽〕 左肩に一部双辺刷椀の題簽が残存するが、本書とは関係のないもの。

〔内題〕 「低二格」三畧秘鈔、「低二格」中畧(二格空)講義三十二卷、「低二格」下畧(二格空)講義三十三卷。

〔尾題〕 「中畧終」。

〔本文〕 一三行×二四字。漢字片仮名交。小型活字。片仮名活字は漢字の活字の大きさに合わせて一字ずつ彫刻されており、漢字片仮名交の古活字版としては珍しい。

〔匡郭〕 四周双辺(二一・二×一五・八糶)、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「三畧上(中・下) 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、七二丁(序・五丁、三畧秘鈔・六七丁)、第二冊、四一丁(中畧・二二丁、下畧・二〇丁。二〇丁表・一、収斂殺伐也)二〇丁裏・13、成周之世二太宰以八栖詔王。以下、二二―二四丁欠。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「徳富氏／圖書記」（朱長方印）。

〔備考〕 中国の兵書『三略』三巻を清原宣賢が『三略講義』と『三略直解』（明・劉寅注）を用い、六代の祖・良賢の抄を参勘して注釈し講義に使用した書。

上冊巻首に張子房図を墨書。上欄等の書入の筆と同筆。川瀬一馬は、本書印行後間もない頃の筆とみる。墨筆で返点、振仮名、送仮名が一部施される他、上欄に書入あり。上欄の書入のうち、上・一〇丁裏「助強者怨註講作怨直作人」の上欄に、「春齋翁云……」とあるのが注意される。映入。帙題簽、蘇峰筆。「活字旧版 三畧秘抄共二」（墨書）。帙内に蘇峰の墨識語あり。「大正丙辰（五年）五月念四経丸／善文行堂而訪琳琅閣／□所獲乃携此一部／還云尔 蘇峯學人」。さらに第一冊の前表紙見返しには、「応安二年己酉ノ末記天文十八年己酉從四位上／行大外記兼博士伊予介清原朝臣枝賢ノ奥／書アリ云々是レ内閣文庫所蔵ノ三畧秘抄写本ノノ跋文ヲ摘記シタルモノ也／大正五五月廿四日 猪誌」と墨書のある紙片を貼付する。

川瀬、三六六・八〇八頁、寛永中刊。「本書所用の活字は片仮名の文字が肉太で一字一字一こまに彫刻せられてゐるのが特色である」（八〇八頁）。伝本他に、大東急記念文庫蔵本・国立公文書館内閣文庫蔵本。

準漢籍 三 子部（二四）道家類

87、莊子抄 存卷第一〜八

〔請求番号〕 善本書目・六四五頁

〔体裁〕 大本四冊。

〔表紙〕 新補濃紺色表紙。二七・四×一九・八糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。第一冊、「莊子抄（墨書）／活字珍本 共四（朱書）慶長活

字版（墨書）／蘇峯老人（朱書）／全部拾卷之内／九・拾卷欠

（墨書）」と朱墨書のある紙をたすき掛けする。

〔内題〕 「莊子卷之一」、「莊子卷第二（〜八）」。

〔尾題〕 「莊子卷第一（〜八）」。

〔本文〕 一三行×二三〜二四字。漢字片仮名交。小型活字使用。

〔匡郭〕 四周单边（二一・八×一六・七糎）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「莊抄卷壹（〜八） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、一一八丁（卷之一・七五丁、卷第二・四三丁）、第二

冊、七六丁（卷第三・四二丁、卷第四・三四丁）、第三冊、七七

丁（卷第五・三二丁、卷第六・四五丁）、第四冊、八四丁（卷第

七・四一丁、卷第八・四三丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「□穴書堂／岩本文庫／藏書之印」（朱方印、第一冊巻首のみ）、

他、右下に朱方印一印。「徳富氏／珍蔵記」（双、朱長方印、陰陽刻）。

〔備考〕 第一冊の見返しに、「九臯子善学莊子故其文體殆／髣髴於莊周之

文」と朱書。卷第一等に若干施される朱引、朱句読点等は、蘇峰の手になるものか。第一冊の後表紙見返しに、鉛筆書購書メモあり。「3・11・20/琳 四冊/5」(大正三年一月二〇日、琳琅閣書店)。川瀬、三六六・八〇八頁、寛永中刊。

準漢籍 三 子部(五) 医家類

88、※指南十五卷抄 二卷 曲直瀬正紹述

〔請求番号〕善本書目・六四四頁

〔体裁〕大本一冊(合冊)。

〔表紙〕後補青色表紙。二六・三×一九・二糎。四針袋綴。薄茶色渋引き覆表紙附。

〔題簽〕左肩に後補双辺刷梓書題簽(一六・八×三・八糎)、「指南十五卷抄曲直瀬正紹述/医学指南篇」。右上に「活字珍書」、右下に「主蘇峯学人」と朱書。覆表紙の左肩には、「医学指南篇 全/活字珍本」と墨書。

〔内題〕無。

〔尾題〕「指南十五卷抄上(下)終」。

〔本文〕每半葉二二行×二三字。漢字片仮名交。

〔匡郭〕四周双辺(二一・五×一六・三糎)、無界。

〔版心〕白口双黒魚尾、中縫、「十五卷抄上(下) 丁附」。

〔丁数〕七二丁(上、医学指南篇一・医法指南篇二・診切指南篇三・立法指南篇四・用藥指南篇五・用藥指南篇六・弁剂指南篇七・弁

治指南篇八、三八丁、下、治療指南篇九・治例指南篇十・治法指南篇十一・脾胃指南篇十二・戒慎指南篇十三・療養指南篇十四・撰養指南篇十五、三三三丁)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「久昌院/藏書」(朱長方印、陰刻)、「酒竹文庫」(朱長方印、大野酒竹)、「徳富氏/圖書記」(朱長方印)。

〔備考〕『十五指南篇』の抄物。卷首五丁(五丁表)まで、墨筆で振仮名等若干の書入があるのみ。後表紙見返しに、鉛筆書購書メモ「4・1・8/村/2、50」(大正四年一月八日、村口書房)。川瀬未載。但し、『新修成實堂文庫善本書目』には著録、寛永頃刊とする。

準漢籍 四 集部(四) 尺牘類

89、五老集

〔請求番号〕善本書目・六四六頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕原裝薄茶色空押雷文襷に小菊文様表紙(大東急記念文庫藏本と同一表紙)。二七・〇×一八・八糎。四針袋綴。右上に「古活字 珍 完」と朱書(蘇峰筆)。

〔題簽〕左肩題簽(一八・四×三・三糎)剥落。「五老集」と墨書。

〔内題〕「(二格低)五老集目錄」。

〔尾題〕無。

〔本文〕 每半葉一〇行×二〇字。

〔匡郭〕 四周双辺（目録、二二・〇×一五・九糎、東坡先生蘇公小簡、二一・一×一五・八糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「五老集（五老集二） 丁附」。

〔丁数〕 八三丁（目録・一丁、東坡先生蘇公小簡・二二丁、仲益尚書孫公小簡・二〇丁、柳南先生蘆公小簡・二二丁、秋崖先生方公小簡・一六丁（12丁補写）、清曠先生趙公小簡・四丁）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 東坡先生蘇公小簡と仲益尚書孫公小簡の巻首右下にのみ「島田翰／讀書記」（朱長方印、陰刻）。「蘇峰文庫」（朱長方印）、「蘇峯／珍藏」（朱長方印）、「徳富／猪式郎／之章」（朱方印・大）、「蘇峰□讀」（朱印以上、目録）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「徳富／猪印」（朱方印・小）、「蘇／峯」（朱方印・小、清曠先生趙公小簡）。

〔備考〕 朱引（若干）、朱句読点が施される他、「古写本」との朱校合が施されている。

川瀬、八三九頁、寛永中刊。図録篇・八五八図と同版。帙題簽、蘇峰筆。「古活字五老集 単 蘇峰珍藏」と墨書。

準漢籍 四 集部（三） 総集類

90、三体詩素隠抄 雪心素隠撰

〔請求番号〕 善本書目・六三五頁

〔体裁〕 大本一三冊。

〔表紙〕 栗皮表紙（裏打修補）。二八・三×二〇・四糎。四針袋綴。第一三冊の後表紙裏に『大魁四書集註 孟子』（整版、双辺無界、九行×一七字、九丁）の刷り反古あり。

〔題簽〕 無。第一冊にのみ外題を朱書。左肩に「三体詩素隠鈔／共拾參冊」、右下に「蘇峯學人」。

〔内題〕 「三体詩集起（大字）／（低十一格）紫陽素隠略取（小字）」、「増註唐賢絶句三体詩法卷之一（四）（大字）」、「唐賢七言律詩三體家法卷二之一（四）（大字）」、「増註唐詩五言律句三體家法卷三之一（五）（大字）」。

〔尾題〕 「増註唐賢絶句三体詩法卷之一（三）」、「絶句二之終（小字）」、「三体絶句卷之四（小字）」、「唐賢七言律詩三體家法卷第二之一（三）」、「増註唐賢七言律詩三體家法卷二之四（低十二格）素隠鈔／于時元和八年壬戌仲夏丙申朔（低七格）草于湘南紫陽山下」、「増註唐詩五言律句三體家法卷三之一（三）終」、「卷三之四終（小字）」、「卷第三之五終（小字）」。

〔本文〕 每半葉八行。抄文、小型活字一六行、一行字数不等。漢字片仮名交。

〔匡郭〕 四周单辺（三体詩集起、二二・七×一六・六糎、絶句卷之一、二二・八×一六・五糎）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「三体詩起（三体絶句之一）四・三体抄二之一（四・三体抄三二・三体抄三之一）五） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、八〇丁（三体詩集起・一四丁、絶句、卷之一・六六丁）、

第二冊、五二丁（絶句、卷之二）、第三冊、五二丁（絶句、卷之三）、第四冊、五八丁（絶句、卷之四）、第五冊、四七丁（律詩、

卷二之一）、第六冊、二四丁（律詩、卷二之二）、第七冊、六一

丁（律詩、卷二之三）、第八冊、五六丁（律詩、卷二之四）、第

九冊、八六丁（律句、卷三之一）、第一〇冊、三〇丁（律句、卷

三之二）、二二・二三丁乱丁、巻尾丁後表紙の見返しに貼付）、第

一一冊、四八丁（律句、卷三之三）、第一二冊、四三丁（律句、

卷三之四）、第一三冊、五八丁（律句、卷三之五）。

〔刊記〕 第四冊（卷之四）の巻末に、「寛永第三寅丙季秋念七 木室二兵

衛尉刊行了」。第八冊（卷第二之四）の巻末に、原刊記「于時元

和八年壬戌仲夏丙申朔／（低七格）草于湘南紫陽下」。

〔印記〕 「徳富氏／圖書記」（朱長方印）。

〔備考〕 朱引、朱句読点が若干施されているのみ。川瀬一馬編著『新

修成篋堂文庫善本書目』（六三五頁）、『増補古活字版之研究』

（三六七頁）では、元和八年刊として著録しているが、寛永三年

刊本の誤認。寛永三年刊本には、甲・乙二版（甲が先行版）あ

るが、本書は乙。龍谷大学大宮図書館蔵本と同版であることを

確認した。

準漢籍 四 集部（三） 総集類

91、笑雲和尚古文真宝之抄 十三卷 釈笑雲（清三）撰

〔請求番号〕 善本書目・六三四頁

〔体裁〕 大本一三冊。

〔表紙〕 後補薄茶色表紙。二五・九×一九・〇糎。四針袋綴。

〔題簽〕 無。巻首に後補の書題簽「笑雲和尚古文真宝之抄」（第一冊）、

「笑雲和尚古文真宝之抄二（十二）」（第二～一二冊）を挟む。

表紙の右肩には「共十三」、左下には「壹（十三）」と墨書。

〔内題〕 「笑雲和尚古文真宝之抄一之一（一之二）」、「古文真宝序」、「魁

本大字諸儒箋解古文真宝卷之一」、「笑雲和尚古文真宝之抄卷之

二」、「笑雲和尚古文真宝之抄二（卷之三・卷之四上・卷之四下・

卷之五上・卷之五下・卷之六・卷之七・卷之八・卷之九・卷之

十）」。

〔尾題〕 「笑雲和尚古文真宝之抄卷之十三終」。

〔本文〕 一八行。本文大字、注（低一格）、小字双行。漢字片仮名交。ゾ

式。

〔匡郭〕 四周单边（一之一、二二・九×一五・六糎）、無界。

〔版心〕 上下黒口黒魚尾（複数の模様入一体型）、中縫、「古文真宝抄

丁附」、「古文真宝抄一之一（十） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、八〇丁（一之一、目錄・一丁、序・七丁、本文・七二

丁）、第二冊、九七丁（一之二）、第三冊、六七丁（卷之二、目

録・一丁、本文・六六丁）、第四冊、八三丁（卷之三、目錄・一

丁、本文・八二丁）、第五冊、六一丁（卷之四上、目録・一丁、本文・六〇丁）、第六冊、五四丁（卷之四下、目録・一丁、本文・五三丁）、第七冊、五六丁（卷之五上、目録・一丁、本文・五五丁）、第八冊、三八丁（卷之五下、目録・一丁、本文・三七丁）、第九冊、五九丁（卷之六、目録・一丁、本文・五八丁）、第一〇冊、五三丁（卷之七、目録・一丁、本文・五二丁）、第一一冊、五三丁（卷之八、目録欠、本文・五三丁）、第一二冊、六五丁（卷之九、目録・一丁、本文・六四丁）、第一三冊、三七丁（卷之十、目録・一丁、本文・三六丁）。

〔刊記〕「（低二格）此鈔者集（一格空）青松（一格空）梅菴（一格空）一元（一格空）湖月／（低二格）之手抄抄之／（低二格）大永五年乙酉九月十五日於歸田／（低二格）書院書畢矣（六格空）清三誌／（一行空）／（低三格）元和三年丁巳孟春如意珠日／（低三格）於雒陽刊行焉」。

〔印記〕「天下之公／寶須愛護」（朱長方印）、「志／在天下」（朱印）、「蘇／峰」（朱方印）、「蘇峰／讀書／記印」（朱方印）、「蘇峰學人／德富氏愛／藏圖書記」（双、朱方印）、「蘇峰／清賞」（朱方印、陰刻）、「青山／艸堂」（朱方印、陰刻）、「成／簀堂／印」（朱印）、「天下之／公寶／須珍惜／愛護／蘇／峰／屬」（双、朱方印）、「德／富／所有」（双、朱方印）、「德／富」（朱方印）、「IT」（朱楷印）、「蘇峯／珍藏」（朱長方印）。他、五印捺さる。

〔備考〕朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている

他、上欄に若干の朱墨による書入あり。天地化粧裁。第一冊、前表紙の見返しに、蘇峰の墨識語。「又曰此書誠拙和尚遺愛也卷中書入／概為和尚手筆焉／此書元和三年於京都活版印行焉編者笑雲／和尚湊合前輩四人之説參之以自個所見／洵藝苑寶典也予別藏寬永版古文真宝／抄焉然与此書对照全然不同矣而固不／若此書周到詳悉也／明治三十八年十二月二十八日第二十二議會／開院式挙行之夕 蘇峰學人」。各冊卷末に「十三卷之内／帰源用」と墨書。川瀬、三六八・八一〇頁、元和三年刊。

準漢籍 四 集部（二）別集類

92、長恨歌抄（唐）白居易撰・清原宣賢編

〔請求番号〕善本書目・六四六頁

〔体裁〕大本一冊。

〔表紙〕栗皮表紙（押八双有）に、渋引きの覆表紙を掛ける。二六・二

×一八・八種。四針袋綴。

〔題簽〕無。栗皮表紙、左肩に、「長恨歌抄 単」、右肩に「古活字珍本」、

右下に「蘇峰秘笈」を朱書。覆表紙左肩に、「長恨歌抄 単」、

右肩に「古活字珍本」、右下に「大正己未（八年）一月念九／蘇

峯學人」と墨書。

〔内題〕「長恨歌（十五格空）白楽天」。

〔尾題〕「長恨歌終」。

〔本文〕一二行×二三字（字数不等）。漢字片仮名交。

〔匡郭〕 单边上下双辺（二一・三×一六・一糶）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「長恨歌 丁附」。

〔丁数〕 三二丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「徳富氏／圖書記」（朱長方印）、「蘇／峰」（朱方印）。

〔備考〕 ごくわずかに返点、振仮名、送仮名が墨筆で施されているのみで、無書人に等しい。後表紙の見返しに蘇峰の墨識語。「予其中堂目錄ニヨリテ之ヲ郵購ス蓋慶長／勅版長恨歌タル可シと推シタレハ也開包失望重／値ヲ投シタルヲ悔サラントスルモ克ハス然モ／翻テ□ルニ是又珍書ノミ珍重獲得／ス可キ也／大正二／一月十五日 猪記」。さらにここに鉛筆書の購書メモあり。「2・1・9／7、50／名其」（大正二年一月九日、名古屋・其中堂）。前表紙見返しの袋に、大正二年一月四日付、其中堂よりのハガキ（長恨歌 七、五〇／元治夢物語 八〇／冥板全書三、〇〇／阿ミタ経随文 一、五〇／和□／期太□□集 二、〇〇／忠経□学 三〇／君学 二〇／金総計十五円五十銭）が入る。

川瀬、三六六・八〇八頁、（二）寛永中刊、单边上下双辺十二行本。図録篇・一五七図に成實堂文庫本の図版を収む。

〔体裁〕 大本四冊。

〔表紙〕 渋引覆表紙附。二七・七×一九・七糶。四針袋綴。第一冊と三冊、前表紙のみ栗皮表紙残存。

〔題簽〕 無。覆表紙の左肩に、「中華若木詩鈔 一（〜四）」と打付書。

第一冊、右から「活字本 共四／大正戊午（七年）霜月十七日於／法常寺獲之 蘇峯學人／題簽文字一絲和尚手筆」と墨書、

第三冊、「題簽文字一絲和尚手筆」と墨書。外題とも全て蘇峰筆。

〔内題〕 中華若木詩抄卷之一（〜四）（二格空） 東山如月和尚註。

〔尾題〕 「一卷終」（小字）、「第二（三）終」（小字）、「中華若木詩抄（二格空） 卷第四之終／（低十格） 東山如月和尚註」（大字）。

〔本文〕 九行×一八字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（二一・九×一六・一糶）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「中華若木詩抄卷之一（〜四） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四五丁（卷之二）、第二冊、四五丁（卷之二）、第三冊、四五丁（卷之三）、第四冊、四四丁（卷之四）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「徳富氏／圖書記」（朱長方印）、「蘇峯／學人」（朱方印）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。帙なし。虫損やや多し。川瀬、三六八・八一〇頁、元和寛永中刊。成實堂文庫には三点の所蔵があるが、同版。

準漢籍 四 集部（三） 総集類

93、中華若木詩抄 四卷 如月寿印註

〔請求番号〕 善本書目・六三九頁

準漢籍 四 集部 (三) 総集類

94、中華若木詩抄 四卷 如月寿印註

〔請求番号〕善本書目・六三九頁

〔体裁〕大本二冊。

〔表紙〕新補薄茶色表紙。二八・〇×二〇・六糎。四針袋綴。

〔題簽〕無。左肩に、「活／字」中華若木詩抄 乾(坤)と打付書。右

下に「蘇峰秘笈」、綴じ目下部に「共二」と墨書。

〔内題〕中華若木詩抄卷之一(一)四(二)格空 東山如月和尚註。

〔尾題〕「一卷終」(小字)、「第二(三)終」(小字)、「中華若木詩抄(二

格空) 卷第四之終」(低十格) 東山如月和尚註」(大字)。

〔本文〕九行×一八字、注小字双行。

〔匡郭〕四周双辺(二一・九×一六・一糎)、無界。

〔版心〕黒口及花口魚尾、中縫、「中華若木詩抄卷之一(一)四」丁附。

〔丁数〕第一冊、九〇丁(卷之一・四五丁、卷之二・四五丁、合冊)、第

二冊、八九丁(卷之三・四五丁、卷之四・四四丁、合冊)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「トク／トミ」(朱菱形印)、「蘇／峰」(朱菱形印)。他一印。

〔備考〕朱句読点が施されるのみ。第一冊の前表紙見返し、前遊紙、第

二冊の前遊紙に蘇峰による墨識語。「大正五年六月九日從丹波

法常寺／贈來佛頂國師手沢本冷齋夜話一冊及中華若木／三冊中

華若木宛与此書同矣但／憾欠第二卷一冊也／大正丙辰六月十日

／於觀瀾亭 蘇峯學人」(「憾欠第二卷也」)に該当する本は、次

項95の本)「此書活字板式慶長寛永間ナル可シ早くも慶長ヨリ上

ラス晩／クモ寛永ヨリ下ラサル可シ予鎌倉古禪院ニ於て此を得

たり／予別ニ整板ノ延寶板ヲ蔵ス併セ觀ル可シ／明治卅九年三

月初一 蘇峰学人」(「大正丙辰六月予於多摩河畔／跡地一區予

卜墓田地勢□／阜陵臨河域孤松一株□／然独□峽山駿岳□□

／雲烟□□中洵好墓田／也乃欣然□小詩云尔／落々孤松帶野烟

武相雲／接土峯巔不須身后画／麟閣碧玉河原好墓／田 大正五

年六月十日／於觀瀾亭上／蘇峯生」。映入り。題簽、「古板活字

中華若木抄共二老龍庵珍藏」。川瀬、三六八・八一〇頁、元和寛

永中刊。

準漢籍 四 集部 (三) 総集類

95、中華若木詩抄 四卷 如月寿印註

〔請求番号〕善本書目・六三九頁

〔体裁〕大本三冊。

〔表紙〕原裝の栗皮表紙に洪引覆表紙附。二七・八×一九・八糎。四針

袋綴。

〔題簽〕無。栗皮表紙、第一冊、左肩に、「中華若木詩抄 甲」、右から

「共三冊／每卷首鈴一絲印／活字本／一絲和尚手沢」と朱書。第

二冊、左肩に、「中華若木詩抄 乙」、右から「蘇峯生／己 每

卷頭鈴一絲印／一絲和尚手沢」と朱書。第三冊、左肩に、「中華

若木詩抄 丙」、右から「己 止／一絲和尚手沢／每卷首鈴一絲

印」と朱書。覆表紙、左肩に「中華若木抄 一（三）」、第一冊、右から「共三／活字本 蘇峰秘笈／一絲和尚手沢」と墨書。第三冊、右下に「止」と墨書。

〔内題〕 中華若木詩抄卷之一（三・四）（二格空） 東山如月和尚註。

〔尾題〕 「一卷終」（小字）、「第三終」（小字）、「中華若木詩抄（二格空）卷第四之終」（低十格） 東山如月和尚註（大字）。

〔本文〕 九行×一八字、注小字双行。

〔匡郭〕 四周双辺（二一・九×一六・二糶）、無界。

〔版心〕 黒口双花口魚尾、中縫、「中華若木詩抄卷之一（三・四） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、四五丁（卷之一）、第二冊、四五丁（卷之三）、第三冊、四四丁（卷之四）。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「一／絲」（朱印、陰刻）、「蘇峰／清賞」（双、朱方印）、「蘇峰／審定」（朱方印）。

〔備考〕 朱引、朱句読点、墨筆で返点、振仮名、送仮名が施されている。

第一冊の前表紙見返しに蘇峰の識語。「別蔵一部于老龍菴（朱筆）／大正丙辰首夏應上村閑堂／需貽大棟夜話五部于法常／寺方丈云々酬以此書及冷／齋夜話計四冊俱是一絲和／尚手沢云尔 六月廿七日猪誌／大正五年六月念七修補／全三冊第二卷欠／蘇峯生」。各冊とも巻末に、「丹州法常禪寺常住壹部三冊」と墨書。川瀬、三六八・八一〇頁、元和寛水中刊。

準漢籍 四 集部（二） 別集類
96、四河入海 二五卷 笑雲清三編

〔請求番号〕 善本書目・六三〇頁

〔体裁〕 大本、一〇〇冊。

〔表紙〕 原装（押八双有） 茶色（栗皮） 表紙。二七・七×二〇・二糶。四針袋綴。第八〇冊と第九七冊の前表紙は欠。

〔題簽〕 無。無題。

〔内題〕 「四河入海卷第一之一（二格空） 前建長笑雲清三述／増刊校正百家註東坡先生詩序」（低六格） 状元王公（一格空） 十册（一格空） 龟齡譯、「増刊校正王状元集註分類東坡先生詩註氏」（低四格） 状元王公（一格空） 十册（一格空） 龟齡（一格空） 纂集、「王状元集百家註分類東坡先生詩卷之一」（「四河入海卷第廿五之四（一格空） 前建長笑雲清三述」）。

〔尾題〕 「四河入海卷第一之一」（「低二格） 四河入海卷第二十五之四（一格空） 終」。

〔本文〕 序、每半葉九行×一八字、大型活字使用。注釈本文、每半葉一七行×一八字、詩本文は大型活字、注釈本文は小型活字を使用。

〔匡郭〕 四周单辺（二二・一×一六・三糶）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「東坡序（氏・四河入海一之一（廿五之四） 丁附」。

〔丁数〕 第一冊、六五丁（序・卷一之一）、第二冊、七七丁（卷一之二）、

第三册、七六丁（卷一之三）、第四册、八二丁（卷一之四）、第五册、五二丁（卷二之一）、第六册、六四丁（卷二之二）、第七册、三九丁（卷二之三）、第八册、四二丁（卷二之四）、第九册、六七丁（卷三之一）、第一〇册、七九丁（卷三之二）、第一一册、五三丁（卷三之三）、第一二册、四九丁（卷三之四）、第一三册、六三丁（卷四之一）、第一四册、六九丁（卷四之二）、第一五册、六二丁（卷四之三）、第一六册、六一丁（卷四之四）、第一七册、五七丁（卷五之一）、第一八册、五六丁（卷五之二）、第一九册、七七丁（卷五之三）、第二〇册、四八丁（卷五之四）、第二一册、五八丁（卷六之一）、第二二册、五八丁（卷六之二）、第二三册、四五丁（卷六之三）、第二四册、四六丁（卷六之四）、第二五册、七〇丁（卷七之一）、第二六册、七一丁（卷七之二）、第二七册、五五丁（卷七之三）、第二八册、六三丁（卷七之四）、第二九册、六四丁（卷八之一）、第三〇册、七四丁（卷八之二）、第三一册、五三丁（卷八之三）、第三二册、五〇丁（卷八之四）、第三三册、四九丁（卷九之一）、第三四册、六〇丁（卷九之二）、第三五册、五〇丁（卷九之三）、第三六册、五一丁（卷九之四）、第三七册、五一丁（卷十之一）、第三八册、五〇丁（卷十之二）、第三九册、四八丁（卷十之三）、第四〇册、四五丁（卷十之四）、第四一册、六二丁（卷十一之一）、第四二册、五八丁（卷十一之二）、第四三册、五八丁（卷十一之三）、第四四册、五八丁（卷十一之四）、第四五册、五二丁（卷十二之一）、第四六册、五五丁（卷

十二之二）、第四七册、四九丁（卷十二之三）、第四八册、四七丁（卷十二之四）、第四九册、六五丁（卷十三之一）、第五〇册、六一丁（卷十三之二）、第五一册、四六丁（卷十三之三）、第五二册、四九丁（卷十三之四）、第五三册、四五丁（卷十四之一）、第五四册、五一丁（卷十四之二）、第五五册、五〇丁（卷一四之三）、第五六册、五四丁（卷十四之四）、第五七册、四四丁（卷十五之一）、第五八册、三六丁（卷十五之二）、第五九册、四七丁（卷十五之三）、第六〇册、四四丁（卷十五之四）、第六一册、六四丁（卷十六之一）、第六二册、六一丁（卷十六之二）、第六三册、五三丁（卷十六之三）、第六四册、五九丁（卷十六之四）、第六五册、六一丁（卷十七之一）、第六六册、五四丁（卷十七之二）、第六七册、五六丁（卷十七之三）、第六八册、五四丁（卷十七之四）、第六九册、六七丁（卷十八之一）、第七〇册、六七丁（卷十八之二）、第七一册、六一丁（卷十八之三）、第七二册、五九丁（卷十八之四）、第七三册、一〇〇丁（卷一九之一）、第七四册、一〇四丁（卷一九之二）、第七五册、八七丁（卷十九之三）、第七六册、八五丁（卷十九之四）、第七七册、四九丁（卷廿之一）、第七八册、五二丁（卷廿之二）、第七九册、五六丁（卷廿之三）、第八〇册、五五丁（卷二十之四）、第八一册、六〇丁（卷廿一之一）、第八二册、五九丁（卷廿一之二）、第八三册、六〇丁（卷廿一之三）、第八四册、五七丁（卷廿一之四）、第八五册、五四丁（卷廿二之一）、第八六册、

五四丁（卷廿二之二、五二丁欠）、第八七冊、五八丁（卷廿二之三）、第八八冊、五七丁（卷廿二之四）、第八九冊、五三丁（卷廿三之一）、第九〇冊、五六丁（卷廿三之二）、第九一冊、五九丁（卷廿三之三）、第九二冊、五七丁（卷廿三之四）、第九三冊、七四丁（卷廿四之一）、第九四冊、七五丁（卷廿四之二）、第九五冊、七四丁（卷廿四之三）、第九六冊、七三丁（卷廿四之四）、第九七冊、六三丁（卷廿五之一）、第九八冊、六三丁（卷廿五之二）、第九九冊、七六丁（卷廿五之三）、第一〇〇冊、六四丁（卷廿五之四）。他、各冊ともに前遊紙各一丁。

〔刊記〕 無。

〔印記〕 「祥雲寺」（朱長方印）、「祥雲／寺印」（墨方印）、「蘇峰學人／徳富氏愛／藏圖書記」（双、朱方印）。

〔備考〕 宋の蘇東坡（一〇三六一—一〇一〇）の詩集に注解を加えた抄物。書名は、大岳周崇の「翰苑遺芳」、瑞溪周鳳の「脞説」、万里集九の「天下白」、一韓智翹が桃源瑞仙の講義録を纏めた「一韓聴書」の四書に自説を合わせて編んだことに由来する。

第一冊に朱句読点と朱傍点若干、第二六冊の一二丁裏に朱引、朱句読点、第三七冊、四九冊に朱引、朱句読点、朱墨で返点、振仮名、送仮名、その他、第五〇冊、五三冊、五五冊、五六冊等に若干の書入あり。川瀬三六七・八〇九頁、慶長元和中刊。

準漢籍 四 集部（二） 別集類

97、帳中香 二〇巻序三巻 万里集九編

〔請求番号〕 善本書目・六三一頁

〔体裁〕 大本、四二冊。

〔表紙〕 薄茶色裏打改装表紙。二八・二×二〇・五糎。五針袋綴。

〔題簽〕 無。左肩に、「帳中（鈔／卷北葦上／叙上）（〜巻二十之下）」と打付書。

〔内題〕 「帳中香叙部之上（一格空）（天社任淵序／鄱陽許尹叙）」、「帳中香叙部之中」、「詩解序」（樵雲云任淵同時作庭堅無已詩注／解携来請序其首故云予章後山詩解序）、「帳中香叙之下」、「帳中香卷第一之上（〜二十之下）」。

〔尾題〕 「帳中香叙部之上（中）」、「帳中香叙部之下」（低八格）梅花無尽藏漆桶万里編」、「帳中香卷第一之上（〜二十之下）」／（低八格）梅花無尽藏漆桶万里編。

〔本文〕 小字、每半葉一七行×一八字。本文は大字。

〔匡郭〕 四周单边（叙、一一・一六×一六・五糎、一之上、二一・五×一六・五糎）、無界。

〔版心〕 黒口双黒魚尾、中縫、「帳中香叙之上（中・下、一之上〜二十之下） 丁附」。

〔丁数〕 第二冊、二八丁（叙部之上・八丁、叙部之中・二〇丁）、第二冊、三二丁（詩解序・一丁、叙之下・三〇丁）、第三冊、六五丁（巻第一之上）、第四冊、五六丁（巻第一之下）、第五冊、三七丁（巻

第二之上)、第六冊、四一丁(卷第二之下)、第七冊、三五丁(卷第三之上)、第八冊、三六丁(卷第三之下)、第九冊、四〇丁(卷第四之上)、第一〇冊、三〇丁(卷第四之下)、第一一冊、四〇丁(卷第五之上)、第二二冊、三七丁(卷第五之下)、第一三冊、五四丁(卷第六之上)、第一四冊、五〇丁(卷第六之下)、第一五冊、四五丁(卷第七之上)、第一六冊、四四丁(卷第七之下)、第一七冊、五〇丁(卷第八之上)、第一八冊、四二丁(卷第八之下)、第一九冊、五七丁(卷第九之上)、第二〇冊、五五丁(卷第九之下)、第二一冊、四〇丁(卷第十之上)、第二二冊、三九丁(卷第十之下)、第二三冊、六一丁(卷第十一之上)、第二四冊、五三丁(卷第十一之下)、第二五冊、五二丁(卷第十二之上)、第二六冊、五四丁(卷第十二下)、第二七冊、四四丁(卷第十三之上)、第二八冊、四二丁(卷第十三之下)、第二九冊、四五丁(卷第十四之上)、第三〇冊、三九丁(卷第十四之下)、第三一冊、三七丁(卷第十五之上)、第三二冊、三三丁(卷第十五之下)、第三三冊、三四丁(卷第十六之上)、第三四冊、三六丁(卷第十六之下)、第三五冊、三六丁(卷第十七之上)、第三六冊、三七丁(卷第十七下)、第三七冊、三二丁(卷第十八之上)、第三八冊、三二丁(卷第十八之下)、第三九冊、三六丁(卷第十九之上)、第四〇冊、三六丁(卷第十九之下)、第四一冊、四七丁(卷第二十之上)、第四二冊、四三丁(卷第二十之下、卷末に「明応八年(巳/未)夏五如意珠日/梅花無

尺藏漆桶万里編謹跋)。

〔刊記〕無。

〔印記〕「臨濟/二十四世」(朱方印、陰)、「鐵牛/機印」(朱方印、陰)、「洒竹文庫」(朱長方印、大野洒竹)「蘇峰學人/徳富氏愛/蔵圖書記」(双、朱方印・大)。

〔備考〕室町時代の禅僧、万里集九(一四二八?)編。宋代の詩人、黄庭堅の詩を注釈したもの。全丁に朱引、朱句説点、朱墨により返点、振仮名、送仮名が若干施されている。虫損裏打修補。第四二冊の後表紙見返しには、蘇峰の識語を墨書した紙片を貼付する。「往年於琳琅閣購帳中香主人求値三十円/遂不果尔来聞於洒竹氏有二本而其/一本有欲沽之於予(従□其書為残念書香購去/之意代亦不果今)/幸得購洒竹氏藏儲之善本□/獲似与予有□□者云尔/大正四/一月廿日/猪記」。桐箱入、蓋表に「活字版/帳中香(鐵牛/蔵本)」、蓋裏に「大正四年一月十八日於洒竹文庫/購焉/此書為鉄牛和尚旧儲/須珍重宝猪云尔/蘇峯學人/全四十二冊」、箱底部に「昭和六年六/月初五修/理成面目/一新焉/蘇峰六十九/叟」、箱側面には「一三五四」と墨書のある紙片を貼付。

川瀬、三六七・八〇九頁、慶長元和中刊。

【付記】

本稿は、国文学研究資料館の共同研究（一般）、「国文学研究資料館所蔵マイクロ・デジタル資料を利用した古活字版総合目録作成の試み」（研究代表者・高木浩明、近畿大学・非常勤講師、研究期間…二〇二一年度～二〇二三年度）の一環として行った調査の成果を報告するものである。調査に当たって、石川武美記念図書館成篋堂文庫の関係各位には、調査の趣旨を理解して、格別なるご配慮、ご協力を賜った。深謝申し上げる。

【第四十三号・一二二頁、『施氏七書講義』の項、訂正】

〔内題〕「武学上舎施氏七書講義目録」、「施氏七書講義卷一（卷第二・三・五～十一）」（卷第十一、「講義」を「義講」とする）、「施氏孫子講義卷第四」、「施氏呉子講義卷第十二（～十六）」、「施氏司馬法講義卷第十七（～二十一）」（卷第二十、「講義」を「解義」とする）、「施氏尉繚子解義卷第二十二（～二十九・卷第三十）」、「施氏三略講義卷第三十一（～三十三）」、「施氏六韜講義卷第三十四（～三十九）」（卷第三十七、「講義」を「講議」とする）、「施氏問对講義卷第四十（～四十二）」。

〔尾題〕「（低一格）武学上舎施氏七書講義目録終」、「施氏孫子講義卷第一（一）終」、「施氏七書講義卷第三（～十一）終」（卷第七、「施氏」を「施子」とする）、「施氏呉子講義卷第十二（～十六）終」、「施氏司馬法講義卷第十七（～二十一）終」、「施氏尉繚子解義卷第二十二（～二十八・卷第二十九・卷第三十）終」、「施氏三

略講義卷第三十一（～三十三）終」、「施氏六韜講義卷第三十四（～三十九）終」、「施氏問对講義卷第四十（～四十二）終」（卷第四十一、「終」なし）。

